
Ⅱ 調査の結果【一般市民】

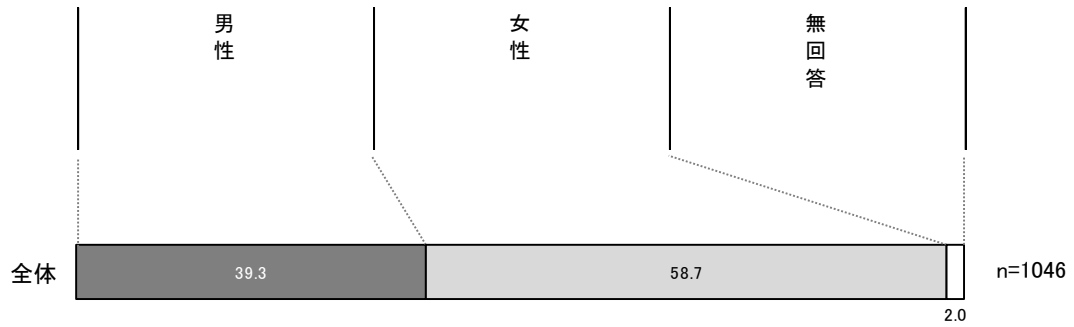
<回答者の属性別件数>

【一般市民】

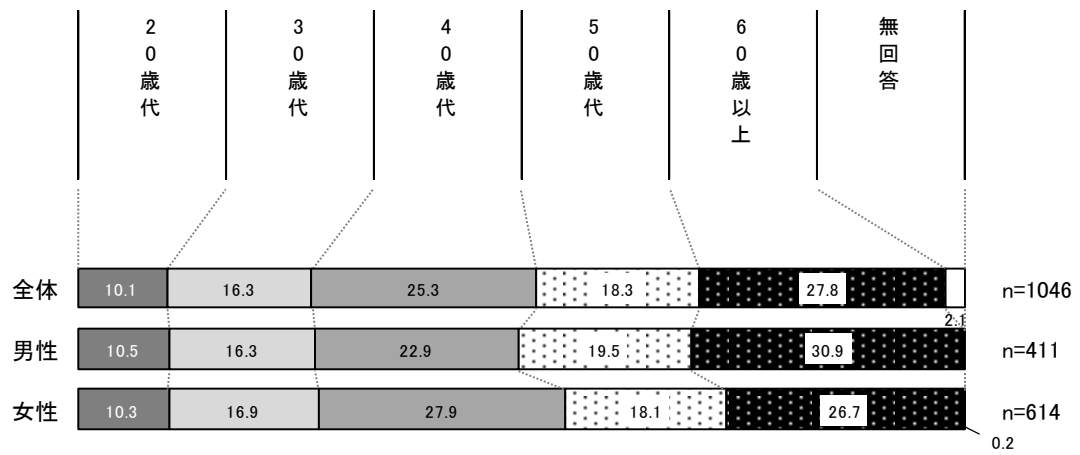
性別 n=1,046	男性	女性	無回答			
	411	614	21			
年齢 n=1,046	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答
	106	171	265	191	291	22
婚姻状況 n=1,046	既婚	未婚	離別	死別	無回答	
	757	184	58	24	23	
本人の職業 n=1,046	会社員	公務員	派遣・契約社員	パート・アルバイト	自営業	農業
	320	53	30	210	65	3
	内職・在宅就業	専業主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
	9	174	24	100	27	31
配偶者の職業 n=757	会社員	公務員	派遣・契約社員	パート・アルバイト	自営業	農業
	321	33	20	96	60	2
	内職・在宅就業	専業主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
	3	83	—	116	9	14
子どもの有無 n=1,046	いる	いない	無回答			
	739	220	87			
子どもの人数 n=739	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
	160	401	158	10	2	8
一番下の子どもの年齢 n=739	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	無回答
	115	91	71	80	374	8
同居している家族構成 n=1,046	夫婦のみ	夫婦と子ども	夫婦と親	親・子・孫の三世代	母または父と子ども	単身
	212	430	38	100	75	89
	その他	無回答				
	61	41				

1 回答者の属性

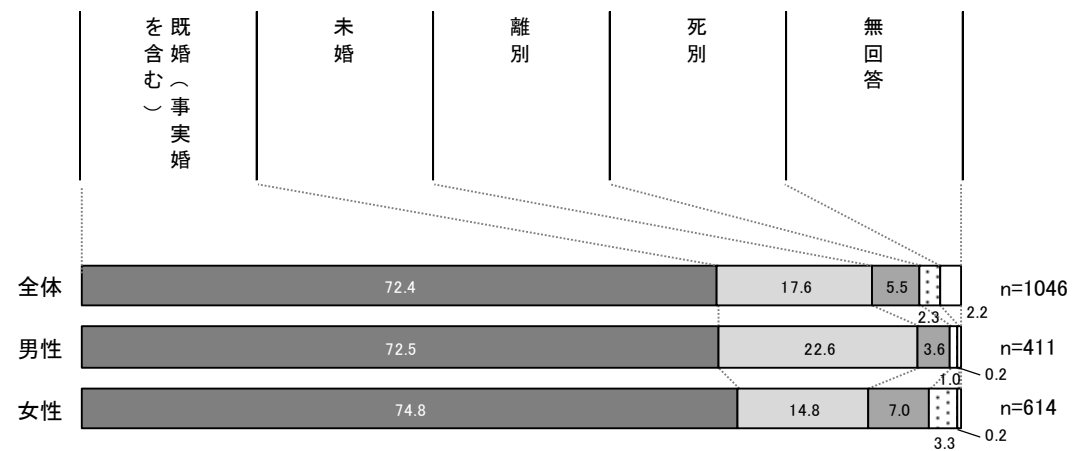
<性別>



<年齢>



<婚姻状況>



II 調査の結果【一般市民】

<職業>

●本人の職業

(%)

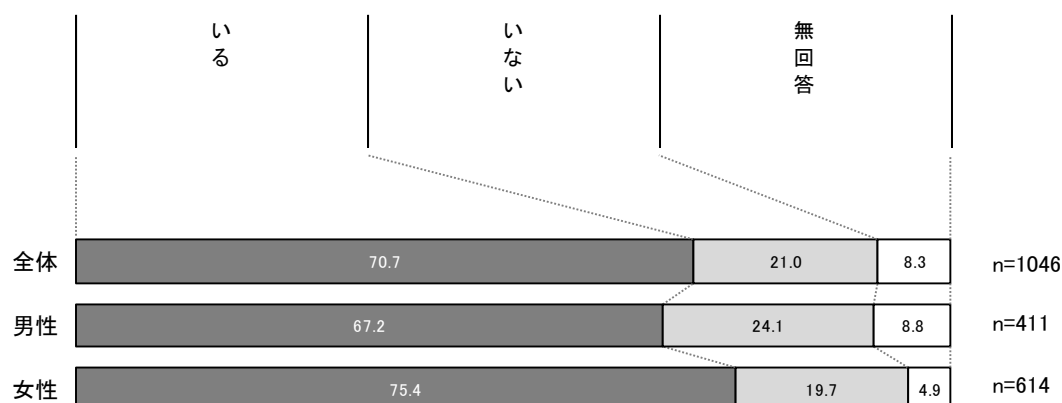
	会社員	公務員	派遣・契約社員	パートタイム・アルバイト	自営業	農業	内職・在宅就業	専業主夫	専業主婦・専業主業	学生	無職	その他	無回答
全体 n=1046	30.6	5.1	2.9	20.1	6.2	0.3	0.9	16.6	2.3	9.6	2.6	3.0	
男性 n=411	52.8	6.8	2.4	7.1	9.2	0.7	—	0.5	3.2	14.4	2.4	0.5	
女性 n=614	16.8	4.1	3.3	29.5	4.4	—	1.5	28.0	1.8	6.7	2.8	1.3	

●配偶者の職業

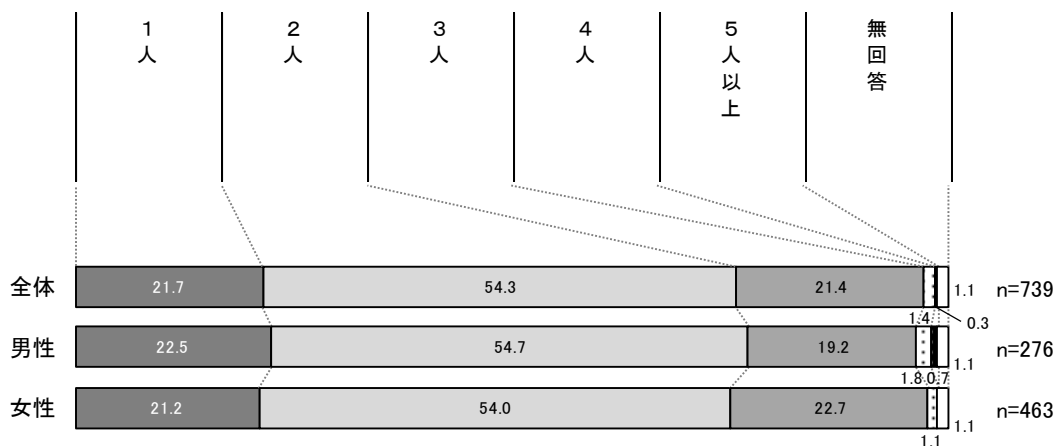
(%)

	会社員	公務員	派遣・契約社員	パートタイム・アルバイト	自営業	農業	内職・在宅就業	専業主夫	専業主婦・専業主業	学生	無職	その他	無回答
全体 n=757	42.4	4.4	2.6	12.7	7.9	0.3	0.4	11.0	—	15.3	1.2	1.8	
男性 n=298	17.1	3.4	2.7	26.2	5.0	—	1.0	26.2	—	17.4	—	1.0	
女性 n=459	58.8	5.0	2.6	3.9	9.8	0.4	—	1.1	—	13.9	2.0	2.4	

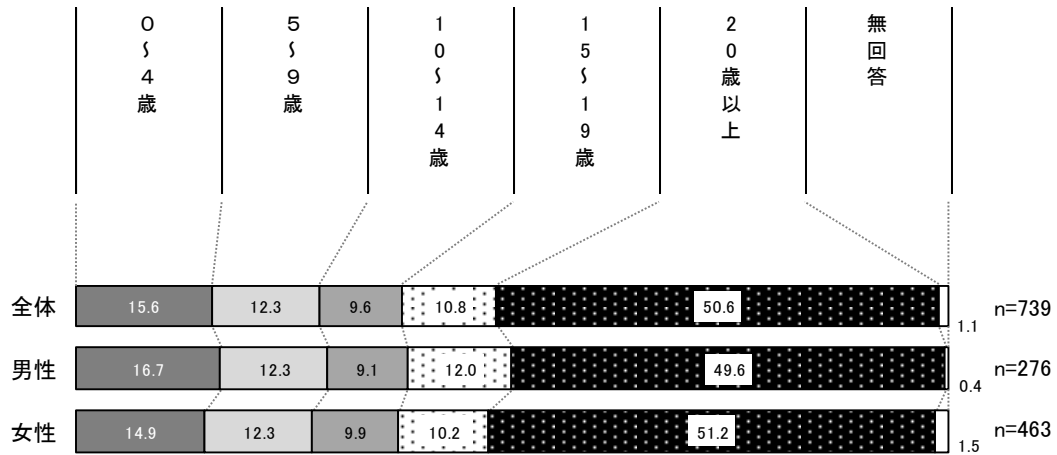
<子どもの有無>



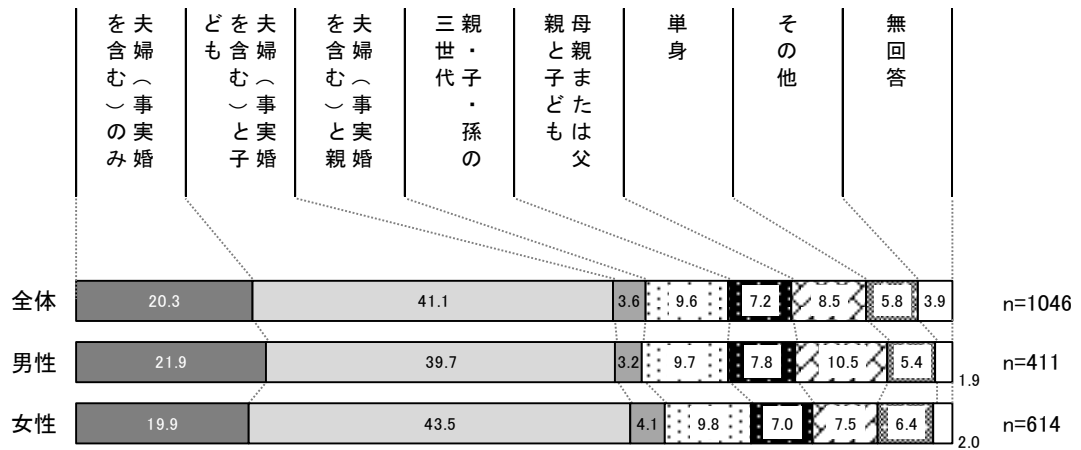
<子どもの人数>



<一番下の子どもの年齢>



<同居している家族構成>



2 男女の平等意識について

2-1 各分野における男女の地位

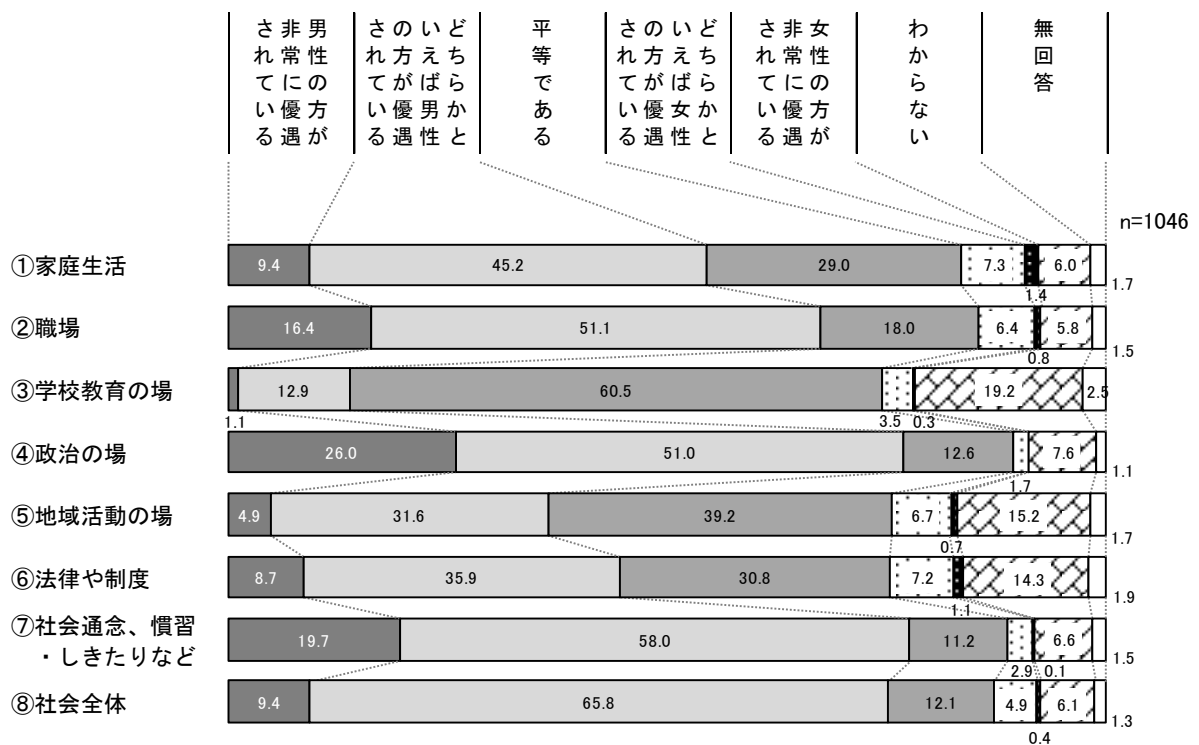
問1 今の社会において、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 次の①～⑧についてあなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

◆『男性優遇』が高い分野は、「社会通念、慣習・しきたりなど」、「政治の場」、「社会全体」で7割以上

◆「平等である」は「学校教育の場」で約6割と他の分野に比べて高い

	①家庭生活	②職場	③学校教育の場	④政治の場	⑤地域活動の場	⑥法律や制度	⑦社会通念、慣習等	⑧社会全体
『男性優遇』	54.6%	67.5%	14.0%	77.0%	36.5%	44.6%	77.7%	75.2%
男性の方が非常に優遇	9.4%	16.4%	1.1%	26.0%	4.9%	8.7%	19.7%	9.4%
どちらかといえば男性	45.2%	51.1%	12.9%	51.0%	31.6%	35.9%	58.0%	65.8%
平等である	29.0%	18.0%	60.5%	12.6%	39.2%	30.8%	11.2%	12.1%
『女性優遇』	8.7%	7.2%	3.8%	1.7%	7.4%	8.3%	3.0%	5.3%
どちらかといえば女性	7.3%	6.4%	3.5%	1.7%	6.7%	7.2%	2.9%	4.9%
女性の方が非常に優遇	1.4%	0.8%	0.3%	—	0.7%	1.1%	0.1%	0.4%

『男性優遇』…「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算
 『女性優遇』…「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合算

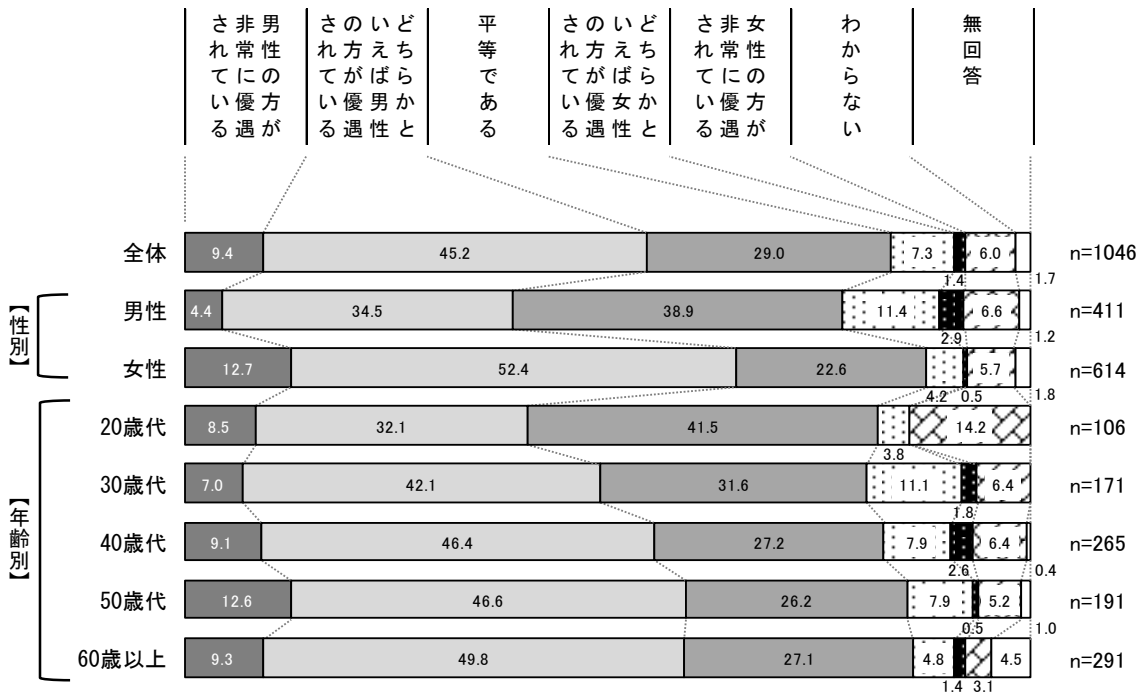


<①家庭生活>

◆『男性優遇』は54.6%、「平等である」は29.0%、『女性優遇』は8.7%

◆性別でみると、女性は『男性優遇』が男性より26.2ポイント高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	54.6%	50.3%	55.5%
男性の方が非常に優遇されている	9.4%	7.9%	10.4%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	45.2%	42.4%	45.1%
平等である	29.0%	32.9%	27.1%
『女性優遇』	8.7%	9.2%	9.3%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	7.3%	8.1%	8.2%
女性の方が非常に優遇されている	1.4%	1.1%	1.1%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（45.2%）が最も高く、次いで「平等である」（29.0%）が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より高くなっています。

【性別】

性別で大きく意識が異なり、女性は『男性優遇』が65.1%と高く、男性（38.9%）より26.2ポイント高くなっています。

男性は『男性優遇』（38.9%）と「平等である」（38.9%）が同じ割合になっており、「平等である」が女性（22.6%）より16.3ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「平等である」が41.5%と高く、『男性優遇』（40.6%）とほぼ同じ割合になっています。50歳代・60歳以上は『男性優遇』が約60%と高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【性・年齢別】

どの年代も男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっていますが、30歳代は特に意識の差が大きく、女性（66.3%）が男性（22.4%）より43.9ポイント高くなっています。

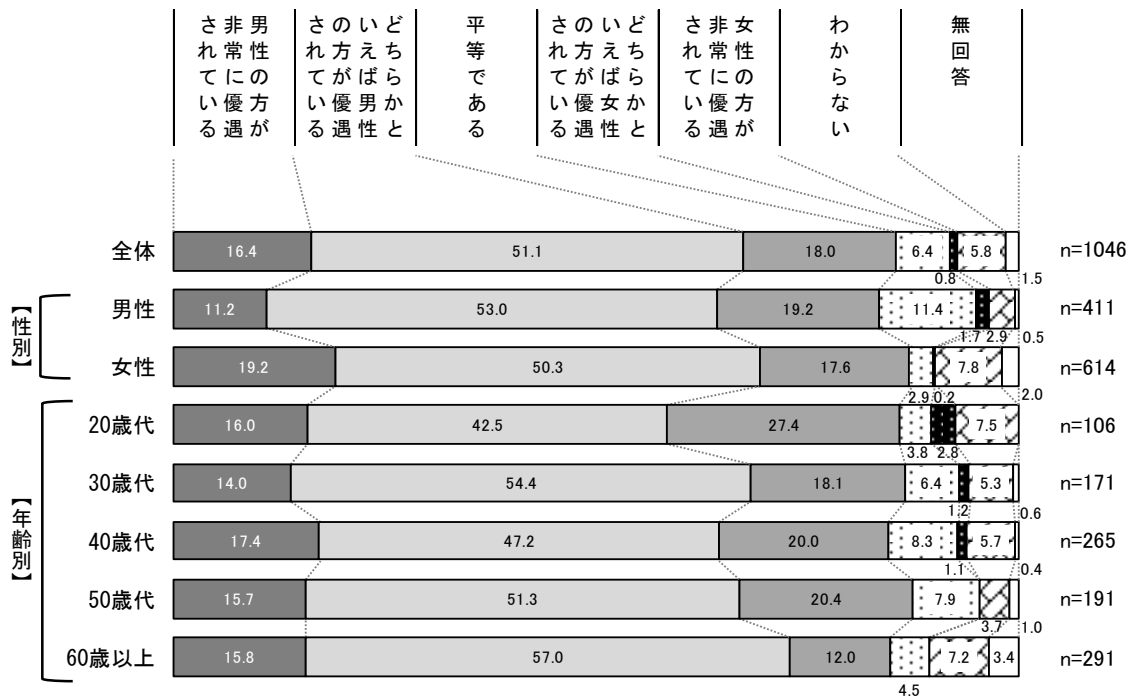
(%)

		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇 されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇 されている	わからない	無回答
全体		1,046	54.6	9.4	45.2	29.0	8.7	7.3	1.4	6.0	1.7
20歳代	男性	43	23.3	—	23.3	48.8	2.3	2.3	—	25.6	—
	女性	63	52.4	14.3	38.1	36.5	4.8	4.8	—	6.3	—
30歳代	男性	67	22.4	—	22.4	44.8	23.9	20.9	3.0	9.0	—
	女性	104	66.3	11.5	54.8	23.1	5.8	4.8	1.0	4.8	—
40歳代	男性	94	40.4	6.4	34.0	36.2	18.1	12.8	5.3	5.3	—
	女性	171	63.7	10.5	53.2	22.2	6.5	5.3	1.2	7.0	0.6
50歳代	男性	80	43.8	3.8	40.0	38.8	15.1	13.8	1.3	1.3	1.3
	女性	111	70.3	18.9	51.4	17.1	3.6	3.6	—	8.1	0.9
60歳以上	男性	127	48.8	7.1	41.7	34.6	10.2	7.1	3.1	3.1	3.1
	女性	164	67.1	11.0	56.1	21.3	3.0	3.0	—	3.0	5.5

<②職場>

◆『男性優遇』は67.5%、「平等である」は18.0%、『女性優遇』は7.2%

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	67.5%	63.9%	72.6%
男性の方が非常に優遇されている	16.4%	18.3%	22.2%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	51.1%	45.6%	50.4%
平等である	18.0%	19.4%	16.1%
『女性優遇』	7.2%	7.7%	2.9%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.4%	6.9%	2.9%
女性の方が非常に優遇されている	0.8%	0.8%	0.0%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(51.1%)が最も高く、次いで「平等である」(18.0%)が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より約50ポイント高くなっています。

【性別】

女性は『男性優遇』が69.5%と高く、男性(64.2%)より5.3ポイント高くなっています。

男性は『女性優遇』(13.1%)が女性(3.1%)より10.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「平等である」(27.4%)が他の年代に比べて高くなっています。

60歳以上は『男性優遇』(72.8%)が他の年代に比べて高くなっています。

Ⅱ 調査の結果【一般市民】

【性・年齢別】

60歳以上を除くすべての年代で、男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっています。

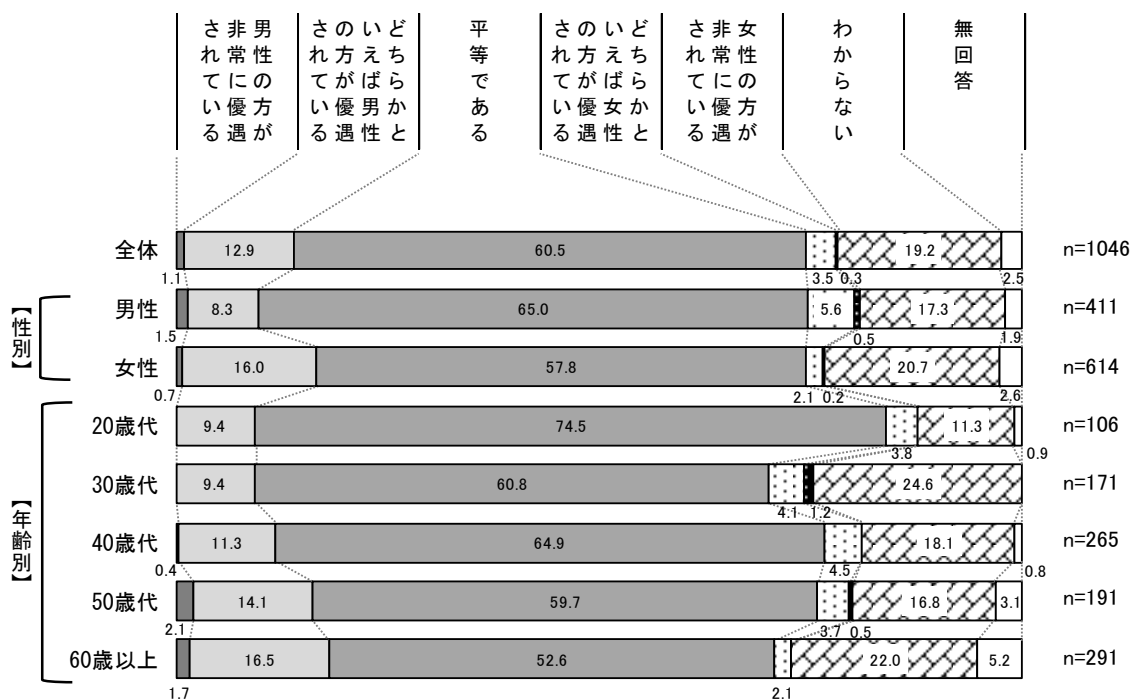
(%)

		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全 体		1,046	67.5	16.4	51.1	18.0	7.2	6.4	0.8	5.8	1.5
20歳代	男性	43	55.8	9.3	46.5	18.6	16.3	9.3	7.0	9.3	—
	女性	63	60.3	20.6	39.7	33.3	—	—	—	6.3	—
30歳代	男性	67	64.1	11.9	52.2	20.9	13.4	10.4	3.0	1.5	—
	女性	104	71.2	15.4	55.8	16.3	3.8	3.8	—	7.7	1.0
40歳代	男性	94	58.5	10.6	47.9	20.2	19.1	17.0	2.1	2.1	—
	女性	171	67.9	21.1	46.8	19.9	4.1	3.5	0.6	7.6	0.6
50歳代	男性	80	61.3	8.8	52.5	22.5	16.3	16.3	—	—	—
	女性	111	71.2	20.7	50.5	18.9	1.8	1.8	—	6.3	1.8
60歳以上	男性	127	73.2	13.4	59.8	15.7	5.5	5.5	—	3.9	1.6
	女性	164	72.6	17.7	54.9	9.1	3.7	3.7	—	9.8	4.9

<③学校教育の場>

- ◆『男性優遇』は14.0%、「平等である」は60.5%、『女性優遇』は3.8%
- ◆「平等である」が他の分野に比べて高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	14.0%	12.2%	16.1%
男性の方が非常に優遇されている	1.1%	1.5%	2.7%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	12.9%	10.7%	13.4%
平等である	60.5%	57.8%	63.4%
『女性優遇』	3.8%	3.7%	4.3%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	3.5%	3.2%	3.6%
女性の方が非常に優遇されている	0.3%	0.5%	0.7%



【全体】

「平等である」(60.5%)が最も高く、「平等である」が『男性優遇』(14.0%)より40ポイント以上高くなっています。

【性別】

男性は「平等である」(65.0%)が女性(57.8%)より7.2ポイント高くなっています。女性は『男性優遇』(16.7%)が男性(9.8%)より6.9ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「平等である」(74.5%)が他の年代に比べて高くなっています。60歳以上は『男性優遇』(18.2%)が他の年代に比べて高くなっています。

Ⅱ 調査の結果【一般市民】

【性・年齢別】

どの年代も女性に比べ男性の方が「平等である」が高くなっています。特に60歳以上の男性（60.6%）は女性（46.3%）より14.3ポイント高くなっています。

(%)

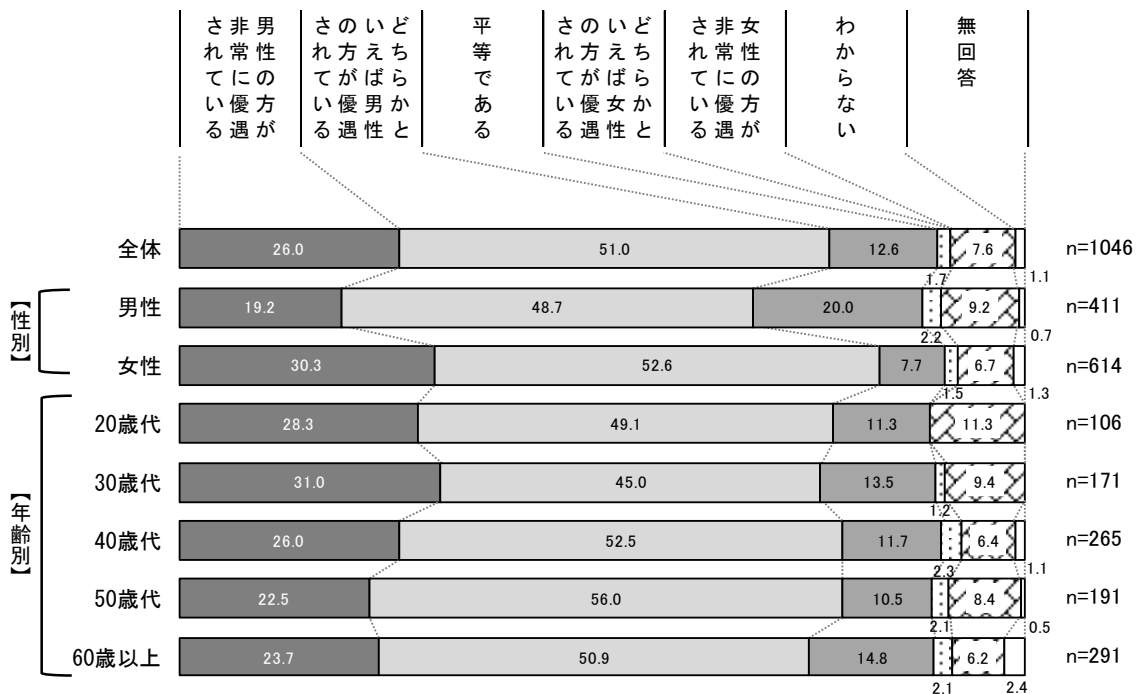
		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇 されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇 されている	わからない	無回答
全体		1,046	14.0	1.1	12.9	60.5	3.8	3.5	0.3	19.2	2.5
20歳代	男性	43	4.7	—	4.7	76.7	7.0	7.0	—	11.6	—
	女性	63	12.7	—	12.7	73.0	1.6	1.6	—	11.1	1.6
30歳代	男性	67	6.0	—	6.0	62.7	7.5	4.5	3.0	23.9	—
	女性	104	11.5	—	11.5	59.6	3.8	3.8	—	25.0	—
40歳代	男性	94	9.6	—	9.6	69.1	6.4	6.4	—	13.8	1.1
	女性	171	12.9	0.6	12.3	62.6	3.5	3.5	—	20.5	0.6
50歳代	男性	80	10.0	2.5	7.5	62.5	7.5	7.5	—	16.3	3.8
	女性	111	20.7	1.8	18.9	57.7	1.8	0.9	0.9	17.1	2.7
60歳以上	男性	127	13.3	3.1	10.2	60.6	3.9	3.9	—	18.9	3.1
	女性	164	21.9	0.6	21.3	46.3	0.6	0.6	—	24.4	6.7

<④政治の場>

◆『男性優遇』は77.0%、「平等である」は12.6%、『女性優遇』は1.7%

◆性別でみると、女性は『男性優遇』が男性より15.0ポイント高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	77.0%	71.7%	76.4%
男性の方が非常に優遇されている	26.0%	26.9%	36.3%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	51.0%	44.8%	40.1%
平等である	12.6%	13.9%	11.8%
『女性優遇』	1.7%	2.3%	9.7%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.7%	2.2%	0.8%
女性の方が非常に優遇されている	—	0.1%	8.9%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(51.0%)が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(26.0%)が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より60ポイント以上高くなっています。

【性別】

性別で大きく意識が異なり、男性は「平等である」(20.0%)が女性(7.7%)より12.3ポイント高くなっています。

女性は『男性優遇』(82.9%)が男性(67.9%)より15.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

どの年代でも『男性優遇』は7割以上となっており、大きな差はみられませんでした。

Ⅱ 調査の結果【一般市民】

【性・年齢別】

どの年代も男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっています。

(%)

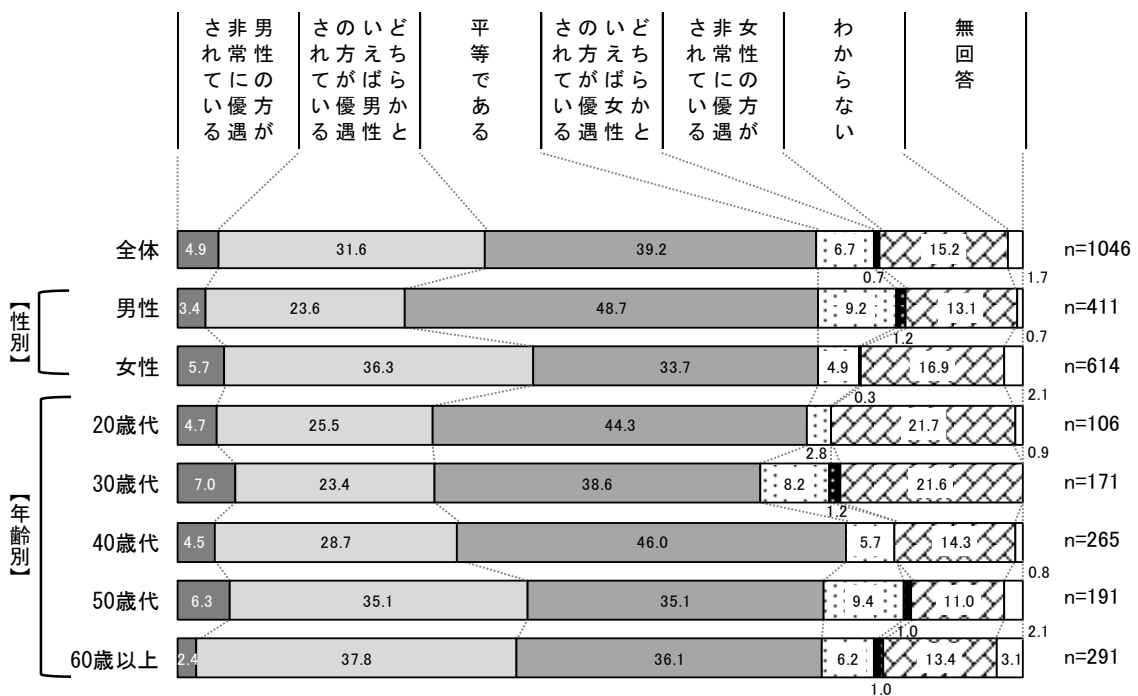
		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全 体		1,046	77.0	26.0	51.0	12.6	1.7	1.7	—	7.6	1.1
20 歳代	男性	43	65.1	20.9	44.2	18.6	0.0	—	—	16.3	—
	女性	63	85.7	33.3	52.4	6.3	0.0	—	—	7.9	—
30 歳代	男性	67	70.1	19.4	50.7	17.9	1.5	1.5	—	10.4	—
	女性	104	79.8	38.5	41.3	10.6	1.0	1.0	—	8.7	—
40 歳代	男性	94	68.1	23.4	44.7	20.2	3.2	3.2	—	7.4	1.1
	女性	171	84.2	27.5	56.7	7.0	1.8	1.8	—	5.8	1.2
50 歳代	男性	80	70.0	15.0	55.0	17.5	2.5	2.5	—	10.0	—
	女性	111	84.7	27.9	56.8	5.4	1.8	1.8	—	7.2	0.9
60 歳以上	男性	127	66.1	18.1	48.0	22.8	2.4	2.4	—	7.1	1.6
	女性	164	81.0	28.0	53.0	8.5	1.8	1.8	—	5.5	3.0

<⑤地域活動の場>

◆『男性優遇』は36.5%、「平等である」は39.2%、『女性優遇』は7.4%

◆性別でみると、女性は『男性優遇』が男性より15.0ポイント高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	36.5%	36.0%	42.7%
男性の方が非常に優遇されている	4.9%	4.9%	8.5%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	31.6%	31.1%	34.2%
平等である	39.2%	35.4%	30.8%
『女性優遇』	7.4%	9.2%	7.1%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.7%	8.5%	6.4%
女性の方が非常に優遇されている	0.7%	0.7%	0.7%



【全体】

「平等である」(39.2%)が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(31.6%)が高くなっています。

「平等である」が『男性優遇』より若干高くなっています。

【性別】

性別で大きく意識が異なり、男性は「平等である」(48.7%)が女性(33.7%)より15.0ポイント高くなっています。

女性は『男性優遇』(42.0%)が男性(27.0%)より15.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

40歳代は「平等である」(46.0%)が他の年代に比べて高くなっています。

50歳代・60歳以上は『男性優遇』が約40%と高くなっています。

Ⅱ 調査の結果【一般市民】

【性・年齢別】

どの年代も男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっていますが、50歳代は特に意識の差が大きく、女性（53.1%）が男性（25.1%）より28.0ポイント高くなっています。

(%)

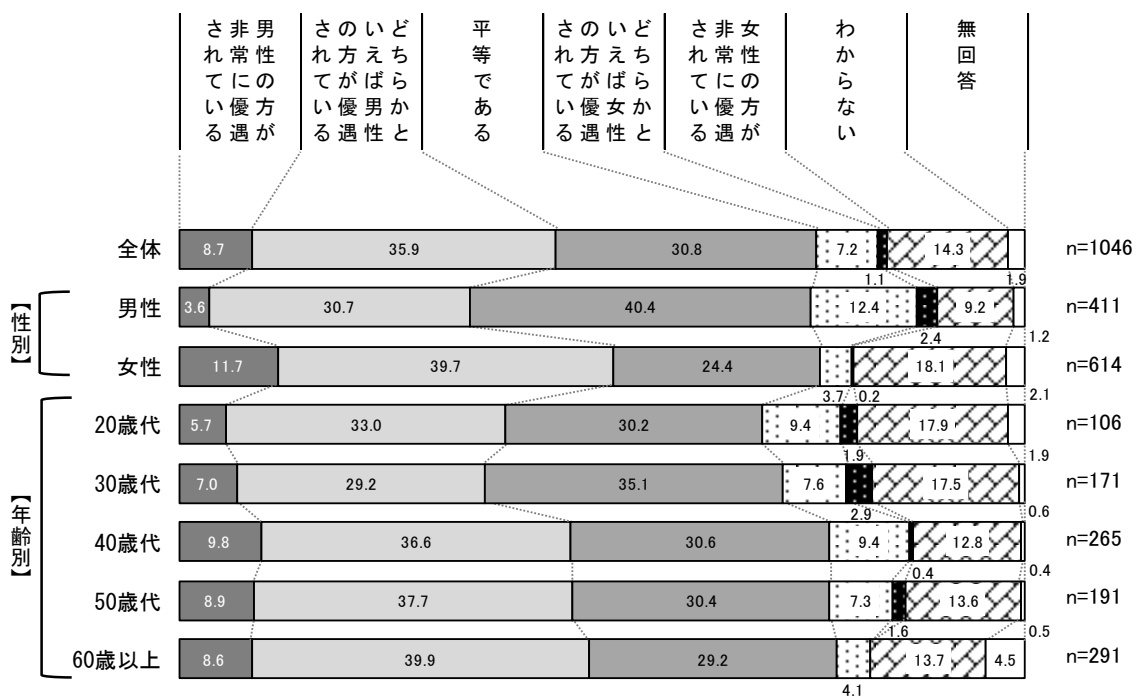
		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1,046	36.5	4.9	31.6	39.2	7.4	6.7	0.7	15.2	1.7
20歳代	男性	43	21.0	4.7	16.3	58.1	4.7	4.7	—	16.3	—
	女性	63	36.5	4.8	31.7	34.9	1.6	1.6	—	25.4	1.6
30歳代	男性	67	19.4	4.5	14.9	50.7	13.4	10.4	3.0	16.4	—
	女性	104	37.5	8.7	28.8	30.8	6.7	6.7	—	25.0	—
40歳代	男性	94	23.4	4.3	19.1	55.3	10.6	10.6	—	10.6	—
	女性	171	38.6	4.7	33.9	40.9	2.9	2.9	—	16.4	1.2
50歳代	男性	80	25.1	1.3	23.8	47.5	13.8	12.5	1.3	12.5	1.3
	女性	111	53.1	9.9	43.2	26.1	8.1	7.2	0.9	9.9	2.7
60歳以上	男性	127	37.0	3.1	33.9	40.2	8.7	7.1	1.6	12.6	1.6
	女性	164	42.7	1.8	40.9	32.9	6.1	5.5	0.6	14.0	4.3

<⑥法律や制度>

◆『男性優遇』は44.6%、「平等である」は30.8%、『女性優遇』は8.3%

◆性別でみると、女性は『男性優遇』が男性より17.1ポイント高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	44.6%	36.9%	41.7%
男性の方が非常に優遇されている	8.7%	7.1%	11.0%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	35.9%	29.8%	30.7%
平等である	30.8%	38.0%	34.9%
『女性優遇』	8.3%	8.7%	5.4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	7.2%	7.5%	4.4%
女性の方が非常に優遇されている	1.1%	1.2%	1.0%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(35.9%)が最も高く、次いで「平等である」(30.8%)が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より高くなっています。

【性別】

性別で大きく意識が異なり、男性は「平等である」(40.4%)が女性(24.4%)より16.0ポイント高く、『女性優遇』(14.8%)が女性(3.9%)より10.9ポイント高くなっています。

女性は『男性優遇』(51.4%)が男性(34.3%)より17.1ポイント高くなっています。

【年齢別】

60歳以上は『男性優遇』(48.5%)が他の年代に比べて高くなっています。

Ⅱ 調査の結果【一般市民】

【性・年齢別】

どの年代も男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっています。

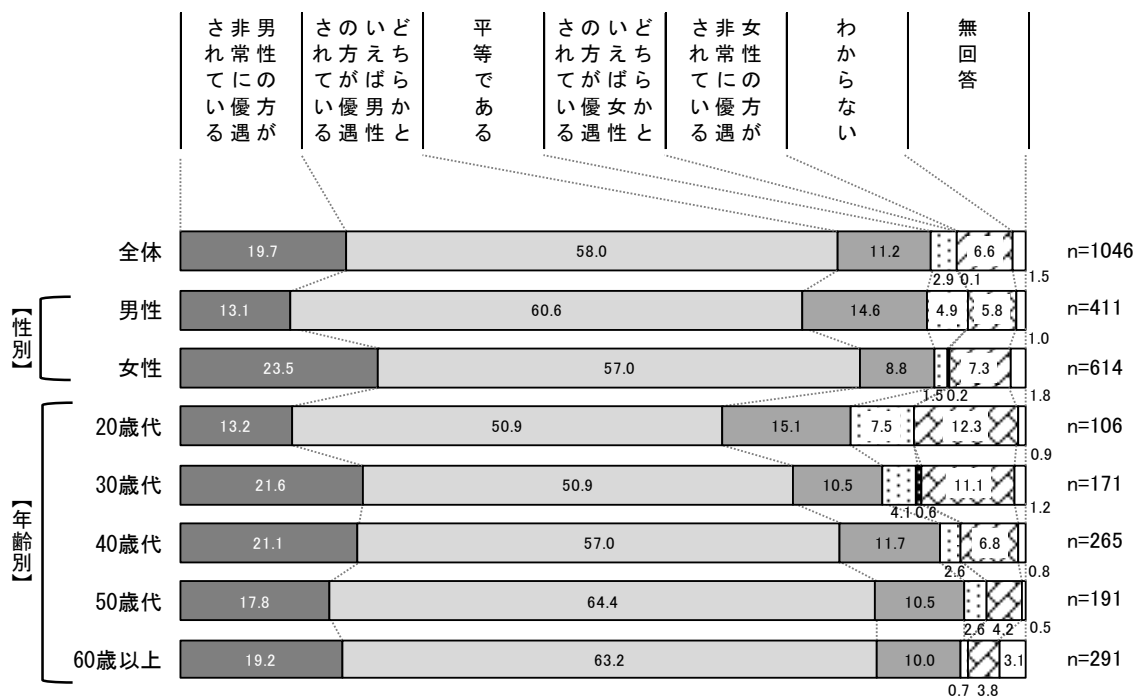
(%)

		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇 されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇 されている	わからない	無回答
全 体		1,046	44.6	8.7	35.9	30.8	8.3	7.2	1.1	14.3	1.9
20 歳代	男性	43	25.6	2.3	23.3	34.9	23.3	18.6	4.7	16.3	—
	女性	63	47.6	7.9	39.7	27.0	3.2	3.2	—	19.0	3.2
30 歳代	男性	67	23.9	—	23.9	44.8	19.4	11.9	7.5	11.9	—
	女性	104	44.2	11.5	32.7	28.8	4.8	4.8	—	21.2	1.0
40 歳代	男性	94	38.3	6.4	31.9	36.2	19.2	18.1	1.1	6.4	—
	女性	171	50.9	11.7	39.2	27.5	4.7	4.7	—	16.4	0.6
50 歳代	男性	80	32.6	3.8	28.8	42.5	13.8	11.3	2.5	11.3	—
	女性	111	56.7	12.6	44.1	21.6	5.4	4.5	0.9	15.3	0.9
60 歳以上	男性	127	40.9	3.9	37.0	41.7	7.1	7.1	—	6.3	3.9
	女性	164	54.3	12.2	42.1	19.5	1.8	1.8	—	19.5	4.9

<⑦社会通念、慣習・しきたりなど>

◆『男性優遇』は77.7%、「平等である」は11.2%、『女性優遇』は3.0%

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	77.7%	74.1%	76.4%
男性の方が非常に優遇されている	19.7%	20.8%	27.5%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	58.0%	53.3%	48.9%
平等である	11.2%	13.0%	11.0%
『女性優遇』	3.0%	2.7%	2.4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.9%	2.4%	2.2%
女性の方が非常に優遇されている	0.1%	0.3%	0.2%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(58.0%)が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(19.7%)が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より60ポイント以上高くなっています。

【性別】

男性は「平等である」(14.6%)が女性(8.8%)より5.8ポイント高くなっています。

女性は『男性優遇』(80.5%)が男性(73.7%)より6.8ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は『男性優遇』(64.1%)は他の年代に比べて低く、「平等である」(15.1%)は他の年代に比べて高くなっています。

Ⅱ 調査の結果【一般市民】

【性・年齢別】

60歳以上を除くすべての年代で、男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっています。

(%)

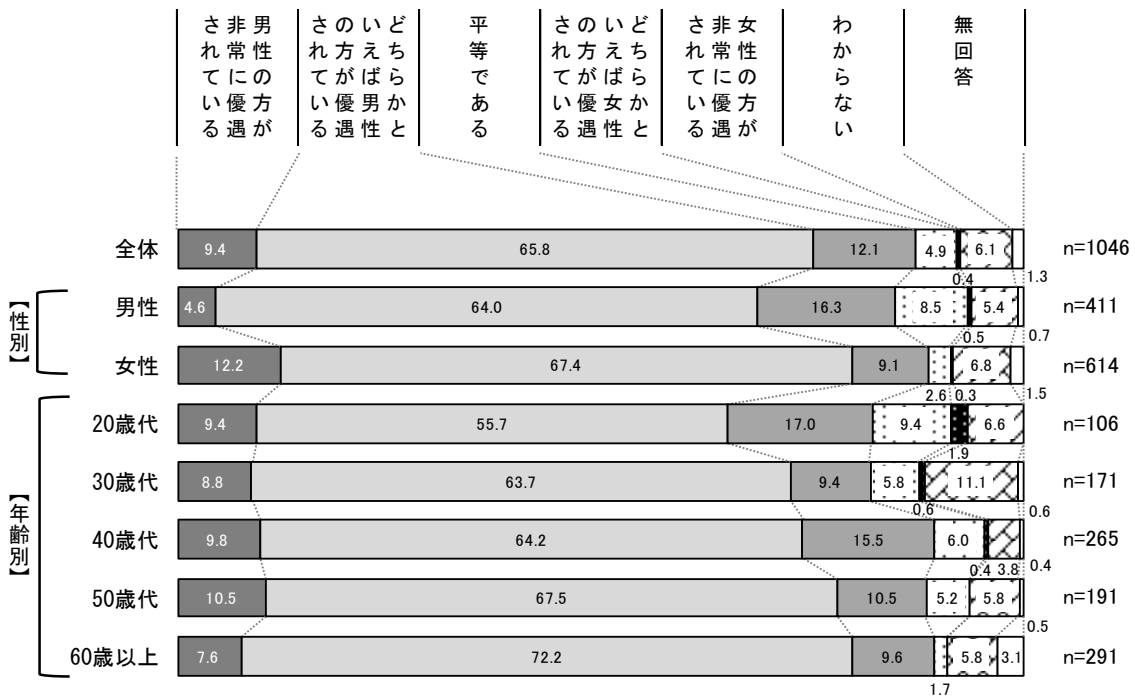
		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇 されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇 されている	わからない	無回答
全 体		1,046	77.7	19.7	58.0	11.2	3.0	2.9	0.1	6.6	1.5
20 歳代	男性	43	58.2	7.0	51.2	18.6	9.3	9.3	—	11.6	2.3
	女性	63	68.3	17.5	50.8	12.7	6.3	6.3	—	12.7	—
30 歳代	男性	67	68.7	19.4	49.3	9.0	9.0	9.0	—	13.4	—
	女性	104	75.0	23.1	51.9	11.5	2.0	1.0	1.0	9.6	1.9
40 歳代	男性	94	69.2	16.0	53.2	20.2	4.3	4.3	—	6.4	—
	女性	171	83.1	24.0	59.1	7.0	1.8	1.8	—	7.0	1.2
50 歳代	男性	80	76.3	5.0	71.3	16.3	6.3	6.3	—	1.3	—
	女性	111	86.5	27.0	59.5	6.3	—	—	—	6.3	0.9
60 歳以上	男性	127	83.5	15.0	68.5	11.0	0.8	0.8	—	2.4	2.4
	女性	164	81.7	22.6	59.1	9.1	0.6	0.6	—	4.9	3.7

<⑧社会全体>

◆『男性優遇』は75.2%、「平等である」は12.1%、『女性優遇』は5.3%

◆性別でみると、女性は『男性優遇』が男性より11.0ポイント高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	75.2%	69.9%	74.9%
男性の方が非常に優遇されている	9.4%	10.1%	15.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	65.8%	59.8%	59.3%
平等である	12.1%	15.0%	11.2%
『女性優遇』	5.3%	4.8%	2.9%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.9%	3.8%	2.4%
女性の方が非常に優遇されている	0.4%	1.0%	0.5%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(65.8%)が最も高く、次いで「平等である」(12.1%)が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より60ポイント以上高くなっています。

【性別】

男性は「平等である」(16.3%)が女性(9.1%)より7.2ポイント高く、『女性優遇』(9.0%)が女性(2.9%)より6.1ポイント高くなっています。

女性は『男性優遇』(79.6%)が男性(68.6%)より11.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は『男性優遇』(65.1%)が他の年代に比べて低くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【性・年齢別】

60歳以上を除くすべての年代で、男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっていますが、40歳代は特に意識の差が大きく、女性（81.3%）が男性（60.7%）より20.6ポイント高くなっています。

		(%)									
		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1,046	75.2	9.4	65.8	12.1	5.3	4.9	0.4	6.1	1.3
20歳代	男性	43	60.5	4.7	55.8	11.6	18.6	18.6	—	9.3	—
	女性	63	68.3	12.7	55.6	20.6	6.4	3.2	3.2	4.8	—
30歳代	男性	67	64.2	4.5	59.7	10.4	14.9	13.4	1.5	10.4	—
	女性	104	77.8	11.5	66.3	8.7	1.0	1.0	—	11.5	1.0
40歳代	男性	94	60.7	6.4	54.3	28.7	8.5	7.4	1.1	2.1	—
	女性	171	81.3	11.7	69.6	8.2	5.3	5.3	—	4.7	0.6
50歳代	男性	80	67.6	6.3	61.3	17.5	10.0	10.0	—	5.0	—
	女性	111	85.6	13.5	72.1	5.4	1.8	1.8	—	6.3	0.9
60歳以上	男性	127	80.4	2.4	78.0	11.0	2.4	2.4	—	3.9	2.4
	女性	164	79.3	11.6	67.7	8.5	1.2	1.2	—	7.3	3.7

【前回調査との比較】（各分野における男女の地位）

●『男性優遇』の割合

前回調査と比べて、『男性優遇』は8分野すべてで増加しており、「法律や制度」の増加（7.7ポイント）が最も大きくなっています。

性別で見ると、男性は「職場」、「法律や制度」、「社会全体」で約9ポイント増加し、女性は「家庭生活」で増加が最も大きくなっています。

(%)

		①家庭生活	②職場	③学校教育の場	④政治の場	⑤地域活動の場	⑥法律や制度	⑦社会通念、慣習等	⑧社会全体
全体	平成 28 年	54.6	67.5	14.0	77.0	36.5	44.6	77.7	75.2
	平成 22 年	50.3	63.9	12.2	71.7	36.0	36.9	74.1	69.9
	差	4.3	3.6	1.8	5.3	0.5	7.7	3.6	5.3
男性	平成 28 年	38.9	64.2	9.8	67.9	27.0	34.3	73.7	68.6
	平成 22 年	39.0	54.9	9.6	63.7	26.7	24.9	69.1	59.4
	差	-0.1	9.3	0.2	4.2	0.3	9.4	4.6	9.2
女性	平成 28 年	65.1	69.5	16.7	82.9	42.0	51.4	80.5	79.6
	平成 22 年	58.7	71.0	14.2	77.9	43.1	46.1	78.3	77.9
	差	6.4	-1.5	2.5	5.0	-1.1	5.3	2.2	1.7

●「平等である」の割合

「平等である」は「地域活動の場」（3.8ポイント増加）と「学校教育の場」（2.7ポイント増加）で増加し、他の分野ではいずれも減少しています。特に「法律や制度」（7.2ポイント減少）の減少が最も大きくなっています。

性別で見ると、男性は「法律や制度」で約9ポイント減少し、女性は「家庭生活」で減少が最も大きくなっています。また、「学校教育の場」と「地域活動の場」は男女ともに増加しています。

(%)

		①家庭生活	②職場	③学校教育の場	④政治の場	⑤地域活動の場	⑥法律や制度	⑦社会通念、慣習等	⑧社会全体
全体	平成 28 年	29.0	18.0	60.5	12.6	39.2	30.8	11.2	12.1
	平成 22 年	32.9	19.4	57.8	13.9	35.4	38.0	13.0	15.0
	差	-3.9	-1.4	2.7	-1.3	3.8	-7.2	-1.8	-2.9
男性	平成 28 年	38.9	19.2	65.0	20.0	48.7	40.4	14.6	16.3
	平成 22 年	40.4	26.2	59.2	21.3	42.4	49.8	17.7	22.9
	差	-1.5	-7.0	5.8	-1.3	6.3	-9.4	-3.1	-6.6
女性	平成 28 年	22.6	17.6	57.8	7.7	33.7	24.4	8.8	9.1
	平成 22 年	27.5	14.2	56.9	8.4	30.2	29.2	9.5	9.1
	差	-4.9	3.4	0.9	-0.7	3.5	-4.8	-0.7	±0.0

II 調査の結果【一般市民】

【全国調査との比較】（各分野における男女の地位）

●『男性優遇』の割合

国の調査（平成 28 年実施）と比べると、『男性優遇』の意識については、「家庭生活」と「職場」では本市が国を 10 ポイント以上上回っています。

(%)

	①家庭生活	②職場	③学校教育の場	④政治の場	⑤地域活動の場	⑥法律や制度	⑦社会通念、慣習等	⑧社会全体
春日井市	54.6	67.5	14.0	77.0	36.5	44.6	77.7	75.2
国	43.4	56.6	16.0	73.5	33.5	45.2	70.4	74.2
差	11.2	10.9	-2.0	3.5	3.0	-0.6	7.3	1.0

●「平等である」の割合

「平等である」については、すべての分野で国を下回っており、特に「家庭生活」では本市（29.0%）は国（47.4%）を 18.4 ポイント下回っています。

(%)

	①家庭生活	②職場	③学校教育の場	④政治の場	⑤地域活動の場	⑥法律や制度	⑦社会通念、慣習等	⑧社会全体
春日井市	29.0	18.0	60.5	12.6	39.2	30.8	11.2	12.1
国	47.4	29.7	66.4	18.9	47.2	40.8	21.8	21.1
差	-18.4	-11.7	-5.9	-6.3	-8.0	-10.0	-10.6	-9.0

【中学生・高校生との比較】

●『男性優遇』の割合

中学生・高校生と比べると、『男性優遇』の意識については、「家庭生活」と「社会全体」では一般市民が中学生・高校生より 40 ポイント以上高く、「学校教育の場」でも約 10 ポイント高くなっています。

(%)

	①家庭生活	③学校教育の場	⑧社会全体
中学生	9.4	4.8	25.3
高校生	9.0	4.2	26.5
一般市民	54.6	14.0	75.2

●「平等である」の割合

「平等である」については、「家庭生活」では中学生・高校生が一般市民より約 30 ポイント高く、「社会全体」でも約 10 ポイント高くなっています。「学校教育の場」では一般市民（60.5%）は中学生（49.5%）より 11.0 ポイント高く、高校生（58.0%）とはほぼ同じ割合となっています。

(%)

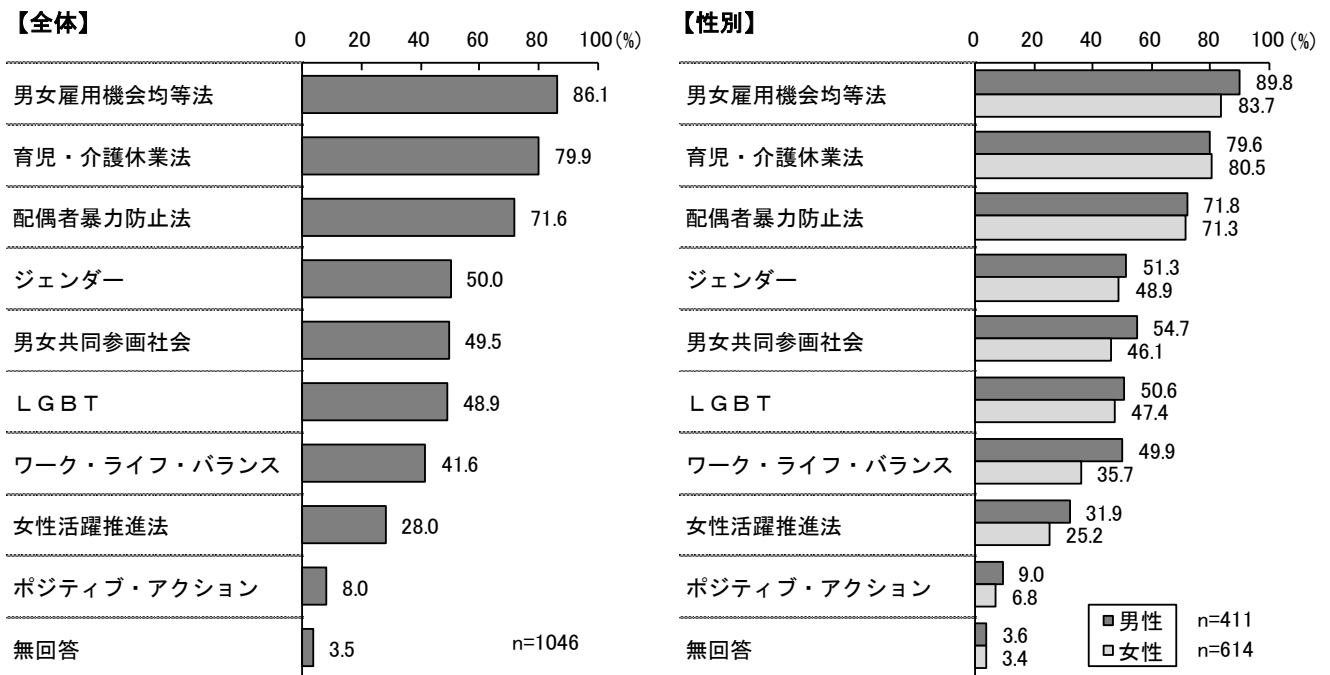
	①家庭生活	③学校教育の場	⑧社会全体
中学生	58.3	49.5	20.7
高校生	62.1	58.0	21.9
一般市民	29.0	60.5	12.1

2-2 男女平等に関する法律・用語等の認知度

問2 次の言葉の中で、あなたが知っているまたは聞いたことがあるものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- ◆ 「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」、「配偶者暴力防止法」の認知度が7割以上
- ◆ 前回調査と比べて、「ワーク・ライフ・バランス」と「ジェンダー」は10ポイント以上増加し、「育児・介護休業法」と「配偶者暴力防止法」は5ポイント以上減少
- ◆ 「男女共同参画社会」の認知度は20歳代で7割以上と特に高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
男女雇用機会均等法	86.1%	89.8%
育児・介護休業法	79.9%	87.4%
配偶者暴力防止法(DV防止法)	71.6%	78.6%
ジェンダー(社会的性別)	50.0%	37.3%
男女共同参画社会	49.5%	47.4%
LGBT(性的少数者のうち、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった総称)	48.9%	—
ワーク・ライフ・バランス(仕事、家庭生活、地域・個人の生活などの調和)	41.6%	29.6%
女性活躍推進法	28.0%	—
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	8.0%	11.0%



【全体】

「男女雇用機会均等法」(86.1%)が最も高く、次いで「育児・介護休業法」(79.9%)、「配偶者暴力防止法」(71.6%)が高くなっています。

【性別】

男性は「育児・介護休業法」を除くすべての項目で女性より高く、特に「ワーク・ライフ・バランス」(49.9%)は女性(35.7%)より14.2ポイント高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【年齢別】

20歳代は「男女共同参画社会」（72.6%）が70%以上と他の年代に比べて特に高く、「ジェンダー」、「ワーク・ライフ・バランス」、「女性活躍推進法」も他の年代に比べて高くなっています。

また、20歳代は「配偶者暴力防止法」、30歳代・40歳代は「男女共同参画社会」、60歳以上は「ジェンダー」が他の年代に比べて低くなっています。

(%)

	件数 (件)	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	配偶者暴力防止法	ジェンダー	男女共同参画社会	LGBT	ワーク・ライフ・バランス	女性活躍推進法	ポジティブ・アクション	無回答
20歳代	106	83.0	69.8	54.7	66.0	72.6	46.2	49.1	34.0	8.5	4.7
30歳代	171	84.2	78.4	63.7	53.8	40.4	54.4	44.4	25.7	4.7	5.3
40歳代	265	85.3	75.8	74.3	50.9	40.0	48.7	41.1	23.8	4.5	3.8
50歳代	191	90.6	86.9	75.4	47.6	48.7	46.6	38.7	27.2	8.4	2.1
60歳以上	291	86.3	84.2	77.0	41.9	55.7	47.4	38.8	31.3	11.7	2.7

【全国調査との比較】（男女平等に関する法律・用語等の認知度）

「ジェンダー」の認知度は国より約10ポイント高くなっていますが、「男女共同参画社会」、「女性活躍推進法」、「ポジティブ・アクション」の認知度は10ポイント以上低くなっています。

(%)

	男女雇用機会均等法	ジェンダー	男女共同参画社会	ワーク・ライフ・バランス	女性活躍推進法	ポジティブ・アクション
春日井市	86.1	50.0	49.5	41.6	28.0	8.0
国	80.1	40.3	66.6	42.2	39.3	18.0
差	6.0	9.7	-17.1	-0.6	-11.3	-10.0

3 家庭生活について

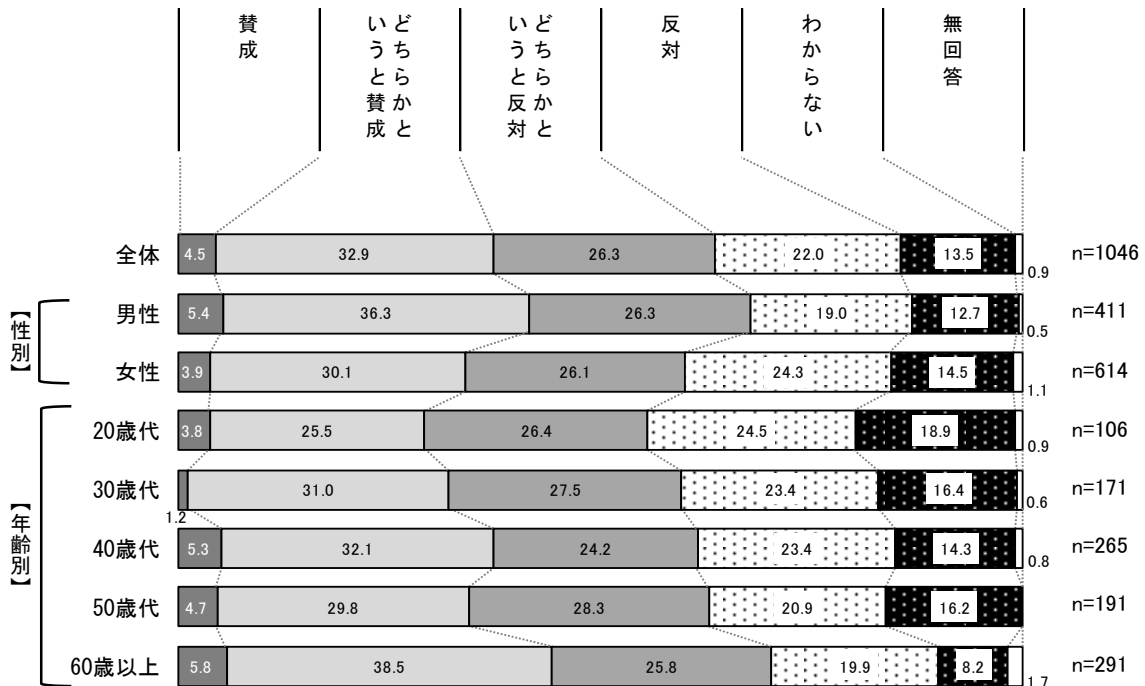
3-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

- ◆『概ね賛成』は37.4%、『概ね反対』は48.3%
- ◆10年前と比較して賛成・反対の割合は大きく変わっていない
- ◆『概ね賛成』は男性が女性より高く、『概ね反対』は女性が男性より高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『概ね賛成』	37.4%	38.8%	37.6%
賛成	4.5%	6.2%	7.3%
どちらかという賛成	32.9%	32.6%	30.3%
『概ね反対』	48.3%	49.0%	51.1%
どちらかという反対	26.3%	28.3%	24.9%
反対	22.0%	20.7%	26.2%
わからない	13.5%	11.2%	9.7%

『概ね賛成』…「賛成」と「どちらかという賛成」を合算
 『概ね反対』…「反対」と「どちらかという反対」を合算



【全体】

『概ね反対』(48.3%)が『概ね賛成』(37.4%)より10.9ポイント高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【性別】

男性は『概ね賛成』（41.7%）が女性（34.0%）より 7.7 ポイント高く、女性は『概ね反対』（50.4%）が男性（45.3%）より 5.1 ポイント高くなっています。

【年齢別】

20 歳代は『概ね賛成』（29.3%）が 30%未満と他の年代に比べて若干低くなっています。

【性・年齢別】

30 歳代のみ、男性は『概ね反対』（62.7%）が女性（43.3%）より 19.4 ポイント高く、女性は『概ね賛成』（37.5%）が男性（23.9%）より 13.6 ポイント高くなっています。他の年代の男性はすべて、『概ね賛成』が女性より高くなっています。

(%)

		件数 (件)	『概ね賛成』	賛成	どちらかという と賛成	『概ね反対』	どちらかという と反対	反対	わからない	無回答
全体		1,046	37.4	4.5	32.9	48.3	26.3	22.0	13.5	0.9
20 歳代	男性	43	32.6	4.7	27.9	48.8	27.9	20.9	18.6	—
	女性	63	27.0	3.2	23.8	52.4	25.4	27.0	19.0	1.6
30 歳代	男性	67	23.9	1.5	22.4	62.7	29.9	32.8	13.4	—
	女性	104	37.5	1.0	36.5	43.3	26.0	17.3	18.3	1.0
40 歳代	男性	94	44.7	5.3	39.4	41.5	18.1	23.4	13.8	—
	女性	171	33.4	5.3	28.1	50.9	27.5	23.4	14.6	1.2
50 歳代	男性	80	43.8	5.0	38.8	40.0	30.0	10.0	16.3	—
	女性	111	27.9	4.5	23.4	55.8	27.0	28.8	16.2	—
60 歳以上	男性	127	50.4	7.9	42.5	41.0	27.6	13.4	7.1	1.6
	女性	164	39.7	4.3	35.4	49.4	24.4	25.0	9.1	1.8

【職業別】

『概ね賛成』は「専業主婦・専業主夫」(47.7%)、「自営業」(46.1%)で高く、『概ね反対』は「派遣・契約社員」(63.4%)、「公務員」(60.4%)で高くなっています。

(%)

	件数 (件)	『概ね賛成』	賛成	どちらかという と賛成	『概ね反対』	どちらかという と反対	反対	わからない	無回答
会社員	320	31.9	4.4	27.5	50.1	26.3	23.8	17.2	0.9
公務員	53	28.3	—	28.3	60.4	18.9	41.5	11.3	—
派遣・契約社員	30	20.0	—	20.0	63.4	36.7	26.7	16.7	—
パートタイム・アルバイト	210	35.7	3.3	32.4	52.4	30.0	22.4	11.4	0.5
自営業	65	46.1	12.3	33.8	47.7	36.9	10.8	6.2	—
農業	3	—	—	—	100.0	100.0	—	—	—
内職・在宅就業	9	33.3	—	33.3	22.2	11.1	11.1	44.4	—
専業主婦・専業主夫	174	47.7	7.5	40.2	39.7	23.0	16.7	10.9	1.7
学生	24	37.5	4.2	33.3	41.7	25.0	16.7	20.8	—
無職	100	41.0	2.0	39.0	41.0	19.0	22.0	16.0	2.0
その他	27	40.7	—	40.7	51.8	14.8	37.0	7.4	—

【性・就労状況別】

仕事に就いている女性は『概ね反対』(56.4%)が高く、仕事に就いている男性(46.5%)より9.9ポイント高くなっています。仕事に就いていない女性は『概ね賛成』(44.2%)が仕事に就いている女性(27.1%)より17.1ポイント高くなっています。

(%)

		件数 (件)	『概ね賛成』	賛成	どちらかという と賛成	『概ね反対』	どちらかという と反対	反対	わからない	無回答
仕事に就いている	男性	325	40.6	5.5	35.1	46.5	27.1	19.4	12.9	—
	女性	365	27.1	3.0	24.1	56.4	29.6	26.8	15.3	1.1
仕事に就いていない	男性	74	45.9	5.4	40.5	37.8	21.6	16.2	13.5	2.7
	女性	224	44.2	5.4	38.8	41.1	21.9	19.2	13.4	1.3

II 調査の結果【一般市民】

【子どもの有無別】

『概ね賛成』は、子どもがいる人（40.2%）がいない人（31.3%）より8.9ポイント高くなっています。

(%)

	件数 (件)	『概ね賛成』	賛成	どちらかという と賛成	『概ね反対』	どちらかという と反対	反対	わからない	無回答
子どもがいる	739	40.2	5.4	34.8	47.4	25.7	21.7	11.5	0.9
子どもはいない	220	31.3	1.8	29.5	47.3	25.0	22.3	20.5	0.9

【全国調査との比較】（「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について）

本市・国ともに『概ね反対』が『概ね賛成』より10ポイント以上高くなっています。

性別でみると、国は女性で『概ね反対』が男性より9.1ポイント高く、本市は女性が男性より5.1ポイント高くなっています。

(%)

	春日井市			国(平成28年)		
		男性	女性		男性	女性
『概ね賛成』	37.4	41.7	34.0	40.6	44.7	37.0
賛成	4.5	5.4	3.9	8.8	9.4	8.3
どちらかという と賛成	32.9	36.3	30.1	31.7	35.3	28.7
『概ね反対』	48.3	45.3	50.4	54.3	49.4	58.5
どちらかという と反対	26.3	26.3	26.1	34.8	32.2	37.0
反対	22.0	19.0	24.3	19.5	17.2	21.5
わからない	13.5	12.7	14.5	5.1	5.8	4.5

【中学生・高校生との比較】

中学生は『概ね賛成』（41.2%）が高く、『概ね反対』（31.9%）より約10ポイント高くなっています。高校生と一般市民は『概ね反対』が高く、『概ね賛成』より約10ポイント高くなっています。

また、中学生と高校生は、「わからない」が30%前後で、一般市民（13.5%）より高くなっています。

(%)

	中学生	高校生	一般市民
『概ね賛成』	41.2	29.7	37.4
賛成	13.4	7.5	4.5
どちらかという と賛成	27.8	22.2	32.9
『概ね反対』	31.9	39.1	48.3
どちらかという と反対	16.7	22.9	26.3
反対	15.2	16.2	22.0
わからない	26.3	30.4	13.5

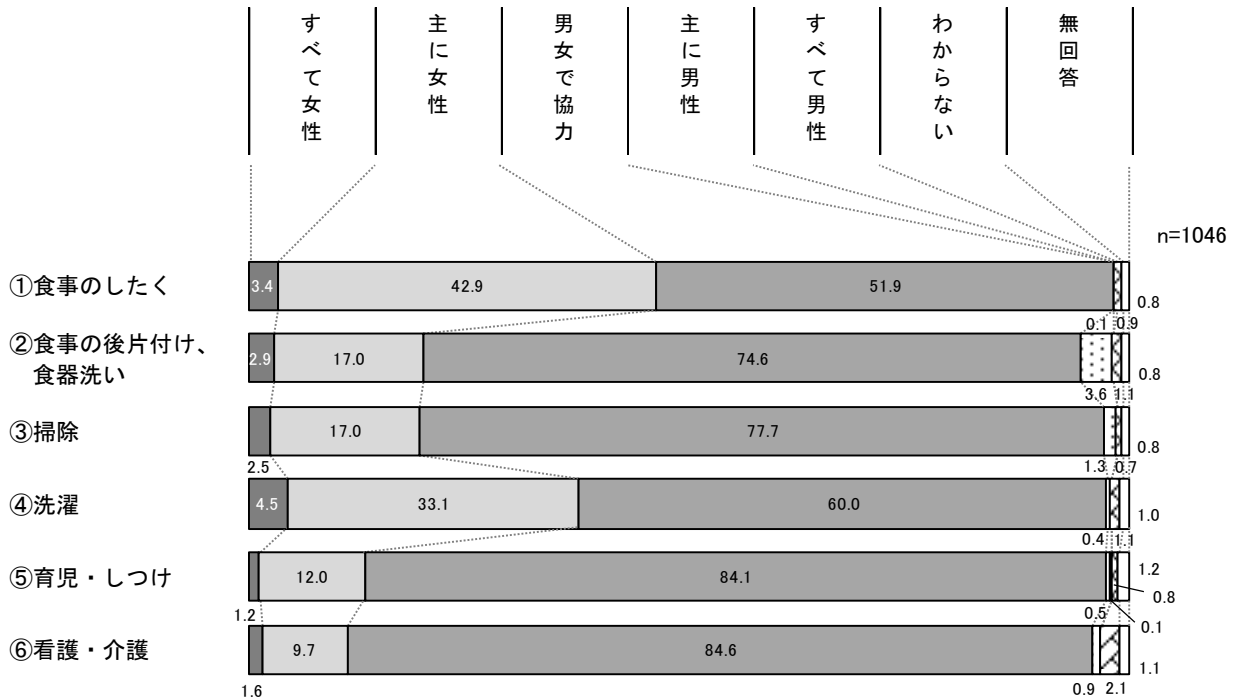
3-2 家庭内の仕事の分担

問4 あなたは、次のような家庭内の仕事を、主に誰が受けもつのが理想だと思いますか。
次の①～⑥について、それぞれ1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

- ◆家庭内の仕事の分担の理想は「男女で協力」。「看護・介護」、「育児・しつけ」では8割以上
- ◆「食事のしたく」では4割以上、「洗濯」では3割以上の人が『主として女性』が理想

	①食事のしたく	②食事の後片付け、食器洗い	③掃除	④洗濯	⑤育児・しつけ	⑥看護・介護
『主として女性』	46.3%	19.9%	19.5%	37.6%	13.2%	11.3%
すべて女性	3.4%	2.9%	2.5%	4.5%	1.2%	1.6%
主に女性	42.9%	17.0%	17.0%	33.1%	12.0%	9.7%
男女で協力	51.9%	74.6%	77.7%	60.6%	84.1%	84.6%
『主として男性』	0.1%	3.6%	1.3%	0.4%	0.6%	0.9%
主に男性	0.1%	3.6%	1.3%	0.4%	0.5%	0.9%
すべて男性	—	—	—	—	0.1%	—

『主として女性』…「すべて女性」と「主に女性」を合算
『主として男性』…「すべて男性」と「主に男性」を合算



【全体】(①～⑥)

家庭内の仕事の分担の＜理想＞についてみると、「食事のしたく」・「洗濯」は『主として女性』が3割以上と高くなっています。

「看護・介護」・「育児・しつけ」は「男女で協力」が8割以上と高くなっています。

【性別】

どの仕事についても、『主として女性』は女性より男性の方が高くなっています。

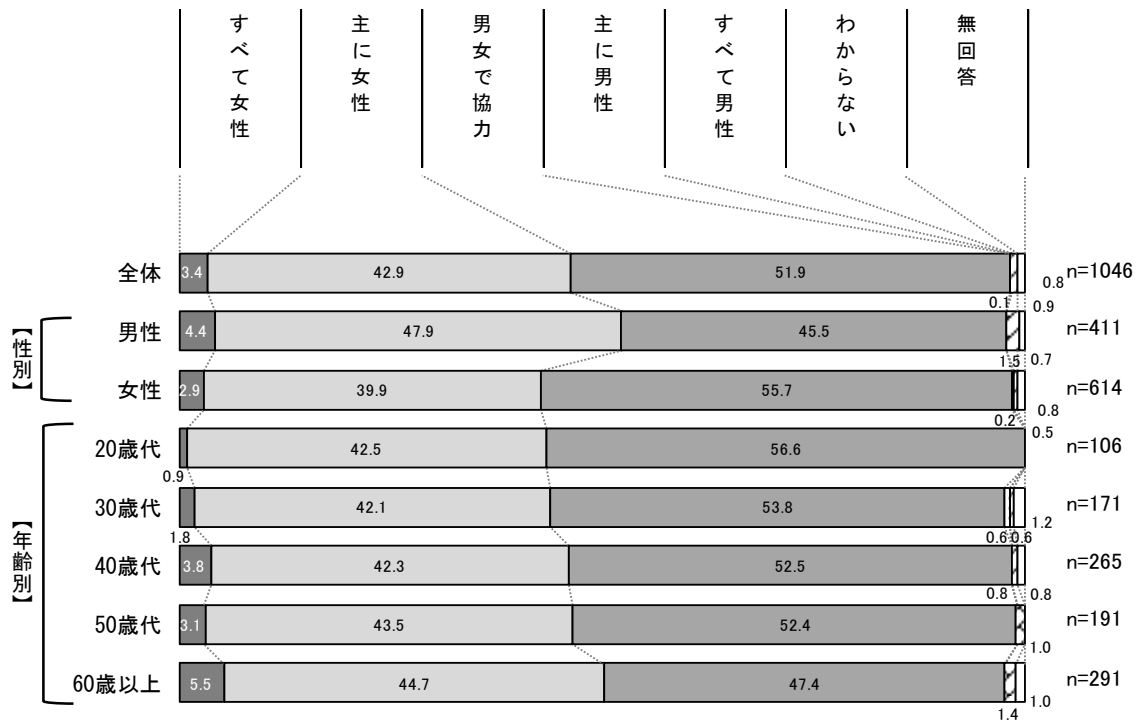
【年齢別】

どの仕事についても、『主として女性』は60歳以上が最も高くなっています。

Ⅱ 調査の結果【一般市民】

<①食事のしたく>

◆理想は「男女で協力」が51.9%、『主として女性』が46.3%



【全体】

「男女で協力」(51.9%) が最も高く、次いで「主に女性」(42.9%) が高くなっています。

【性別】

男性は『主として女性』(52.3%) が女性(42.8%) より9.5ポイント高く、『主として女性』が「男女で協力」(45.5%) より若干高くなっています。

【年齢別】

年齢が低いほど「男女で協力」は高く、20歳代(56.6%) が最も高くなっています。

【共働き状況別】

共働き家庭は「男女で協力」(54.6%) が他の家庭に比べて若干高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	48.3	3.5	44.8	49.9	0.1	0.1	—	0.8	0.8
共働き家庭	141	44.7	1.4	43.3	54.6	0.7	0.7	—	—	—
準共働き家庭	234	49.2	2.6	46.6	50.4	—	—	—	—	0.4
非共働き家庭	274	50.0	5.5	44.5	47.8	—	—	—	1.5	0.7
その他	86	46.5	3.5	43.0	47.7	—	—	—	2.3	3.5

【共働き状況の定義】

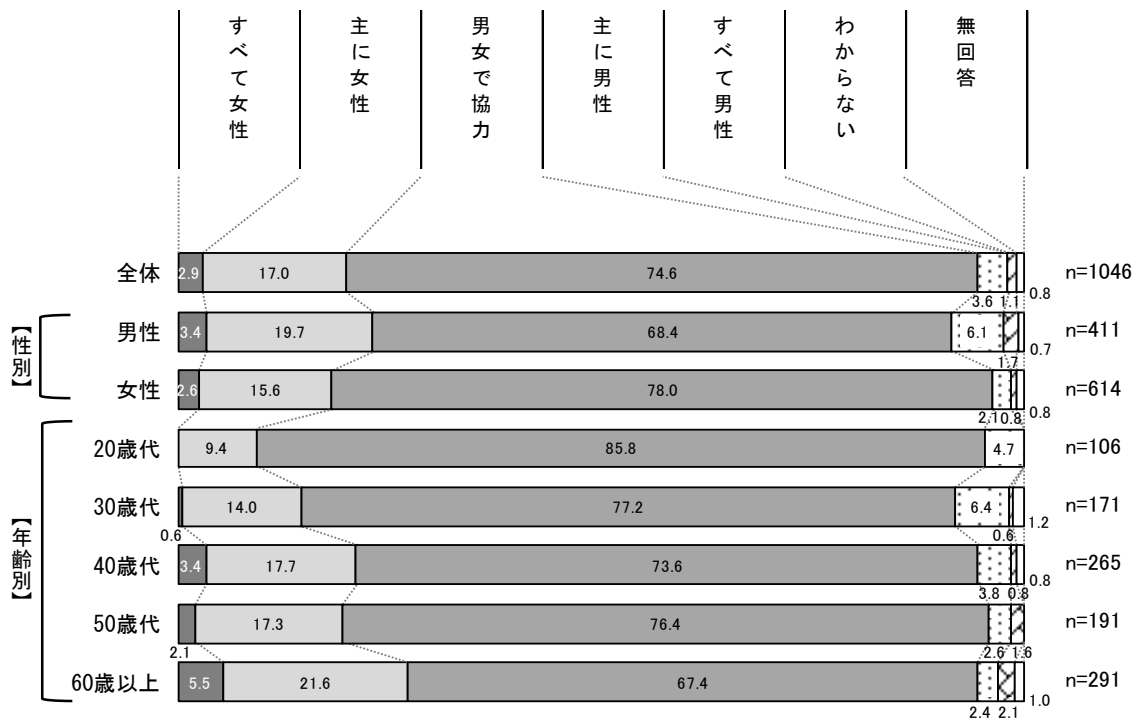
回答者と配偶者の職業により、共働き状況を下表のように定義しています。

回答者		会社員	公務員	自営業	農業	派遣・契約社員	パート・アルバイト	内職・在宅就業	専業主婦・主夫	学生	無職	その他
		常勤的な就業形態				非常勤的な就業形態			専業主婦・主夫・学生その他			
配偶者		共働き家庭				準共働き家庭			非共働き家庭			
会社員	常勤的な就業形態											
公務員												
自営業												
農業												
派遣・契約社員	非常勤的な就業形態											
パート・アルバイト												
内職・在宅就業												
専業主婦・主夫	専業主婦・主夫・学生その他	非共働き家庭				その他						
学生												
無職												
その他												

II 調査の結果【一般市民】

<②食事の後片付け、食器洗い>

◆理想は「男女で協力」が74.6%、『主として女性』が19.9%



【全体】

「男女で協力」(74.6%)が最も高くなっています。

【性別】

女性は「男女で協力」(78.0%)が男性(68.4%)より9.6ポイント高く、男性は『主として女性』(23.1%)が女性(18.2%)より4.9ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「男女で協力」(85.8%)が他の年代に比べて高くなっています。

年齢が高いほど『主として女性』は概ね高く、20歳代は9.4%であるのに対し、60歳以上は27.1%となっています。

【共働き状況別】

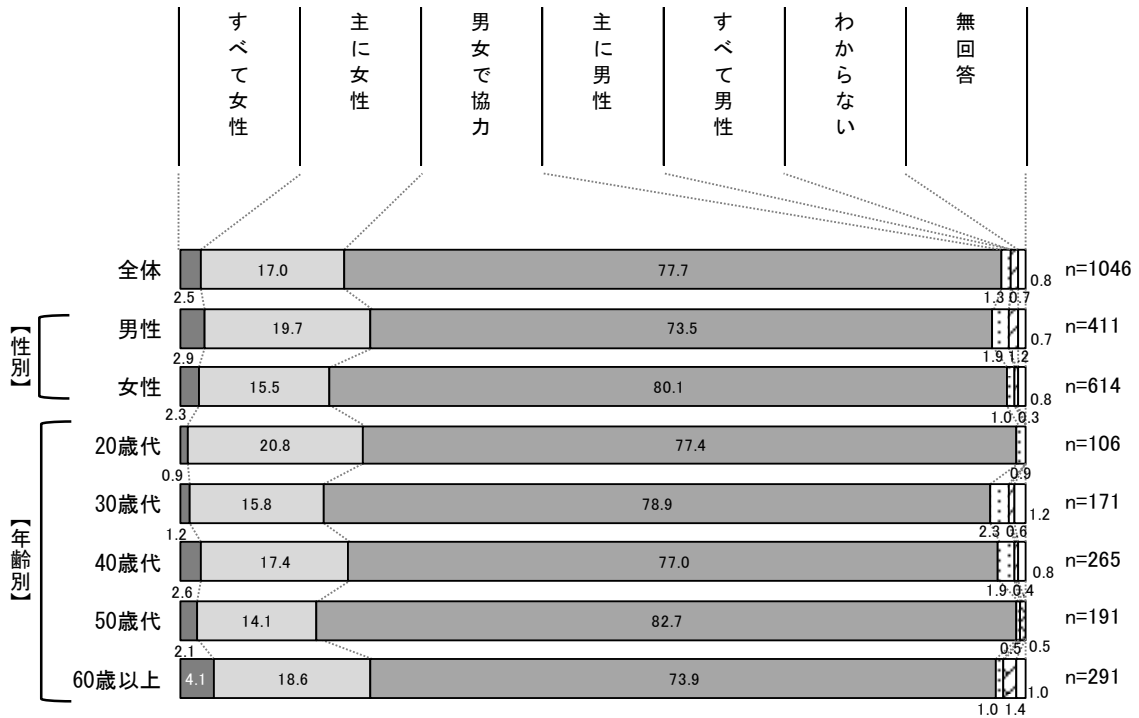
共働き家庭・準共働き家庭は「男女で協力」が他の家庭に比べて約10ポイント高く、非共働き家庭は『主として女性』(27.3%)が他の家庭に比べて高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	22.2	3.0	19.2	72.7	3.4	3.4	—	1.0	0.8
共働き家庭	141	15.6	0.7	14.9	78.0	5.7	5.7	—	0.7	—
準共働き家庭	234	20.0	2.1	17.9	78.2	1.3	1.3	—	—	0.4
非共働き家庭	274	27.3	4.7	22.6	66.1	4.4	4.4	—	1.5	0.7
その他	86	22.1	3.5	18.6	69.8	2.3	2.3	—	2.3	3.5

(%)

<③掃除>

◆理想は「男女で協力」が77.7%、『主として女性』が19.5%



【全体】

「男女で協力」(77.7%) が最も高くなっています。

【性別】

女性は「男女で協力」(80.1%) が男性(73.5%) より6.6ポイント高くなっています。

【年齢別】

50歳代は「男女で協力」(82.7%) が他の年代に比べて高くなっています。

【共働き状況別】

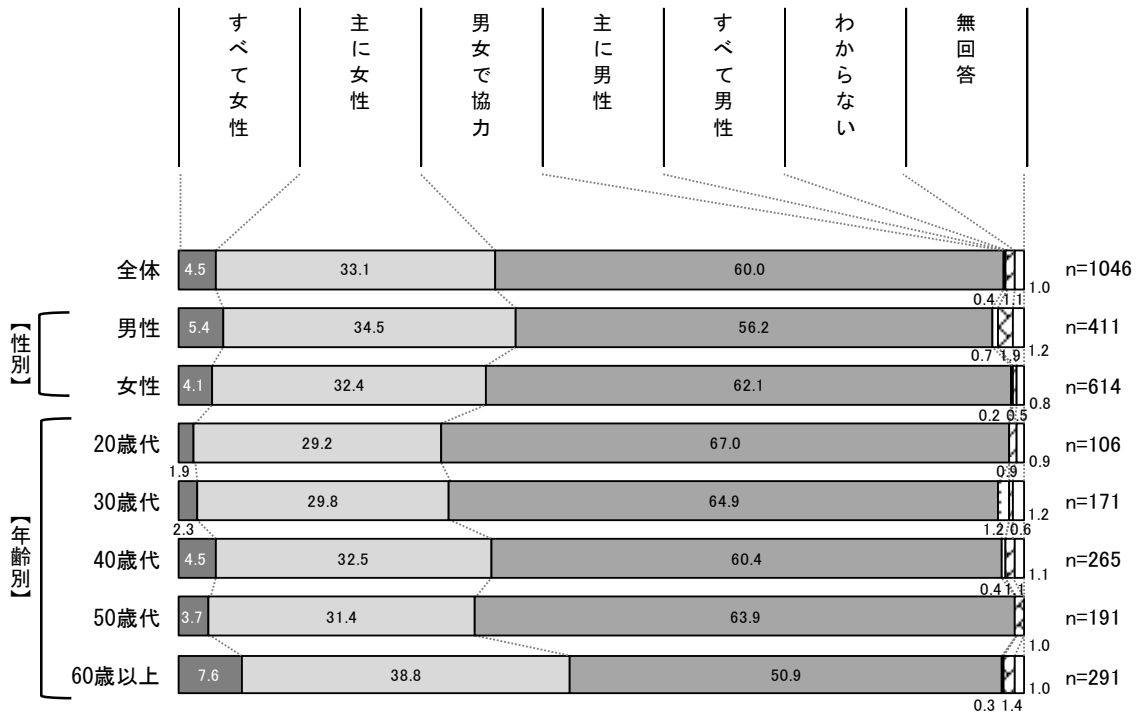
共働き家庭は「男女で協力」(86.5%) が他の家庭に比べて高く、非共働き家庭は『主として女性』(25.1%) が他の家庭に比べて高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	20.3	2.2	18.1	77.3	1.1	1.1	—	0.5	0.8
共働き家庭	141	12.8	—	12.8	86.5	0.7	0.7	—	—	—
準共働き家庭	234	19.7	1.3	18.4	79.5	0.4	0.4	—	—	0.4
非共働き家庭	274	25.1	3.6	21.5	71.5	1.8	1.8	—	0.7	0.7
その他	86	18.6	3.5	15.1	74.4	1.2	1.2	—	2.3	3.5

II 調査の結果【一般市民】

<④洗濯>

◆理想は「男女で協力」が60.0%、『主として女性』が37.6%



【全体】

「男女で協力」(60.0%) が最も高く、次いで「主に女性」(33.1%) が高くなっています。

【性別】

女性は「男女で協力」(62.1%) が男性(56.2%) より5.9ポイント高くなっています。

【年齢別】

60歳以上は『主として女性』(46.4%) が他の年代に比べて高くなっています。

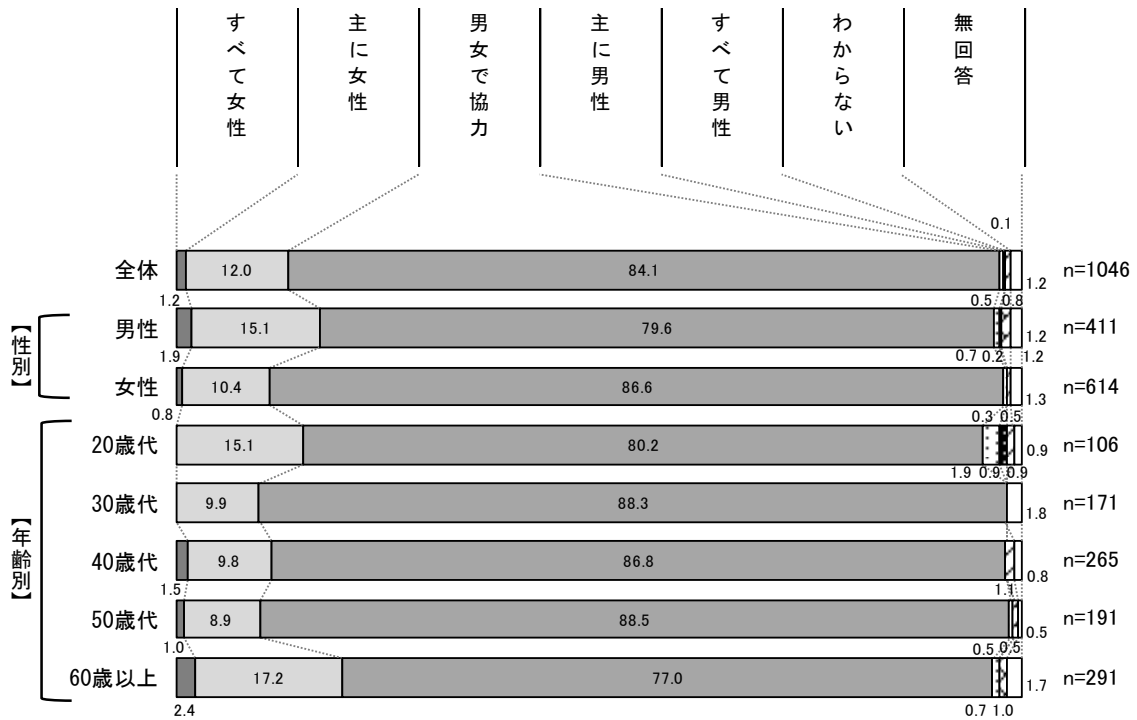
【共働き状況別】

共働き家庭は「男女で協力」(68.1%) が他の家庭に比べて高く、非共働き家庭は『主として女性』(44.9%) が他の家庭に比べて高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	39.0	4.4	34.6	58.9	0.4	0.4	—	1.0	0.8
共働き家庭	141	31.2	2.1	29.1	68.1	0.7	0.7	—	—	—
準共働き家庭	234	35.9	3.0	32.9	63.2	0.4	0.4	—	—	0.4
非共働き家庭	274	44.9	6.9	38.0	52.2	0.4	0.4	—	1.8	0.7
その他	86	40.7	3.5	37.2	53.5	—	—	—	2.3	3.5

<⑤育児・しつけ>

◆理想は「男女で協力」が84.1%、『主として女性』が13.2%



【全体】

「男女で協力」(84.1%) が最も高くなっています。

【性別】

女性は「男女で協力」(86.6%) が男性(79.6%) より7.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

30歳代～50歳代は「男女で協力」が9割弱と若干高くなっています。

【共働き状況別】

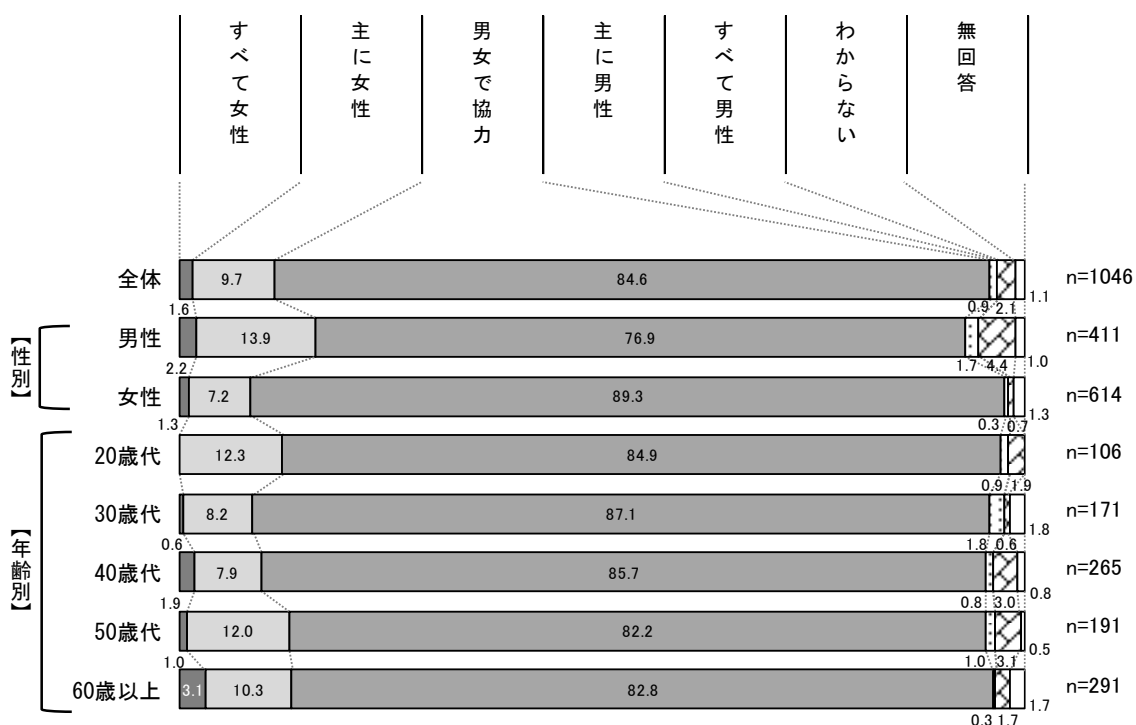
共働き状況別では、大きな差はみられませんでした。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	14.0	1.6	12.4	83.7	0.6	0.5	0.1	0.8	0.8
共働き家庭	141	14.2	0.7	13.5	85.1	0.7	0.7	—	—	—
準共働き家庭	234	13.7	0.9	12.8	85.5	0.4	0.4	—	—	0.4
非共働き家庭	274	12.8	2.2	10.6	85.0	0.4	—	0.4	1.5	0.4
その他	86	18.6	3.5	15.1	72.1	2.3	2.3	—	2.3	4.7

II 調査の結果【一般市民】

<⑥看護・介護>

◆理想は「男女で協力」が84.6%、『主として女性』が11.3%



【全体】

「男女で協力」(84.6%)が最も高くなっています。

【性別】

女性は「男女で協力」(89.3%)が男性(76.9%)より12.4ポイント高くなっています。

【年齢別】

30歳代は「男女で協力」(87.1%)が他の年代に比べて高くなっています。

【共働き状況別】

共働き状況別では、大きな差はみられませんでした。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	13.3	1.9	11.4	83.0	0.4	0.4	—	2.4	0.8
共働き家庭	141	11.3	—	11.3	84.4	0.7	0.7	—	3.5	—
準共働き家庭	234	16.3	1.3	15.0	81.2	0.9	0.9	—	1.3	0.4
非共働き家庭	274	10.6	2.6	8.0	85.8	—	—	—	3.3	0.4
その他	86	17.5	4.7	12.8	76.7	—	—	—	1.2	4.7

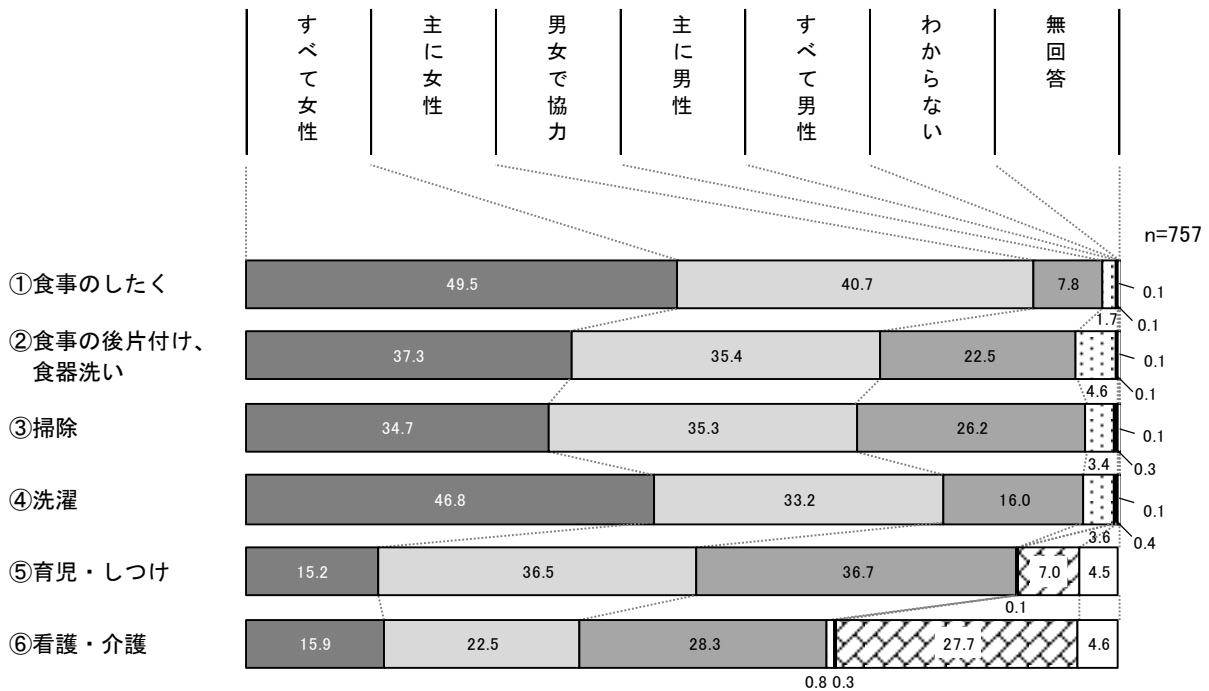
現在結婚している方（事実婚を含む）におたずねします。

問5 あなたの家庭では、次のような家庭内の仕事を、現実には主に誰が受けもっていますか。次の①～⑥について、それぞれ1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

- ◆現実には家庭内の仕事を『主として女性』が受けもっている。「食事のしたく」では約9割、「洗濯」では約8割
- ◆「育児・しつけ」では3割以上の人が「男女で協力」が現実

	①食事のしたく	②食事の後片付け、食器洗い	③掃除	④洗濯	⑤育児・しつけ	⑥看護・介護
『主として女性』	90.2%	72.7%	70.0%	80.0%	51.7%	38.4%
すべて女性	49.5%	37.3%	34.7%	46.8%	15.2%	15.9%
主に女性	40.7%	35.4%	35.3%	33.2%	36.5%	22.5%
男女で協力	7.8%	22.5%	26.2%	16.0%	36.7%	28.3%
『主として男性』	1.8%	4.7%	3.7%	4.0%	0.1%	1.1%
主に男性	1.7%	4.6%	3.4%	3.6%	0.1%	0.8%
すべて男性	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%	—	0.3%

『主として女性』…「すべて女性」と「主に女性」を合算
 『主として男性』…「すべて男性」と「主に男性」を合算



【全体】(①～⑥)

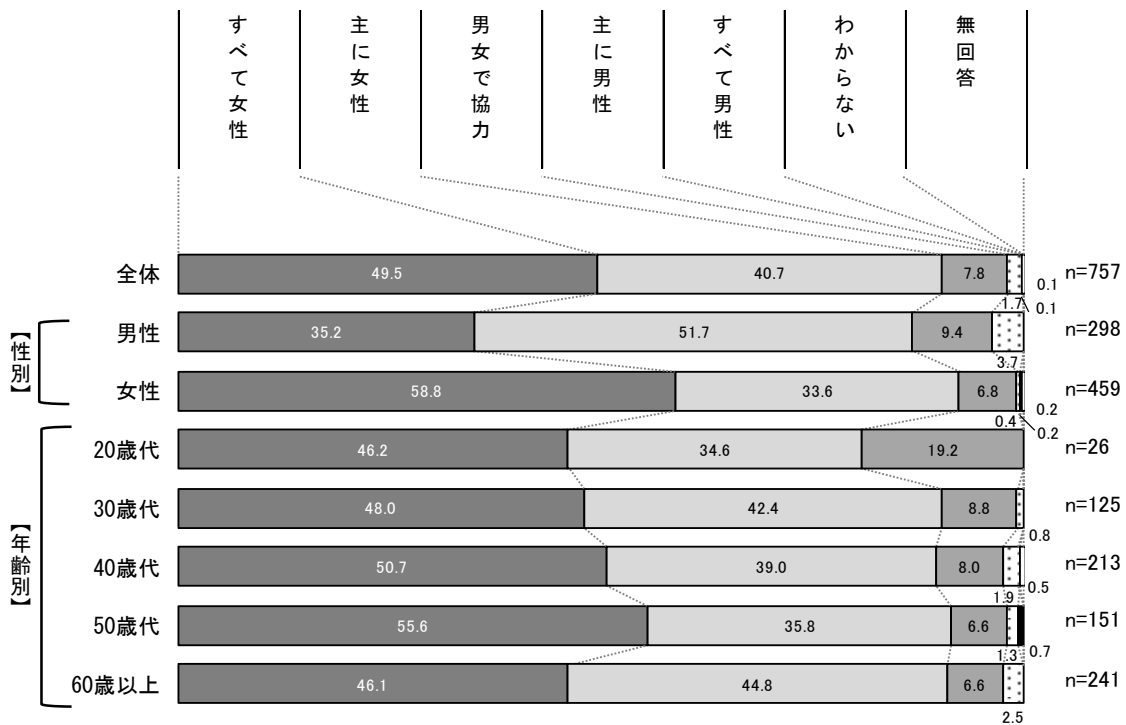
結婚している人の家庭内の仕事の分担の現実についてみると、すべての仕事について『主として女性』が「男女で協力」より高くなっており、「食事のしたく」では『主として女性』（90.2%）は約90%と高くなっています。「すべて女性」は「食事のしたく」、「食事の後片付け、食器洗い」、「洗濯」で最も高くなっています。

また、「育児・しつけ」・「看護・介護」では、『主として女性』と「男女で協力」との差が10ポイント台と、他の仕事に比べて小さくなっています。

II 調査の結果【一般市民】

<①食事のしたく>

◆現実には「すべて女性」が49.5%、「男女で協力」が7.8%



【全体】

「すべて女性」(49.5%) が最も高く、次いで「主に女性」(40.7%) が高くなっています。

【性別】

女性は「すべて女性」(58.8%) が男性(35.2%) より 23.6 ポイント高くなっています。

【年齢別】

50歳代は「すべて女性」(55.6%) が他の年代に比べて高くなっています。

【共働き状況別】

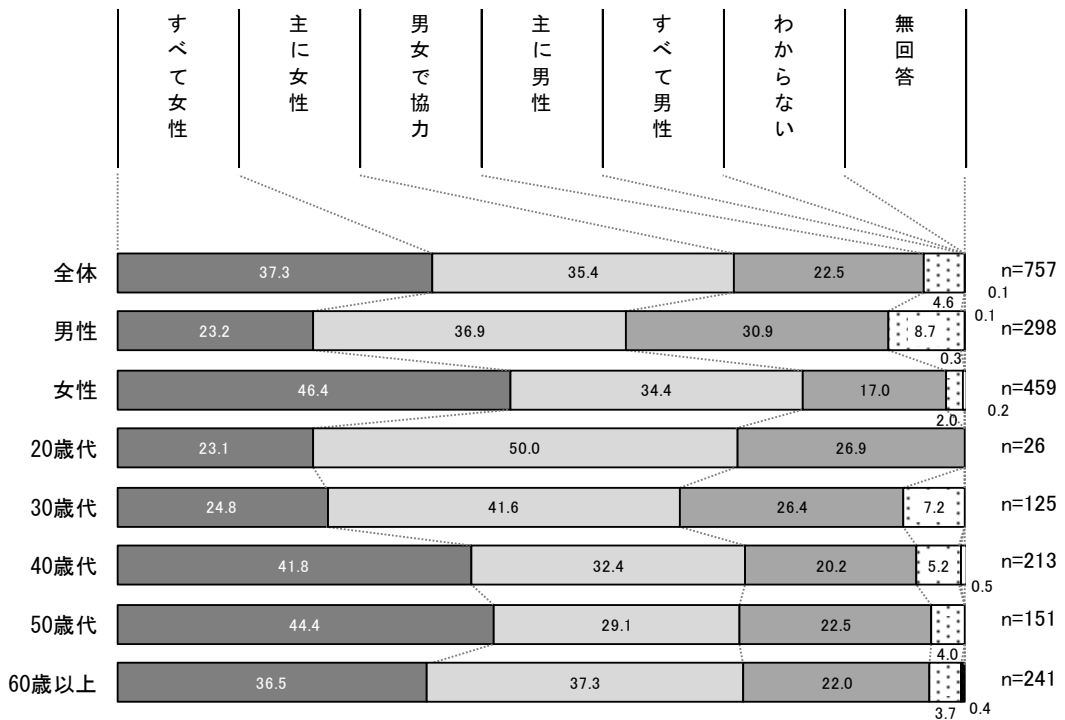
共働き家庭は『主として女性』(86.5%) が他の家庭に比べて若干低くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	90.4	49.3	41.1	7.6	1.9	1.8	0.1	—	0.1
共働き家庭	141	86.5	38.3	48.2	9.9	2.8	2.8	—	—	0.7
準共働き家庭	234	92.3	52.1	40.2	7.3	0.4	0.4	—	—	—
非共働き家庭	274	90.2	51.1	39.1	7.7	2.2	2.2	—	—	—
その他	86	91.9	53.5	38.4	4.7	3.5	2.3	1.2	—	—

(%)

<②食事の後片付け、食器洗い>

◆現実には「すべて女性」が37.3%、「男女で協力」が22.5%



【全体】

「すべて女性」(37.3%) が最も高く、次いで「主に女性」(35.4%) が高くなっています。

【性別】

女性は「すべて女性」(46.4%) が男性 (23.2%) より 23.2 ポイント高くなっています。

【年齢別】

50歳代は「すべて女性」(44.4%) が他の年代に比べて高くなっています。

【共働き状況別】

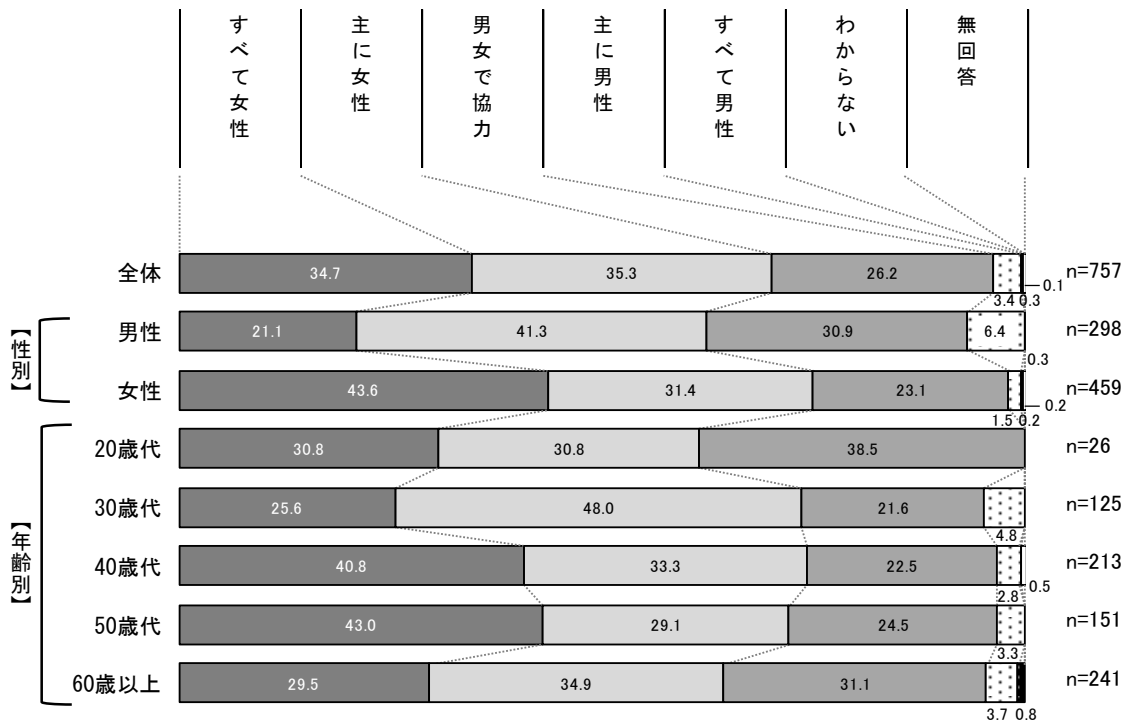
共働き家庭は「すべて女性」(19.1%) が他の家庭に比べて低く、「男女で協力」(36.2%) が他の家庭に比べて高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	72.4	36.9	35.5	22.7	4.8	4.8	—	—	0.1
共働き家庭	141	52.4	19.1	33.3	36.2	10.6	10.6	—	—	0.7
準共働き家庭	234	74.8	41.9	32.9	22.6	2.6	2.6	—	—	—
非共働き家庭	274	79.2	39.1	40.1	16.8	4.0	4.0	—	—	—
その他	86	76.7	45.3	31.4	19.8	3.5	3.5	—	—	—

II 調査の結果【一般市民】

<③掃除>

◆現実には「すべて女性」が34.7%、「男女で協力」が26.2%



【全体】

「すべて女性」(34.7%)と「主に女性」(35.3%)が高くなっています。

【性別】

女性は「すべて女性」(43.6%)が男性(21.1%)より22.5ポイント高くなっています。

【年齢別】

50歳代は「すべて女性」(43.0%)が他の年代に比べて高く、30歳代は「主に女性」(48.0%)が他の年代に比べて高くなっています。

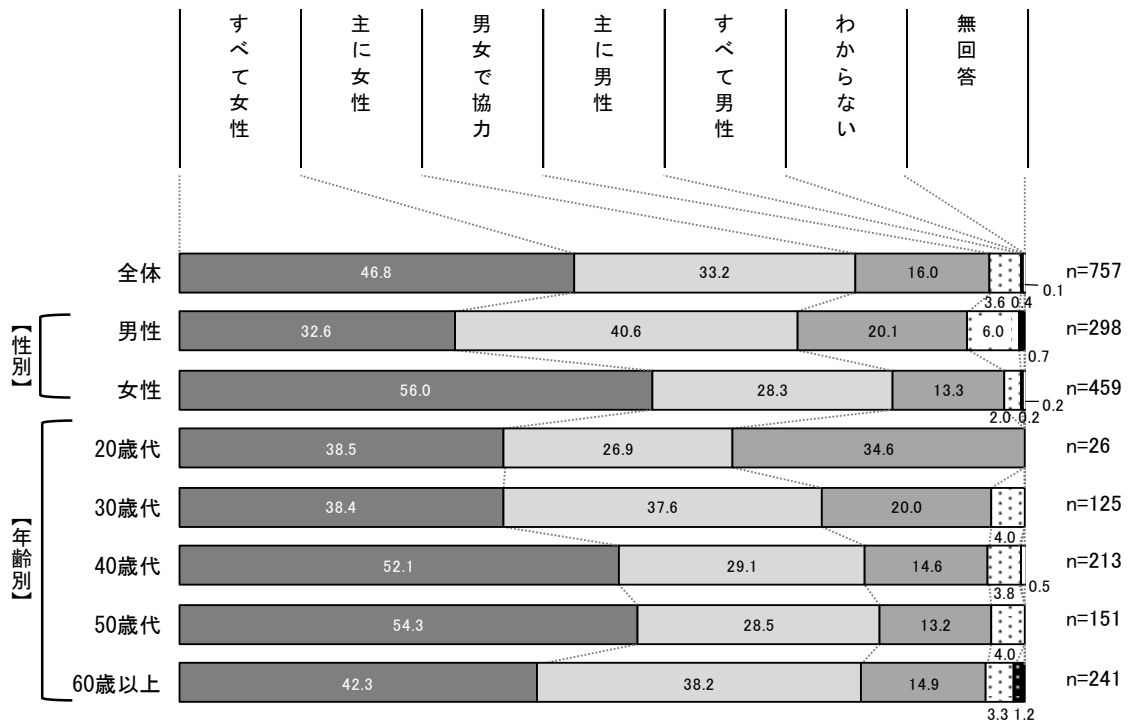
【共働き状況別】

共働き家庭は「すべて女性」(24.8%)が他の家庭に比べて低く、「男女で協力」(34.8%)が他の家庭に比べて高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	69.8	34.7	35.1	26.3	3.8	3.5	0.3	—	0.1
共働き家庭	141	56.0	24.8	31.2	34.8	8.5	8.5	—	—	0.7
準共働き家庭	234	77.3	36.3	41.0	21.8	0.9	0.9	—	—	—
非共働き家庭	274	72.7	38.0	34.7	23.4	4.0	3.3	0.7	—	—
その他	86	62.7	36.0	26.7	33.7	3.5	3.5	—	—	—

<④洗濯>

◆現実には「すべて女性」が46.8%、「男女で協力」が16.0%



【全体】

「すべて女性」(46.8%) が最も高く、次いで「主に女性」(33.2%) が高くなっています。

【性別】

女性は「すべて女性」(56.0%) が男性(32.6%) より23.4ポイント高くなっています。

【年齢別】

50歳代は「すべて女性」(54.3%) が他の年代に比べて高く、20歳代は「男女で協力」(34.6%) が他の年代に比べて高くなっています。

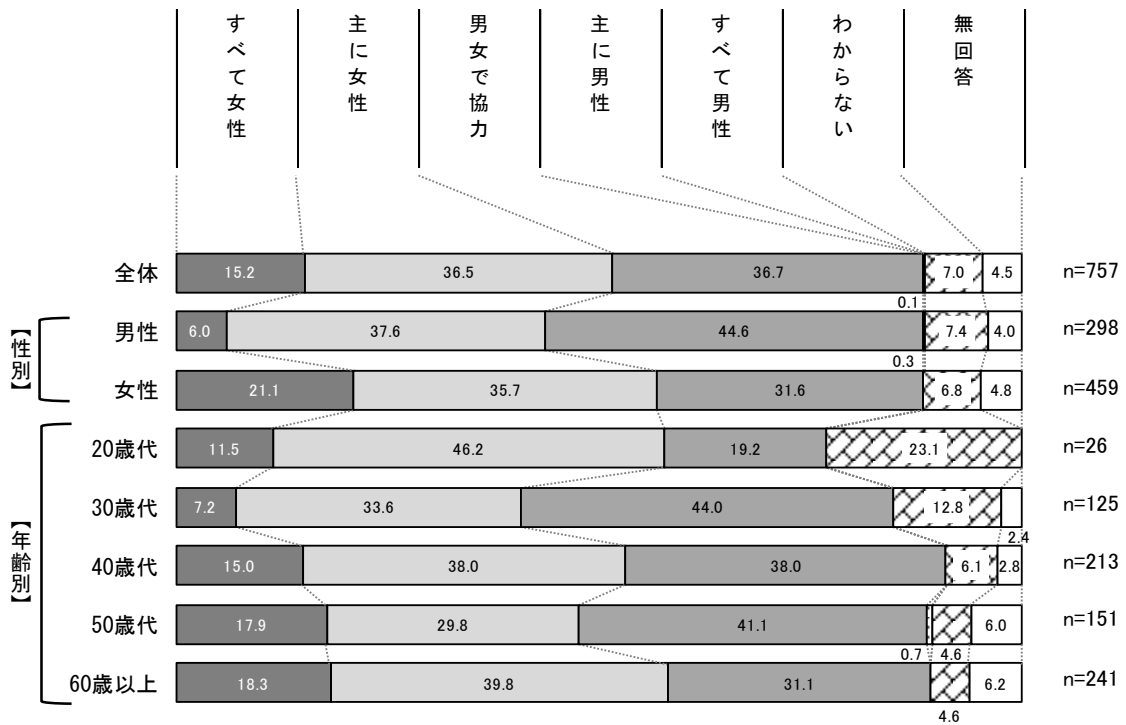
【共働き状況別】

共働き家庭は「すべて女性」(31.2%) が他の家庭に比べて低く、「男女で協力」(26.2%) が他の家庭に比べて高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	79.8	46.3	33.5	16.1	4.1	3.7	0.4	—	0.1
共働き家庭	141	64.5	31.2	33.3	26.2	8.5	8.5	—	—	0.7
準共働き家庭	234	83.7	48.7	35.0	14.5	1.7	1.7	—	—	—
非共働き家庭	274	83.9	50.7	33.2	12.0	4.0	2.9	1.1	—	—
その他	86	80.2	50.0	30.2	16.3	3.5	3.5	—	—	—

<⑤育児・しつけ>

◆現実には『主として女性』が51.7%、「男女で協力」が36.7%



【全体】

「男女で協力」(36.7%)と「主に女性」(36.5%)がともに高くなっています。

【性別】

女性は『主として女性』(56.8%)が男性(43.6%)より13.2ポイント高くなっています。このうち「すべて女性」(21.1%)は男性(6.0%)より15.1ポイント高くなっています。

【年齢別】

30歳代は『主として女性』(40.8%)が他の年代に比べて低くなっています。

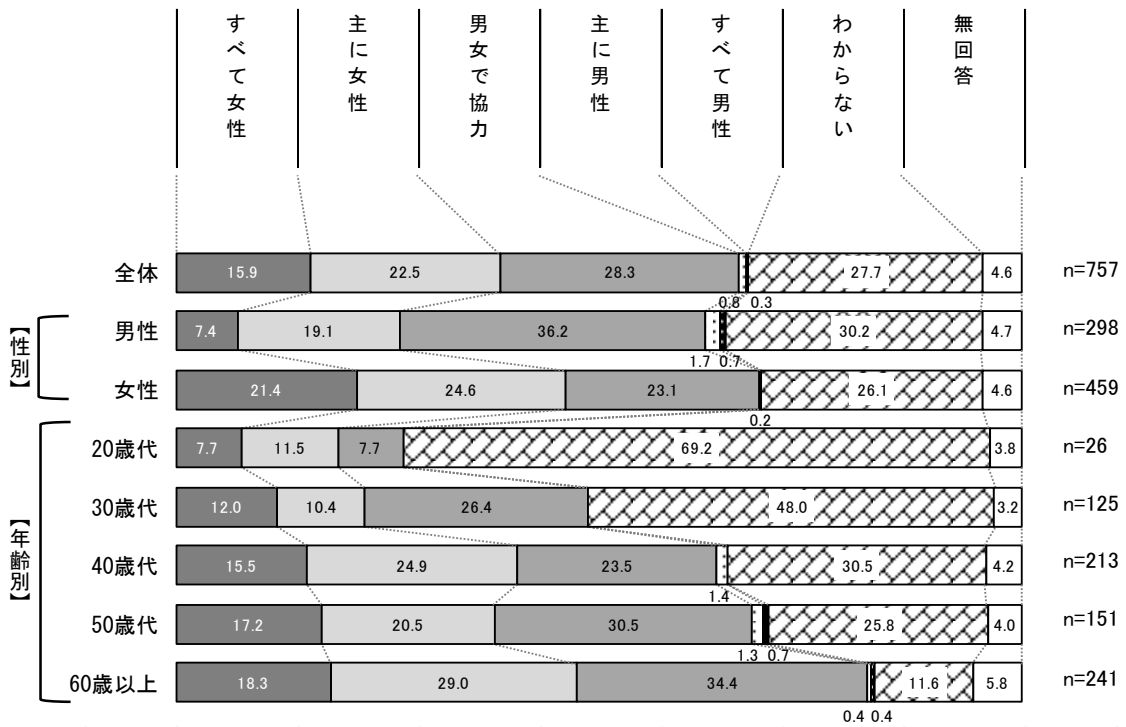
【共働き状況別】

共働き家庭は『主として女性』(43.3%)が準共働き家庭や非共働き家庭に比べて若干低くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	51.7	15.1	36.6	37.1	0.1	0.1	—	6.9	4.1
共働き家庭	141	43.3	13.5	29.8	43.3	—	—	—	9.9	3.5
準共働き家庭	234	50.8	12.8	38.0	41.5	0.4	0.4	—	4.7	2.6
非共働き家庭	274	52.6	13.9	38.7	36.5	—	—	—	7.3	3.6
その他	86	65.1	27.9	37.2	17.4	—	—	—	7.0	10.5

<⑥看護・介護>

◆現実には『主として女性』が38.4%、「男女で協力」が28.3%



【全体】

「男女で協力」(28.3%) とともに「わからない」(27.7%) も高くなっています。

【性別】

女性は『主として女性』(46.0%) が男性(26.5%) より 19.5 ポイント高くなっています。男性は「男女で協力」(36.2%) が女性(23.1%) より 13.1 ポイント高くなっています。

【年齢別】

年齢が高いほど「わからない」が低く、20歳代は69.2%であるのに対し、60歳以上は11.6%となっています。この影響もあり、「すべて女性」、「主に女性」、「男女で協力」のいずれも60歳以上が最も高くなっています。

【共働き状況別】

共働き家庭は『主として女性』(32.0%) が準共働き家庭や非共働き家庭に比べて若干低くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	735	38.5	15.9	22.6	28.6	1.1	0.8	0.3	27.6	4.2
共働き家庭	141	32.0	12.1	19.9	27.7	1.4	0.7	0.7	34.8	4.3
準共働き家庭	234	38.4	16.2	22.2	31.2	0.9	0.9	—	27.4	2.1
非共働き家庭	274	35.8	15.0	20.8	29.2	1.1	0.7	0.4	29.6	4.4
その他	86	58.1	24.4	33.7	20.9	1.2	1.2	—	10.5	9.3

II 調査の結果【一般市民】

【理想と現実の比較】（家庭内の仕事の分担）

理想ではすべての仕事で「男女で協力」が最も高くなっていますが、現実ではすべての仕事で『主として女性』が最も高くなっています。

理想と現実の差についてみると、「男女で協力」はすべての仕事で理想が現実より 40 ポイント以上高くなっています。

『主として女性』は「育児・しつけ」・「看護・介護」を除くすべて『主として女性』の仕事で現実が理想より 40 ポイント以上高くなっています。

(%)

	①食事のしたく			②食事の後片付け、食器洗い			③掃除		
	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』
理想	46.3	51.9	0.1	19.9	74.6	3.6	19.5	77.7	1.3
現実	90.2	7.8	1.8	72.7	22.5	4.7	70.0	26.2	3.7
差(現実－理想)	43.9	-44.1	1.7	52.8	-52.1	1.1	50.5	-51.5	2.4
	④洗濯			⑤育児・しつけ			⑥看護・介護		
	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』
理想	37.6	60.0	0.4	13.2	84.1	0.6	11.3	84.6	0.9
現実	80.0	16.0	4.0	51.7	36.7	0.1	38.4	28.3	1.1
差(現実－理想)	42.4	-44.0	3.6	38.5	-47.4	-0.5	27.1	-56.3	0.2

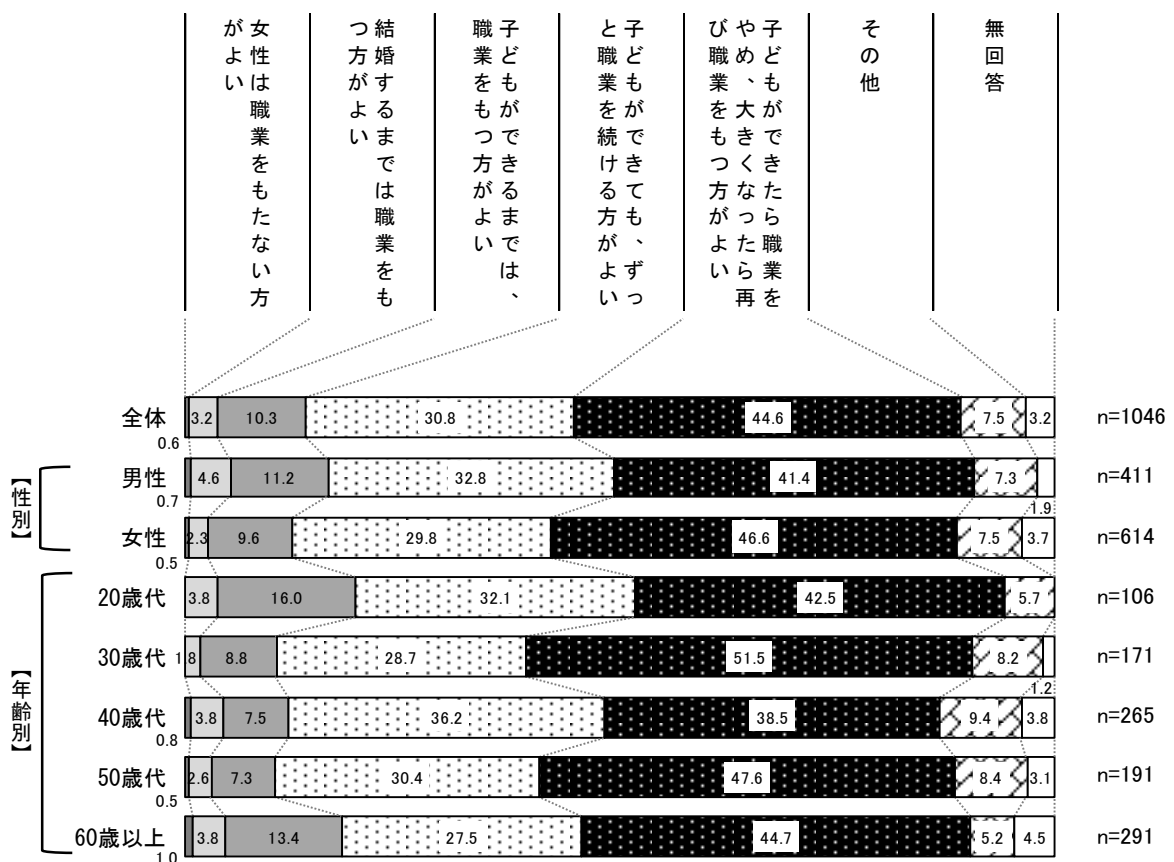
4 職業生活について

4-1 女性が職業をもつことについて

問6 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)

- ◆ 「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(44.6%)が最も高い
- ◆ 「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の差は前回調査時よりも小さい

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
女性は職業をもたない方がよい	0.6%	0.5%	0.9%
結婚するまでは職業をもつ方がよい	3.2%	4.9%	5.4%
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	10.3%	10.1%	7.4%
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	30.8%	26.9%	25.9%
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	44.6%	49.8%	45.9%



II 調査の結果【一般市民】

【全体】

「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(44.6%)が最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(30.8%)が高くなっています。

【性別】

女性は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(46.6%)が男性(41.4%)より5.2ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」(16.0%)、30歳代は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(51.5%)がそれぞれ他の年代に比べて高くなっています。また、40歳代は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(36.2%)が他の年代に比べて高くなっています。

【性・年齢別】

20歳代・30歳代は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は女性が男性より約9ポイント高くなっています。

		(%)							
		件数 (件)	女性 は職業を もたない 方がよい	結婚する までは職業を もつ方がよい	子どもが できるまでは、 職業をもつ 方がよい	子どもが できて、ずっ と職業を 続ける方が よい	子どもが できたなら 職業をやめ、 大きくなっ たら再び 職業をもつ 方がよい	その他	無回答
全体		1,046	0.6	3.2	10.3	30.8	44.6	7.5	3.2
20歳代	男性	43	—	—	18.6	37.2	37.2	7.0	—
	女性	63	—	6.3	14.3	28.6	46.0	4.8	—
30歳代	男性	67	—	1.5	7.5	31.3	46.3	11.9	1.5
	女性	104	—	1.9	9.6	26.9	54.8	5.8	1.0
40歳代	男性	94	—	7.4	8.5	38.3	34.0	8.5	3.2
	女性	171	1.2	1.8	7.0	35.1	40.9	9.9	4.1
50歳代	男性	80	—	3.8	8.8	31.3	46.3	8.8	1.3
	女性	111	0.9	1.8	6.3	29.7	48.6	8.1	4.5
60歳以上	男性	127	2.4	6.3	14.2	29.1	42.5	3.1	2.4
	女性	164	—	1.8	12.8	26.2	46.3	6.7	6.1

【職業別】

公務員（50.9%）、派遣・契約社員（40.0%）は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が高くなっています。

(%)

	件数 (件)	女性は職業をもたない 方がよい	結婚するまでは職業を もつ方がよい	子どもができるまでは、 職業をもつ方がよい	子どもができて、ずつ と職業を続ける方がよい	子どもができたなら職業 をやめ、大きくなったら 再び職業をもつ方がよい	その他	無回答
会社員	320	0.3	1.9	9.7	37.5	40.3	8.4	1.9
公務員	53	—	—	11.3	50.9	24.5	11.3	1.9
派遣・契約社員	30	—	6.7	3.3	40.0	43.3	3.3	3.3
パートタイム・アルバイト	210	1.0	1.4	8.6	24.3	51.9	9.0	3.8
自営業	65	—	9.2	7.7	29.2	47.7	3.1	3.1
農業	3	—	—	33.3	33.3	33.3	—	—
内職・在宅就業	9	—	—	11.1	44.4	44.4	—	—
専業主婦・専業主夫	174	1.1	4.6	14.4	19.0	48.9	7.5	4.6
学生	24	—	4.2	25.0	29.2	37.5	4.2	—
無職	100	—	6.0	10.0	32.0	46.0	3.0	3.0
その他	27	3.7	3.7	—	40.7	44.4	7.4	—

■「その他」の内訳

意見(74件)
・ 本人次第。個人の自由。(28件)
・ 家庭等の状況による。(18件)
・ 夫婦で相談して決めればよい。(4件)
・ 時短や男性の定時帰宅などを活かして職業を続ける方がよい。(2件)
・ 育休後に働くのが良い。(2件)
・ その他(20件)

II 調査の結果【一般市民】

【全国調査との比較】（女性が職業をもつことについて）

本市は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（44.6%）が最も高く、国（26.3%）より 18.3 ポイント高くなっています。一方、国は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」（54.2%）が最も高く、本市（30.8%）より 23.4 ポイント高くなっています。

(%)

	春日井市		国(平成 28 年)			
	男性	女性		男性	女性	
女性は職業をもたない方がよい	0.6	0.7	0.5	3.3	3.8	2.8
結婚するまでは職業をもつ方がよい	3.2	4.6	2.3	4.7	4.8	4.6
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	10.3	11.2	9.6	8.4	9.6	7.4
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	30.8	32.8	29.8	54.2	52.9	55.3
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	44.6	41.4	46.6	26.3	24.3	28.0
その他	7.5	7.3	7.5	1.5	1.9	1.1
わからない ※国のみ	—	—	—	1.6	2.7	0.7

【中学生・高校生との比較】

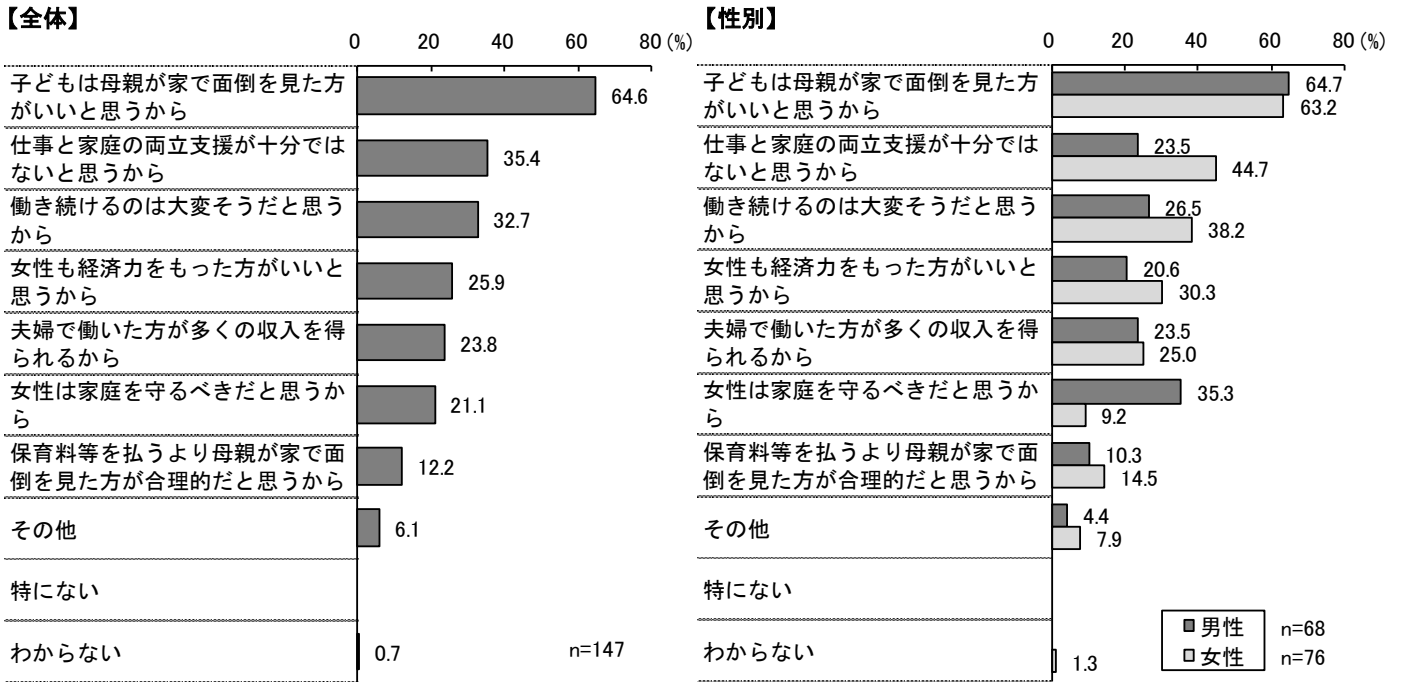
中学生・高校生は一般市民と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が低くなっています。

(%)

	中学生	高校生	一般市民
女性は職業をもたない方がよい	1.3	0.2	0.6
結婚するまでは職業をもつ方がよい	11.5	8.7	3.2
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	11.5	14.9	10.3
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	17.1	17.8	30.8
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	37.6	41.3	44.6
わからない	20.3	16.7	—

問6で、「1 女性は職業をもたない方がよい」「2 結婚するまでは職業をもつ方がよい」「3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」のいずれかに回答した方におたずねします。
 問6(1) その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

◆ “女性は生涯もしくは結婚・出産以降は職業をもたない方がよい”理由の第1位は「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」



【全体】

“女性は生涯もしくは結婚・出産以降は職業をもたない方がよい”と答えた理由は、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」(64.6%)が最も高く、次いで「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」(35.4%)、「働き続けるのは大変そうだと思うから」(32.7%)が高くなっています。

【性別】

男性は「女性は家庭を守るべきだと思うから」(35.3%)が女性(9.2%)より26.1ポイント高くなっています。

女性は「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」(44.7%)が男性(23.5%)より21.2ポイント高くなっており、「働き続けるのは大変そうだと思うから」(38.2%)も男性(26.5%)より11.7ポイント高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【年齢別】

40歳代は「女性も経済力をもった方がいいと思うから」(6.3%)が低くなっています。

(%)

	件数(件)	から倒を見た方がいいと思う	子どもは母親が家で面倒をを見た方がいいと思う	仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	働き続けるのは大変そうだと思うから	女性も経済力をもった方がいいと思うから	収入を得られるから	夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	女性も家庭を守るべきだと思うから	親が家で面倒を見た方が合理的だと思うから	保育料等を払うより母親が家で面倒を見た方が合理的だと思うから	その他	特にな	わからない
20歳代	21	61.9	28.6	38.1	42.9	42.9	19.0	9.5	9.5	—	4.8			
30歳代	18	55.6	44.4	55.6	33.3	38.9	11.1	22.2	5.6	—	—			
40歳代	32	68.8	28.1	37.5	6.3	15.6	28.1	12.5	6.3	—	—			
50歳代	20	60.0	50.0	35.0	25.0	25.0	25.0	10.0	15.0	—	—			
60歳以上	53	66.0	32.1	18.9	28.3	17.0	20.8	11.3	1.9	—	—			

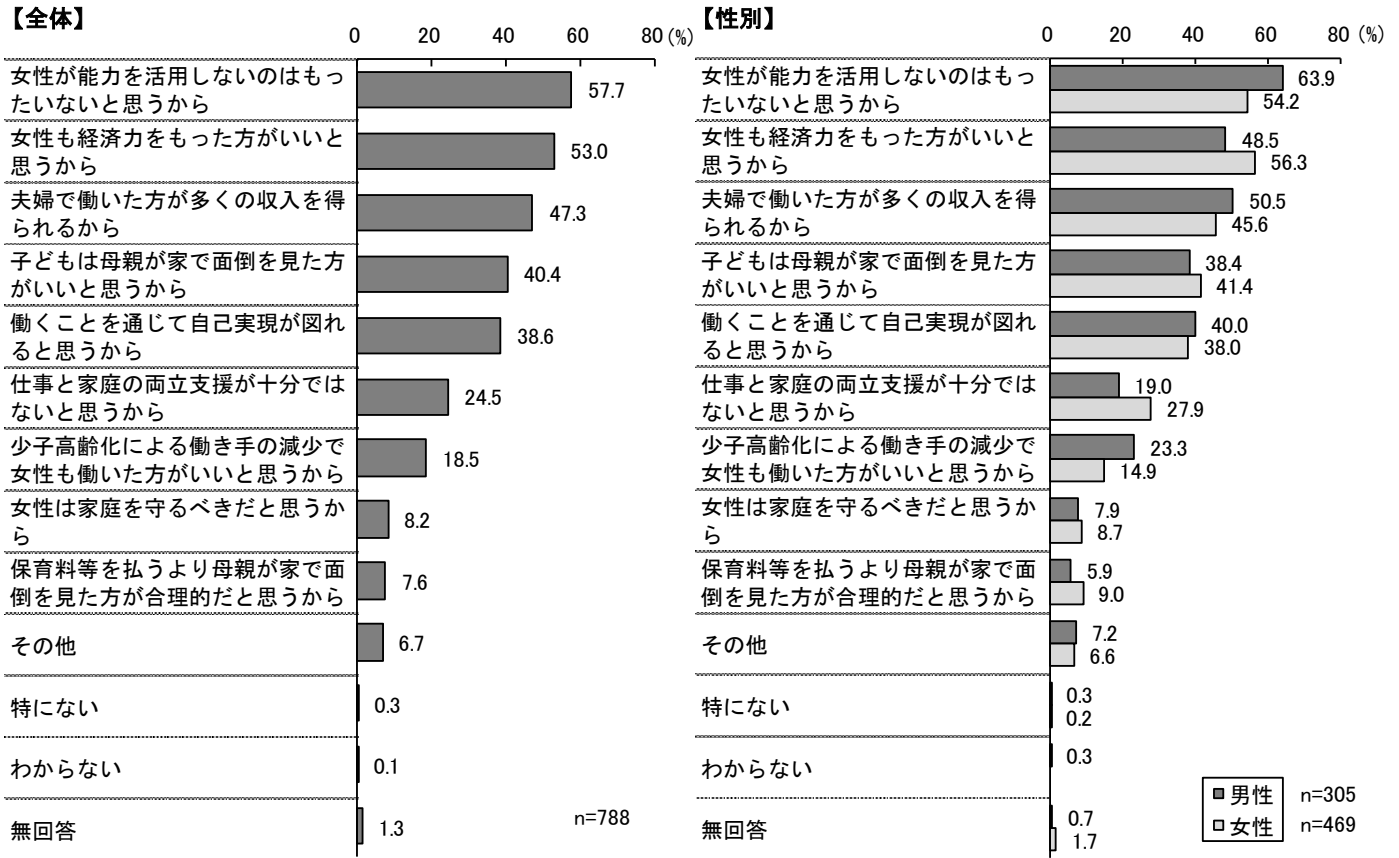
■「その他」の内訳

意見(9件)
・ 社会に出た方がよいと思うので。(3件)
・ 子どもが小さいうちは親と一緒に過ごした方がよいと思うから。(2件)
・ その他(4件)

問6で、「4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」または「5 子どもができたから職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した方におたずねします。

問6(2) その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

◆ “女性は出産に関わらず職業をもつ方がよい”理由の第1位は「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」



【全体】

“女性は出産に関わらず（出産した場合、子育ての時期を除いたとしても）職業をもつ方がよい”と答えた理由は、「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」（57.7%）が最も高く、次いで「女性も経済力をもった方がよいと思うから」（53.0%）、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」（47.3%）が高くなっています。

【性別】

男性は「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」（63.9%）、「少子高齢化で働き手が減少しているため、女性も働いた方がよいと思うから」（23.3%）が女性より若干高くなっています。

女性は「女性も経済力をもった方がよいと思うから」（56.3%）、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」（27.9%）が男性より若干高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【年齢別】

30歳代は「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから	女性も経済力をもった方がいいと思うから	夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから	働くことを通じて自己実現が図れると思うから	仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	少子高齢化による働き手の減少で女性も働いた方がいいと思うから	女性は家庭を守るべきだと思うから	保育料等を払うより母親が家で面倒を見た方が合理的だと思うから	その他	特になし	わからない	無回答
20歳代	79	49.4	43.0	55.7	26.6	32.9	21.5	17.7	3.8	8.9	6.3	—	1.3	—
30歳代	137	52.6	48.9	59.1	41.6	38.0	32.1	13.1	8.0	11.7	8.8	0.7	—	0.7
40歳代	198	56.1	54.0	48.5	38.4	36.9	22.2	12.1	9.6	9.1	7.1	—	—	1.0
50歳代	149	63.8	55.0	43.6	45.6	39.6	22.1	24.2	5.4	4.7	7.4	0.7	—	2.7
60歳以上	210	62.4	57.6	38.6	42.4	42.4	23.8	23.3	11.4	5.7	5.2	—	—	1.4

■「その他」の内訳

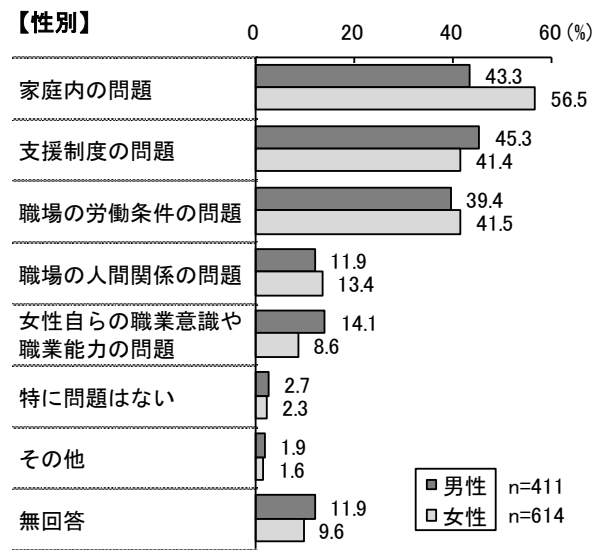
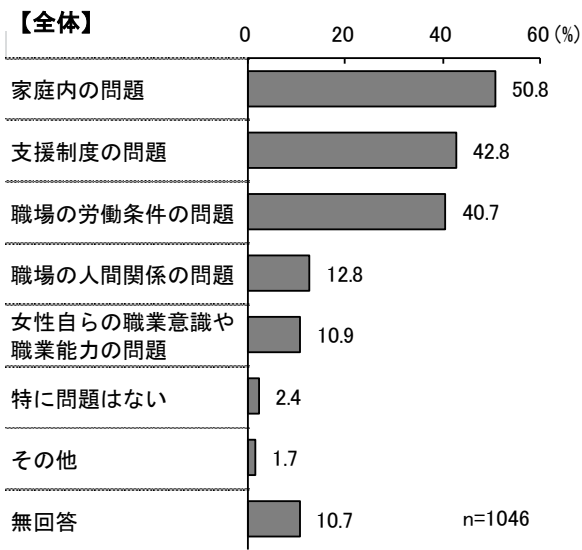
意見(52件)
・ 子どもが小さいうちは親と一緒にいた方がよいと思うから。(8件)
・ 女性も社会とのつながりをもった方がよいから。(7件)
・ 夫婦ともに収入が必要だから。(5件)
・ 子どもと一緒にいたいから、いてあげたいから。(4件)
・ 子どもに働く姿を見せた方がよいと思うから。(3件)
・ 職場での重要な戦力として女性の能力が必要だから。(2件)
・ 子どもが生まれても女性が安心して働ける社会になるべきだと思うから。(2件)
・ その他(21件)

4-2 女性の職業生活における障害

問7 あなたは、女性が職業をもったり、職業生活を続けたりする上で、障害となっているものは何だと思えますか。(〇は2つまで)

- ◆「家庭内の問題」(50.8%)が最も高い
- ◆前回調査と比べて「家庭内の問題」は約10ポイント減少したが、「職場の人間関係の問題」は微増
- ◆性別で見ると、女性は「家庭内の問題」が男性より13.2ポイント高い

	平成28年9月	平成22年9月
家庭内の問題	50.8%	60.6%
支援制度の問題	42.8%	45.1%
職場の労働条件の問題	40.7%	45.8%
職場の人間関係の問題	12.8%	9.5%
女性自らの職業意識や職業能力の問題	10.9%	12.4%
特に問題はない	2.4%	2.6%



【全体】

「家庭内の問題」(50.8%)が最も高く、次いで「支援制度の問題」(42.8%)、「職場の労働条件の問題」(40.7%)が高くなっています。

【性別】

女性は「家庭内の問題」(56.5%)が男性(43.3%)より13.2ポイント高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【年齢別】

20歳代は「職場の人間関係の問題」(22.6%)が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数 (件)	家庭内の問題	支援制度の問題	職場の労働条件 の問題	職場の人間関係 の問題	女性自らの職業 意識や職業能力 の問題	特に問題はない	その他	無回答
20歳代	106	41.5	42.5	41.5	22.6	10.4	4.7	1.9	6.6
30歳代	171	42.1	48.0	42.7	12.9	14.6	1.8	3.5	11.7
40歳代	265	53.6	44.9	40.8	10.9	9.1	1.9	1.9	9.8
50歳代	191	55.5	38.7	37.7	11.5	9.9	3.7	1.0	13.1
60歳以上	291	55.3	40.9	40.9	11.7	11.0	1.7	1.0	10.3

【子どもの有無別】

「家庭内の問題」は子どものいる人(54.5%)がいない人(45.0%)より9.5ポイント高くなっています。

(%)

	件数 (件)	家庭内の問題	支援制度の問題	職場の労働条件 の問題	職場の人間関係 の問題	女性自らの職業 意識や職業能力 の問題	特に問題はない	その他	無回答
子どもがいる	739	54.5	41.9	41.0	12.9	9.5	1.5	1.6	10.6
子どもはいない	220	45.0	42.7	38.6	11.4	14.5	5.0	2.3	10.9

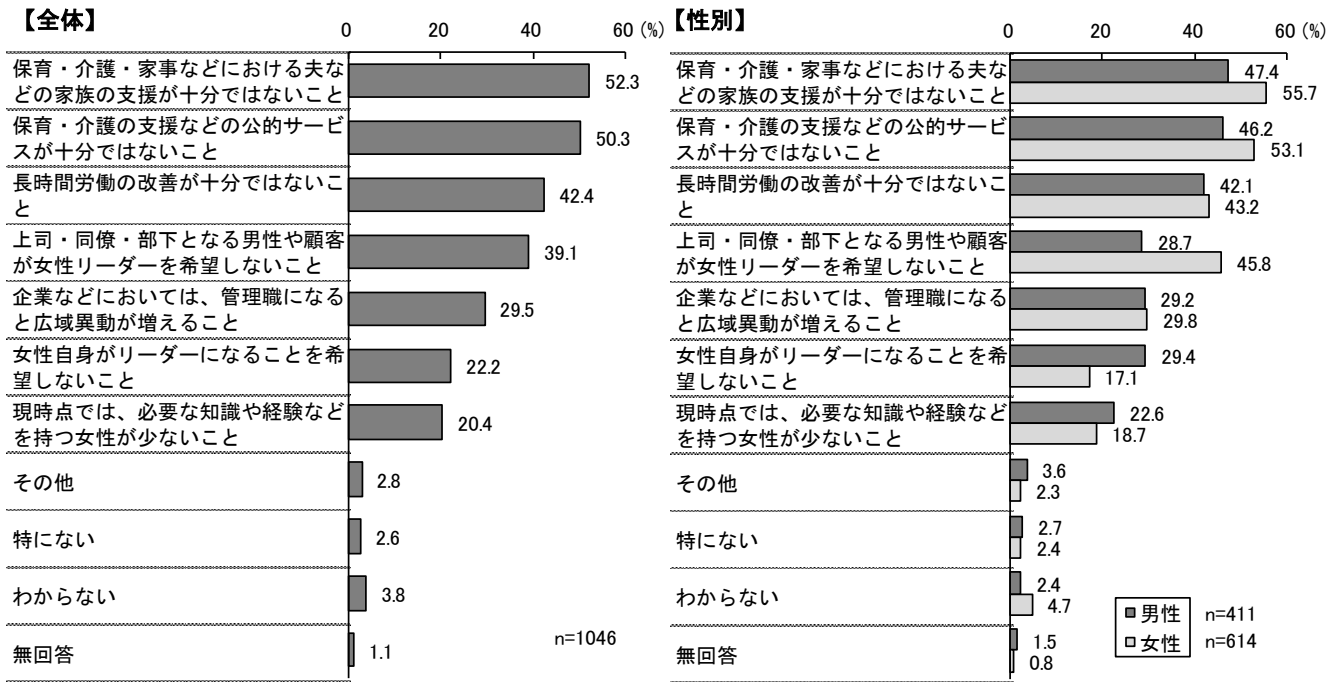
■「その他」の内訳

意見(16件)
・ 「女は家庭」という固定観念や社会的風潮。(4件)
・ 育休を取ると会社の元のポジションに戻れない。
・ その他(11件)

4-3 各分野で女性のリーダーを増やすときの障害

問8 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに、障害となるものは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

◆「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」がともに約5割



【全体】

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(52.3%)が最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(50.3%)、「長時間労働の改善が十分ではないこと」(42.4%)が高くなっています。

【性別】

女性は「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」(45.8%)が男性(28.7%)より17.1ポイント高く、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(55.7%)も男性(47.4%)より8.3ポイント高くなっています。

男性は「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」(29.4%)が女性(17.1%)より12.3ポイント高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【年齢別】

20 歳代・30 歳代は「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が他の年代に比べて高く、50 歳代は「長時間労働の改善が十分ではないこと」(52.9%) が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	その他	特になし	わからない	無回答
20 歳代	106	45.3	43.4	39.6	47.2	24.5	19.8	15.1	3.8	0.9	3.8	0.9
30 歳代	171	54.4	54.4	43.3	45.6	27.5	21.1	15.8	2.9	1.8	6.4	0.6
40 歳代	265	54.3	49.4	37.4	38.1	24.9	21.9	18.5	4.9	3.8	2.3	1.1
50 歳代	191	55.0	51.8	52.9	36.6	33.5	23.0	22.5	2.1	2.6	2.6	0.5
60 歳以上	291	50.5	50.2	41.6	34.4	34.4	23.0	25.1	1.0	2.4	4.5	1.7

【子どもの有無別】

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」は子どものいる人(54.7%) がいない人(46.4%) より 8.3 ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	その他	特になし	わからない	無回答
子どもがいる	739	54.7	50.3	43.4	37.8	30.0	21.8	20.8	2.3	2.6	3.7	1.4
子どもはいない	220	46.4	53.2	39.1	41.8	29.1	25.0	16.8	3.6	2.3	4.1	0.5

【全国調査との比較】（各分野で女性のリーダーを増やすときの障害）

本市は「企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること」（29.5%）、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」（22.2%）が国より約 10 ポイント高く、他の項目も国より概ね高くなっています。

性別でみると、本市の男性は「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」（29.4%）が女性（17.1%）より 12.3 ポイント高いのに対し、国の男性（14.1%）は女性（12.1%）より 2.0 ポイント高いのみとなっています。

(%)

	春日井市		国(平成 26 年)			
	男性	女性	男性	女性		
保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	52.3	47.4	55.7	50.1	44.1	54.8
保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	50.3	46.2	53.1	42.3	38.7	45.2
長時間労働の改善が十分ではないこと	42.4	42.1	43.2	38.8	34.5	42.3
上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	39.1	28.7	45.8	31.1	23.6	37.1
企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	29.5	29.2	29.8	18.6	18.4	18.7
女性自身がリーダーになることを希望しないこと	22.2	29.4	17.1	12.9	14.1	12.1
現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	20.4	22.6	18.7	18.1	20.6	16.1
その他	2.8	3.6	2.3	0.5	0.9	0.2
特になし	2.6	2.7	2.4	3.9	5.4	2.8
わからない	3.8	2.4	4.7	3.4	3.0	3.6

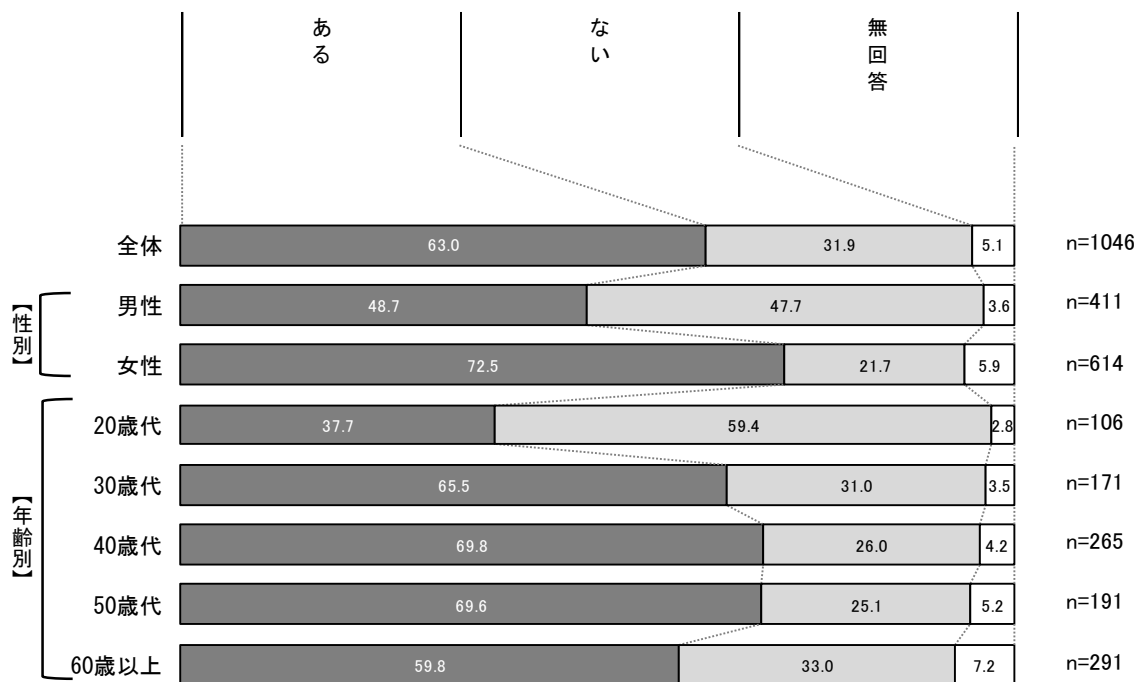
■「その他」の内訳

意見(28件)
・ 女性の地位に対する社会の意識が低いこと。(8件)
・ 生理・妊娠・出産・育児により女性の就業がとぎれること。(4件)
・ 女性は感情的なためリーダーとしての資質に欠けるとされていること。(2件)
・ その他(14件)

4-4 自己都合による離職・転職

問9 あなたは、これまでに自己都合で離職もしくは転職をしたことがありますか。(○は1つ)

- ◆ 「ある」が約6割、「ない」が約3割
- ◆ 「ある」は女性で約7割、男性で約5割



【全体】

「ある」が63.0%、「ない」が31.9%となっています。

【性別】

女性は「ある」(72.5%)が男性(48.7%)より23.8ポイント高くなっています。

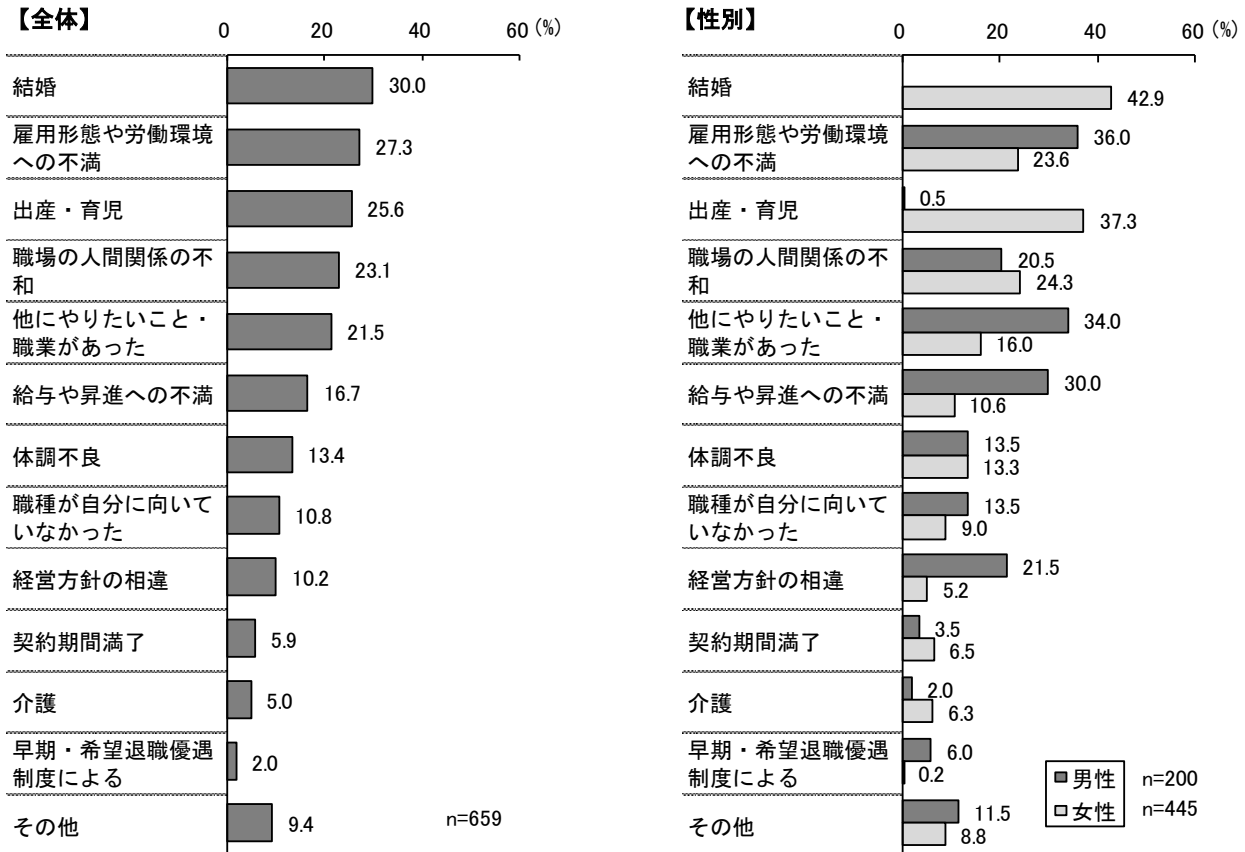
【年齢別】

40歳代・50歳代は「ある」が約70%と若干高く、20歳代は「ある」が37.7%と低くなっています。

問9で、「1 ある」と回答した方におたずねします。

問9(1) 離職・転職をした理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

◆男性では「雇用形態や労働環境への不満」、「他にやりたいこと・職業があった」が上位、
女性では「結婚」、「出産・育児」が上位



【全体】

「結婚」(30.0%) が最も高く、次いで「雇用形態や労働環境への不満」(27.3%)、「出産・育児」(25.6%) が高くなっています。

【性別】

男性は「雇用形態や労働環境への不満」(36.0%) が最も高く、次いで「他にやりたいこと・職業があった」(34.0%)、「給与や昇進への不満」(30.0%) が高くなっており、職場に関わる理由が上位にあがっています。

女性は「結婚」(42.9%) が最も高く、次いで「出産・育児」(37.3%) が高くなっており、家庭に関わる理由が上位にあがっています。

II 調査の結果【一般市民】

【年齢別】

20 歳代は「職場の人間関係の不和」、「体調不良」、「職種が自分に向いていなかった」が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数 (件)	結婚	雇用形態や労働環境 への不満	出産・育児	職場の人間関係の不和	他にやりたいこと・職業があった	給与や昇進への不満	体調不良	職種が自分に向いていなかった	経営方針の相違	契約期間満了	介護	早期・希望退職優遇 制度による	その他
20 歳代	40	25.0	32.5	15.0	47.5	25.0	22.5	30.0	25.0	7.5	2.5	—	—	—
30 歳代	112	21.4	36.6	31.3	25.0	26.8	24.1	14.3	11.6	10.7	6.3	0.9	—	8.9
40 歳代	185	30.8	28.6	27.6	24.9	21.6	17.3	10.3	8.1	11.4	6.5	2.2	2.2	8.6
50 歳代	133	33.8	32.3	30.1	18.8	21.1	18.8	12.8	9.0	9.8	3.0	3.8	0.8	12.8
60 歳以上	174	31.6	15.5	19.5	17.8	17.8	8.0	12.6	9.8	9.8	6.9	12.6	4.6	10.9

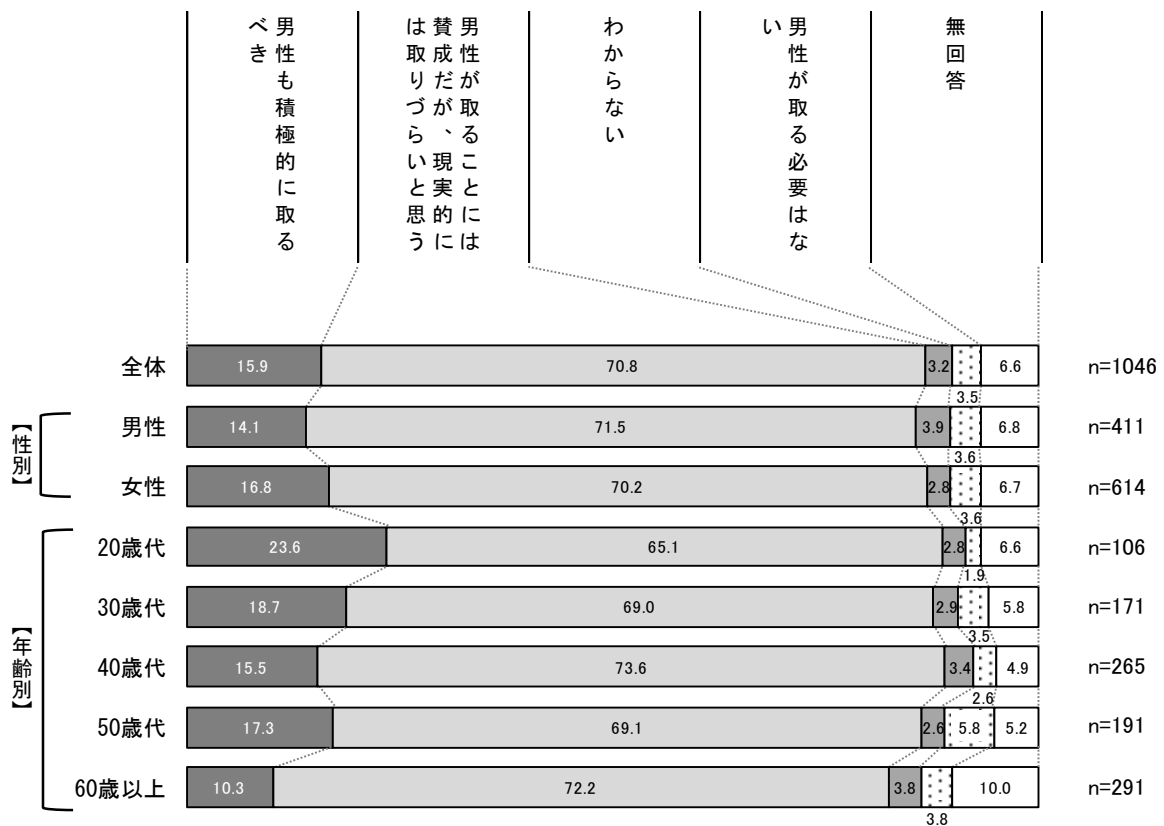
■「その他」の内訳

意見(53 件)
・ 配偶者の異動・転勤。(7件)
・ 独立したから(するため)。(5件)
・ 移住。(2件)
・ 会社の移転。(2件)
・ 家庭と仕事の両立困難。(2件)
・ 自営業への転職。(2件)
・ 自身のスキルアップ、ステップアップ。(2件)
・ 女性が結婚・出産で辞めなければいけない職場だったため。(2件)
・ 通勤時間が長い。(2件)
・ その他(27 件)

4-5 男性の育児休業・介護休業の利用について

問 10 あなたは、男性が育児休業や介護休業を利用することについてどう思いますか。(○は1つ)

◆「男性が取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が約7割



【全体】

「男性が取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」(70.8%)が最も高く、次いで「男性も積極的に取るべき」(15.9%)が高くなっています。

【性別】

大きな差はみられませんでした。

【年齢別】

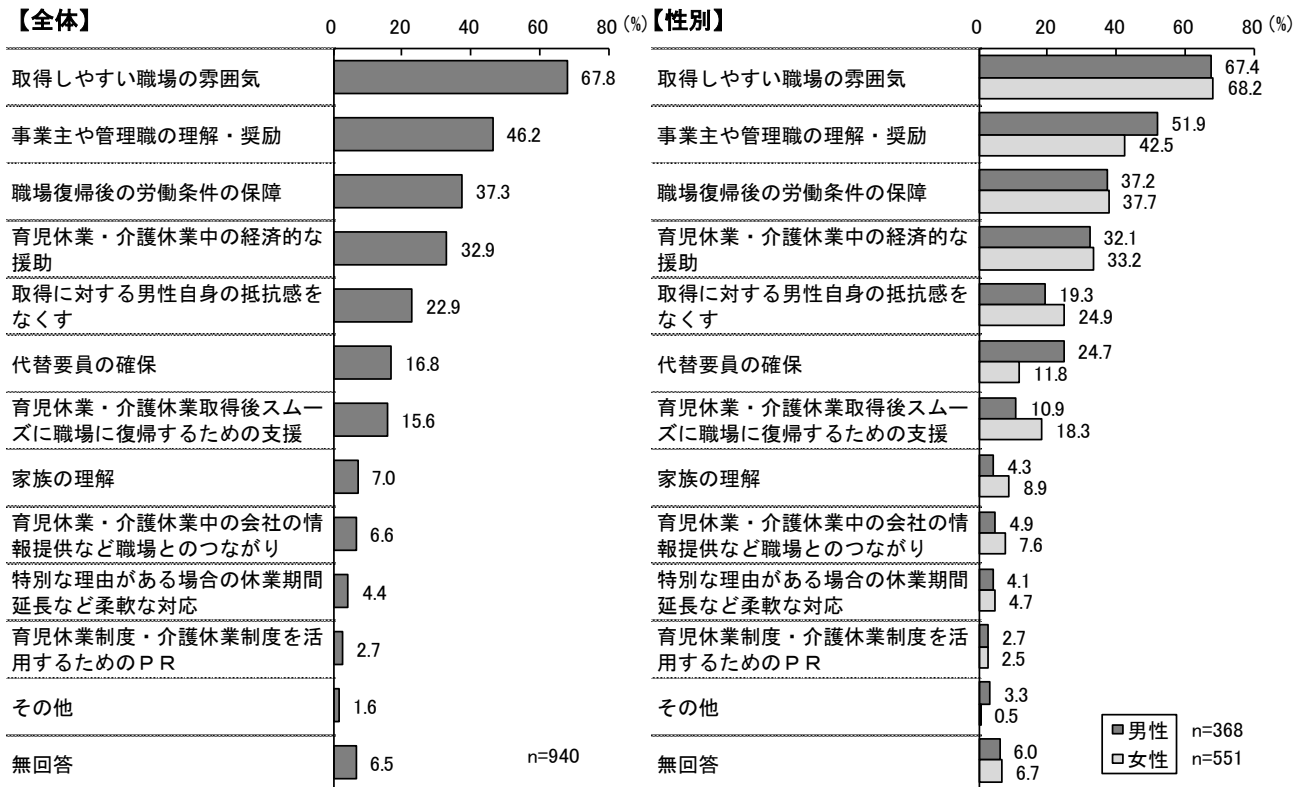
20歳代は「男性も積極的に取るべき」(23.6%)が他の年代に比べて高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

問 10 で、「1 男性も積極的に取るべき」「2 男性が取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」「3 わからない」のいずれかに回答した方におたずねします。

問 10(1) あなたは、男性が育児休業や介護休業を取得するためにどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

◆「取得しやすい職場の雰囲気」、「事業主や管理職の理解・奨励」、「職場復帰後の労働条件の保障」が上位



【全体】

「取得しやすい職場の雰囲気」(67.8%) が最も高く、次いで「事業主や管理職の理解・奨励」(46.2%)、「職場復帰後の労働条件の保障」(37.3%) が高くなっています。

【性別】

男性は「代替要員の確保」(24.7%) が女性(11.8%) より 12.9 ポイント高くなっています。

【年齢別】

20 歳代は「育児休業・介護休業取得後スムーズに職場に復帰するための支援」(26.8%)が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	取得しやすい職場の雰囲気	事業主や管理職の理解・奨励	職場復帰後の労働条件の保障	育児休業・介護休業中の経済的な援助	取得に対する男性自身の抵抗感をなくす	代替要員の確保	育児休業・介護休業取得後スムーズに職場に復帰するための支援	家族の理解	育児休業・介護休業中の会社の情報提供など職場とのつながり	特別な理由がある場合の休業期間延長など柔軟な対応	育児休業制度・介護休業制度を活用するためのPR	その他	無回答
20 歳代	97	73.2	35.1	27.8	28.9	25.8	7.2	26.8	6.2	3.1	8.2	1.0	1.0	10.3
30 歳代	155	67.1	45.8	36.1	38.7	24.5	15.5	11.0	8.4	4.5	6.5	2.6	2.6	8.4
40 歳代	245	65.7	44.5	43.3	32.7	22.4	20.4	15.5	4.9	7.3	2.9	2.4	2.9	4.9
50 歳代	170	64.7	48.2	37.6	33.5	25.9	21.2	13.5	8.8	6.5	4.1	1.2	—	5.9
60 歳以上	251	70.9	51.0	36.3	29.9	18.3	15.5	14.7	7.6	8.4	3.6	4.4	1.2	5.6

【共働き状況別】

共働き家庭は「取得に対する男性自身の抵抗感をなくす」(31.7%)、「保育園に入れななど特別な理由がある場合の休業期間延長など柔軟な対応」(8.7%)が他の家庭に比べて高くなっています。

非共働き家庭は「事業主や管理職の理解・奨励」(53.6%)が他の家庭に比べて10ポイント以上高くなっています。

(%)

	件数(件)	取得しやすい職場の雰囲気	事業主や管理職の理解・奨励	職場復帰後の労働条件の保障	育児休業・介護休業中の経済的な援助	取得に対する男性自身の抵抗感をなくす	代替要員の確保	育児休業・介護休業取得後スムーズに職場に復帰するための支援	家族の理解	育児休業・介護休業中の会社の情報提供など職場とのつながり	特別な理由がある場合の休業期間延長など柔軟な対応	育児休業制度・介護休業制度を活用するためのPR	その他	無回答
全体	665	69.3	47.2	38.9	33.4	22.9	16.5	13.8	6.6	6.8	3.6	2.9	1.8	6.5
共働き家庭	126	65.1	40.5	33.3	33.3	31.7	15.9	8.7	5.6	5.6	8.7	3.2	1.6	9.5
準共働き家庭	218	69.7	42.7	42.7	36.2	22.0	16.5	13.8	6.9	6.9	1.4	1.8	2.3	5.5
非共働き家庭	248	70.6	53.6	38.7	30.2	19.0	16.5	14.5	7.3	7.7	3.2	3.6	1.6	6.5
その他	73	71.2	50.7	38.4	35.6	23.3	17.8	20.5	5.5	5.5	2.7	2.7	1.4	4.1

II 調査の結果【一般市民】

【一番下の子どもの年齢別】

一番下の子どもの年齢が0～4歳の親は「育児休業・介護休業中の経済的な援助」(44.8%)、「保育園に入れなど特別な理由がある場合の休業期間延長など柔軟な対応」(9.5%)が他の親に比べて高くなっています。

一番下の子どもの年齢が15～19歳の親は「育児休業・介護休業中の会社の情報提供など職場とのつながり」(13.7%)が他の親に比べて高くなっています。

(%)

	件数 (件)	取得しやすい職場の雰囲気	事業主や管理職の理解・奨励	職場復帰後の労働条件の保障	育児休業・介護休業中の経済的な援助	取得に対する男性自身の抵抗感をなくす	代替要員の確保	育児休業・介護休業取得後スムーズに職場に復帰するための支援	家族の理解	育児休業・介護休業中の会社の情報提供など職場とのつながり	特別な理由がある場合の休業期間延長など柔軟な対応	育児休業制度・介護休業制度を活用するためのPR	その他	無回答
全体	651	68.8	47.3	37.0	35.0	22.0	16.7	13.8	6.5	7.5	4.3	2.8	1.8	6.0
0～4歳	105	73.3	45.7	28.6	44.8	22.9	13.3	14.3	5.7	3.8	9.5	3.8	1.9	7.6
5～9歳	86	61.6	41.9	46.5	37.2	22.1	16.3	16.3	7.0	2.3	3.5	2.3	3.5	7.0
10～14歳	64	68.8	50.0	26.6	32.8	28.1	17.2	12.5	3.1	7.8	1.6	—	3.1	9.4
15～19歳	73	60.3	43.8	47.9	27.4	21.9	21.9	12.3	4.1	13.7	1.4	2.7	2.7	5.5
20歳以上	323	71.2	49.5	36.8	33.4	20.4	16.7	13.6	7.7	8.7	4.0	3.1	0.9	4.6

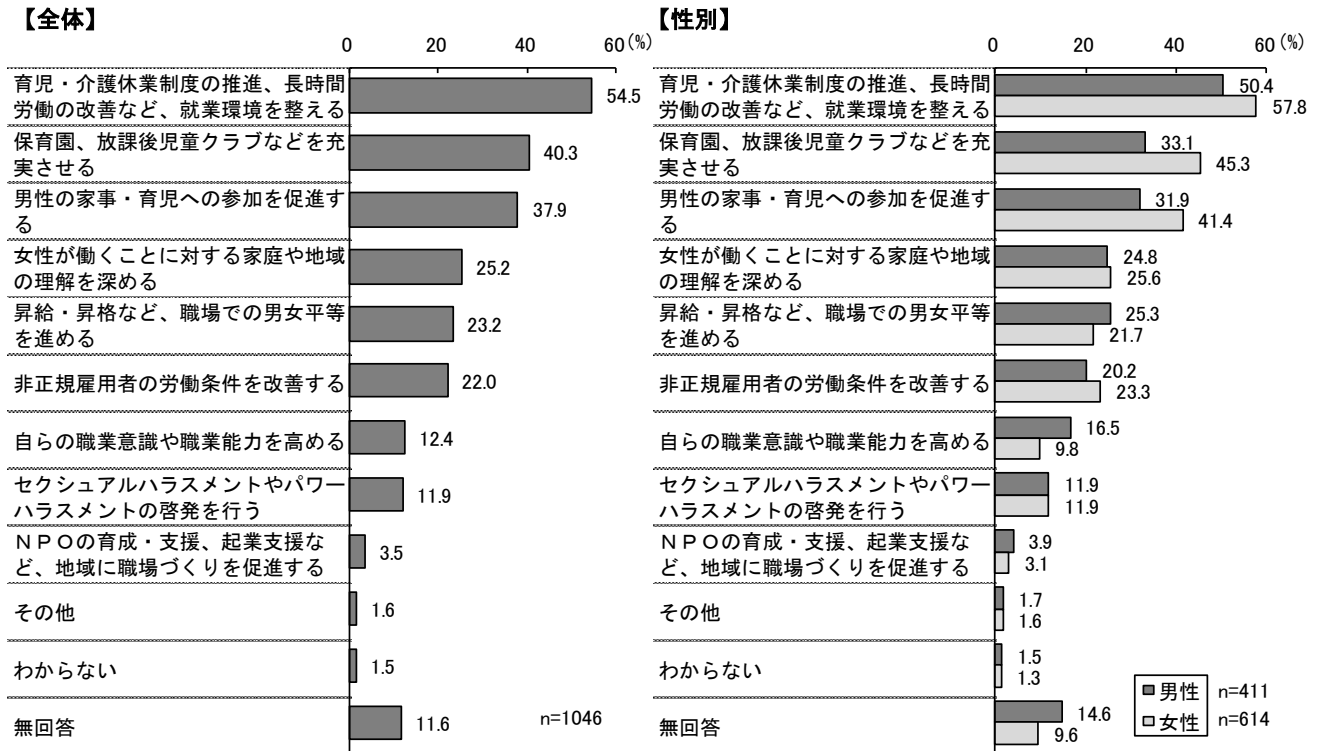
■「その他」の内訳

意見(13件)
・ 余剰人員のいない企業体制の改善。(4件)
・ 取得の義務化・法制度化。(4件)
・ その他(5件)

4-6 男女がともに働きやすい環境をつくるために必要なこと

問11 男女がともに働きやすい環境をつくるためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

◆「育児・介護休業制度の推進、長時間労働の改善など、就業環境を整える」、「保育園、放課後児童クラブなどを充実させる」、「男性の家事・育児への参加を促進する」が上位



【全体】

「育児・介護休業制度の推進、長時間労働の改善など、就業環境を整える」(54.5%)が最も高く、次いで「保育園、放課後児童クラブなどを充実させる」(40.3%)、「男性の家事・育児への参加を促進する」(37.9%)が高くなっています。

【性別】

女性は「保育園、放課後児童クラブなどを充実させる」(45.3%)が男性(33.1%)より12.2ポイント高く、「男性の家事・育児への参加を促進する」(41.4%)も男性(31.9%)より9.5ポイント高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【年齢別】

20歳代は「昇給・昇格など、職場での男女平等を進める」(32.1%)、30歳代は「保育園、放課後児童クラブなどを充実させる」(52.6%)がそれぞれ他の年代に比べて高くなっています。また、年齢が低いほど「男性の家事・育児への参加を促進する」が高くなっています。

(%)

	件数(件)	育児・介護休業制度の推進、長時間労働の改善など、就業環境を整える	保育園、放課後児童クラブなどを充実させる	男性の家事・育児への参加を促進する	女性が働くことに対する家庭や地域の理解を深める	昇給・昇格など、職場での男女平等を進める	非正規雇用者の労働条件を改善する	自らの職業意識や職業能力を高める	セクシユアルハラスメントやパワーハラメントの啓発を行う	NPOの育成・支援、起業支援など、地域に職場づくりを促進する	その他	わからない	無回答
20歳代	106	50.0	38.7	44.3	22.6	32.1	12.3	13.2	15.1	5.7	—	0.9	9.4
30歳代	171	55.6	52.6	41.5	21.6	22.2	13.5	7.0	11.1	2.3	3.5	2.9	9.9
40歳代	265	58.5	43.0	39.2	26.8	20.8	23.4	12.5	10.2	1.9	1.5	1.1	9.4
50歳代	191	54.5	33.0	36.1	27.2	27.2	24.6	13.1	12.0	3.7	2.1	1.0	12.0
60歳以上	291	52.9	36.4	32.3	25.8	19.9	27.5	15.1	12.4	4.5	1.0	1.0	15.1

■「その他」の内訳

意見(17件)
・ 育児や介護が障害にならない働く環境を国レベルで作ること。
・ 男性も育児・介護の為に休業までではなく時短とかフレックス出勤とか勤務時間が調整できる方が良い。
・ 夏休みなど子どもの長期休みに対する職場の対応(長期休みの場合は、母親の仕事もお休みがとれる、もしくは職場に子どもをあずける場をもうけるなど)。
・ ワークタイムバランス(時間配分を任意に決定)。
・ 長時間労働を改善する企業を優遇する政策。
・ その他(12件)

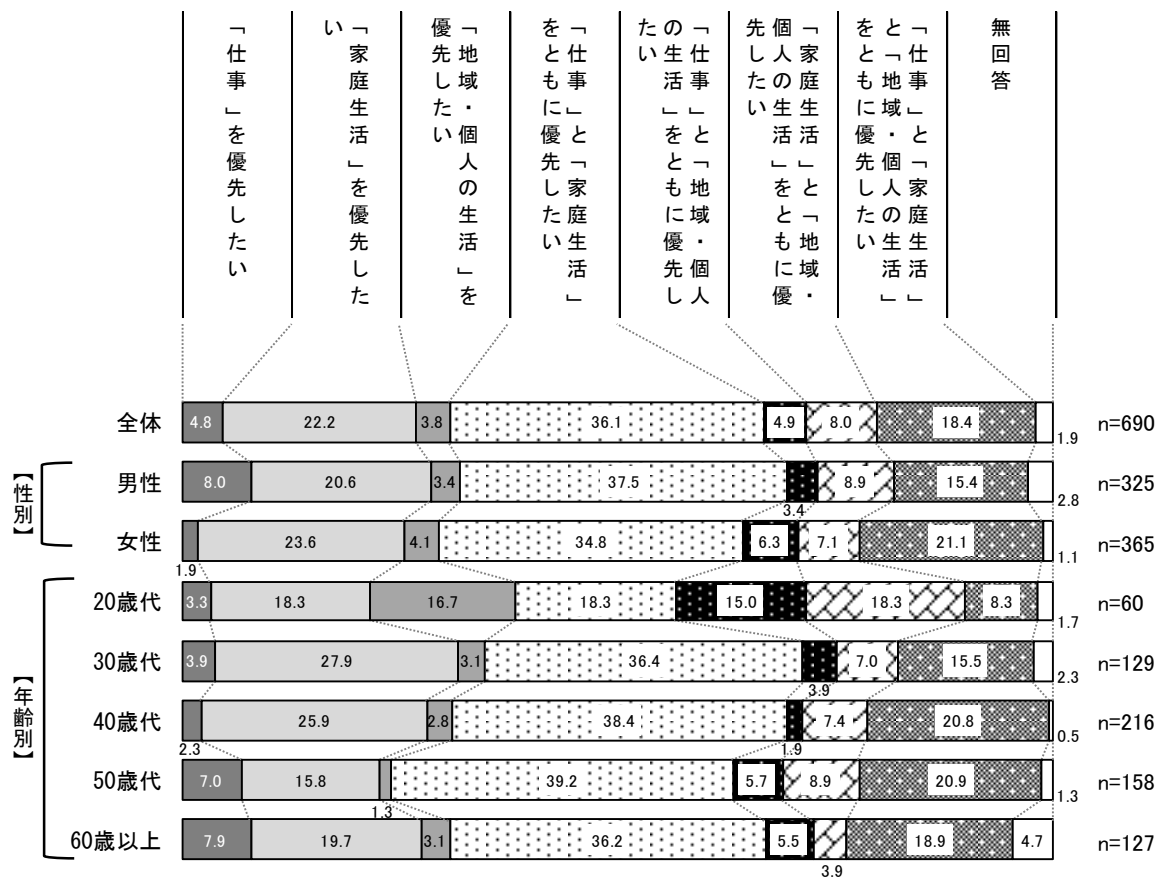
4-7 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問12から問13は、現在仕事に就いている方におたずねします。

問12 あなたは、暮らしの中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（付き合い、学習・趣味など）」の優先度について、どうしたいと思いますか。（○は1つ）

- ◆理想は「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい、「家庭生活」を優先したいが上位
- ◆前回調査と比べると、「仕事」を含む優先度はいずれも微増している

	平成28年9月	平成22年9月
「仕事」を優先したい	4.8%	3.9%
「家庭生活」を優先したい	22.2%	25.8%
「地域・個人の生活」を優先したい	3.8%	4.5%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	36.1%	35.8%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	4.9%	2.7%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	8.0%	8.4%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	18.4%	17.6%



II 調査の結果【一般市民】

【全体】

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（36.1％）が最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい（22.2％）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（18.4％）が高くなっています。

【性別】

男性は「仕事」を優先したい（8.0％）が女性（1.9％）より6.1ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「地域・個人の生活」を優先したい、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいがいずれも他の年代に比べて高くなっています。

【全国調査との比較】（「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度：理想）

国と比較すると、「仕事」を優先したい、「家庭生活」を優先したいは低く、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいは高くなっています。

性別で見ると、本市の女性は「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（21.1％）は国の女性（14.7％）より6.4ポイント高く、「家庭生活」を優先したい（23.6％）は国の女性（30.6％）より7.0ポイント低くなっています。

本市の男性は「仕事」を優先したい（8.0％）が国の男性（14.3％）より6.3ポイント低くなっています。

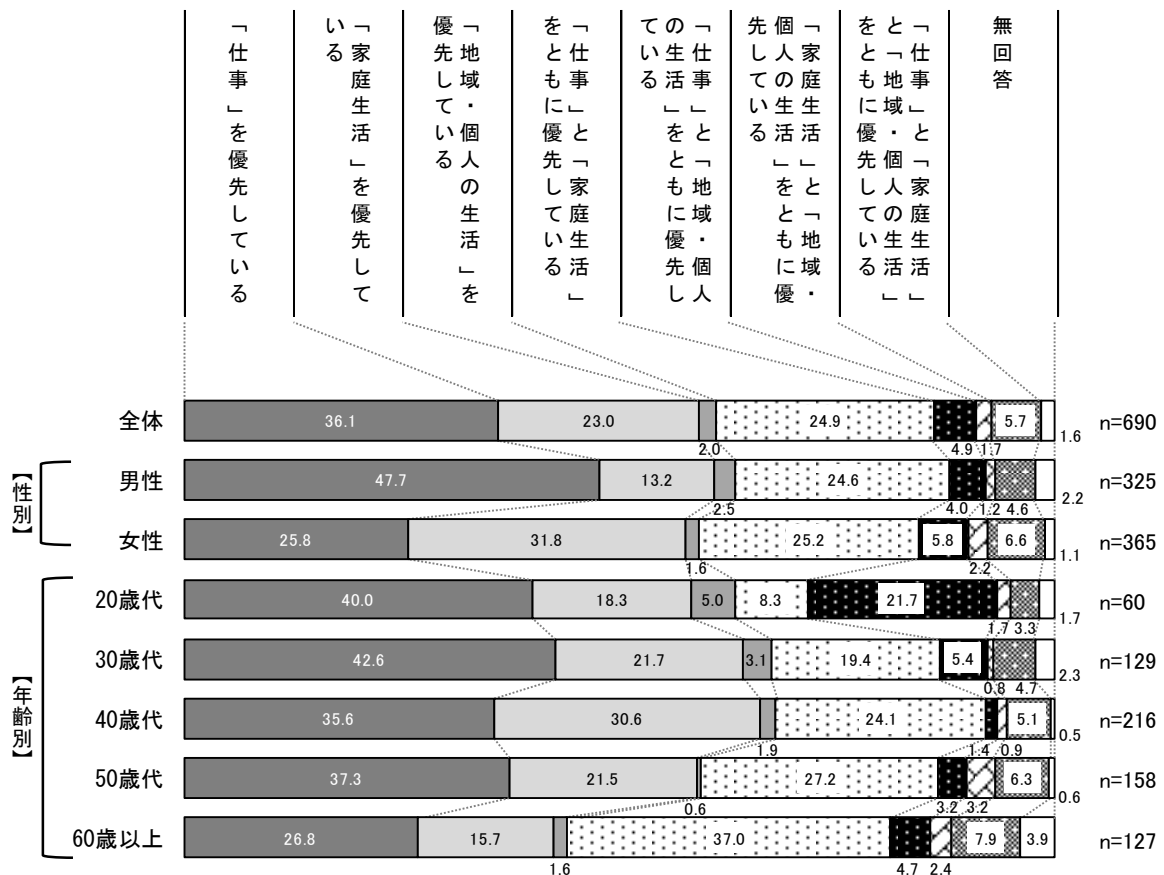
(%)

	春日井市		国(平成28年)		
	男性	女性	男性	女性	
「仕事」を優先したい	4.8	8.0	8.9	14.3	4.2
「家庭生活」を優先したい	22.2	20.6	25.5	19.5	30.6
「地域・個人の生活」を優先したい	3.8	3.4	3.8	4.5	3.3
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	36.1	37.5	30.5	30.4	30.6
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	4.9	3.4	4.7	5.6	4.0
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	8.0	8.9	9.7	8.0	11.2
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	18.4	15.4	15.4	16.2	14.7

問 12(1) あなたは、現実には何を優先していますか。(○は1つ)

◆現実には「仕事」を優先している、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している、「家庭生活」を優先しているが上位

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
「仕事」を優先している	36.1%	40.5%
「家庭生活」を優先している	23.0%	21.3%
「地域・個人の生活」を優先している	2.0%	3.7%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	24.9%	23.3%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	4.9%	2.7%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	1.7%	3.2%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	5.7%	4.2%



【全体】

「仕事」を優先している(36.1%)が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(24.9%)、「家庭生活」を優先している(23.0%)が高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【性別】

男性は「仕事」を優先している（47.7%）が女性（25.8%）より 21.9 ポイント高く、女性は「家庭生活」を優先している（31.8%）が男性（13.2%）より 18.6 ポイント高くなっています。

【年齢別】

年齢が高いほど「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているは高く、20 歳代は 8.3% であるのに対し、60 歳以上は 37.0% となっています。一方、20 歳代は「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している（21.7%）が他の年代に比べて高くなっています。

【全国調査との比較】（「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度：現実）

国と比較すると、本市は「仕事」を優先しているは国より 10.6 ポイント高く、「家庭生活」を優先している、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先しているは国より若干低くなっています。

性別でみると、本市の女性は「家庭生活」を優先している（31.8%）が国の女性（41.5%）より 9.7 ポイント低くなっています。

(%)

	春日井市		国(平成 28 年)			
		男性	女性	男性	女性	
「仕事」を優先している	36.1	47.7	25.8	25.5	37.0	15.8
「家庭生活」を優先している	23.0	13.2	31.8	30.5	17.5	41.5
「地域・個人の生活」を優先している	2.0	2.5	1.6	4.6	6.1	3.4
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	24.9	24.6	25.2	21.6	21.9	21.3
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	4.9	4.0	5.8	3.2	4.0	2.5
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	1.7	1.2	2.2	8.0	6.5	9.3
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	5.7	4.6	6.6	5.3	5.6	5.0

【理想と現実の比較】（「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度）

理想では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も高くなっていますが、現実では「仕事」を優先している」が最も高くなっています。また、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のうち一つを優先したい（＝独立優先）か複数を優先したい（＝両立させたい）かという視点でみると、両立を理想とする人が合計 67.4%であるのに対し、現実に両立できている人は 37.2%となっており、現実が理想より 30.2 ポイント低くなっています。

性別で見ると、理想では男女とも「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も高くなっていますが、現実では、男性は「仕事」を優先している」、女性は「家庭生活」を優先している」が最も高くなっています。両立の理想と現実については、性別での大きな差はみられませんでした。

国は、両立を理想とする人が 60.3%、現実に両立できている人が 38.1%で、現実が理想より 22.2 ポイント低くなっており、本市の方が理想と現実の差が大きくなっています。

(%)

			独立優先				両立				
			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	計	「仕事」「家庭生活」をともに優先	「仕事」「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先	計
春日井市	全体	理想	4.8	22.2	3.8	30.8	36.1	4.9	8.0	18.4	67.4
		現実	36.1	23.0	2.0	61.1	24.9	4.9	1.7	5.7	37.2
		差(現実－理想)	31.3	0.8	-1.8	30.3	-11.2	0.0	-6.3	-12.7	-30.2
	男性	理想	8.0	20.6	3.4	32.0	37.5	3.4	8.9	15.4	65.2
		現実	47.7	13.2	2.5	63.4	24.6	4.0	1.2	4.6	34.4
		差(現実－理想)	39.7	-7.4	-0.9	31.4	-12.9	0.6	-7.7	-10.8	-30.8
	女性	理想	1.9	23.6	4.1	29.6	34.8	6.3	7.1	21.1	69.3
		現実	25.8	31.8	1.6	59.2	25.2	5.8	2.2	6.6	39.8
		差(現実－理想)	23.9	8.2	-2.5	29.6	-9.6	-0.5	-4.9	-14.5	-29.5
国(平成28年)	全体	理想	8.9	25.5	3.8	38.2	30.5	4.7	9.7	15.4	60.3
		現実	25.5	30.5	4.6	60.6	21.6	3.2	8.0	5.3	38.1
		差(現実－理想)	16.6	5.0	0.8	22.4	-8.9	-1.5	-1.7	-10.1	-22.2
	男性	理想	14.3	19.5	4.5	38.3	30.4	5.6	8.0	16.2	60.2
		現実	37.0	17.5	6.1	60.6	21.9	4.0	6.5	5.6	38.0
		差(現実－理想)	22.7	-2.0	1.6	22.3	-8.5	-1.6	-1.5	-10.6	-22.2
	女性	理想	4.2	30.6	3.3	38.1	30.6	4.0	11.2	14.7	60.5
		現実	15.8	41.5	3.4	60.7	21.3	2.5	9.3	5.0	38.1
		差(現実－理想)	11.6	10.9	0.1	22.6	-9.3	-1.5	-1.9	-9.7	-22.4

4-8 自身のワーク・ライフ・バランスの状況

問12から問13は、現在仕事に就いている方におたずねします。

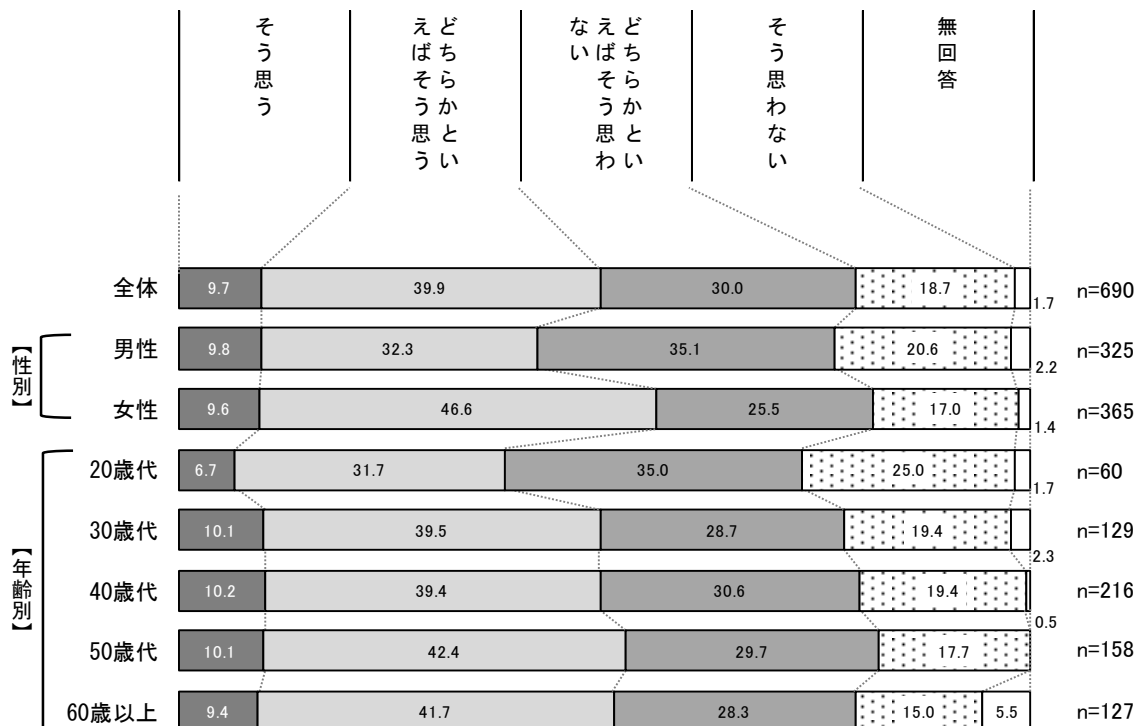
問13 仕事や家庭生活、地域・個人の生活などについて自ら希望するバランスで取り組むことができる状態を“ワーク・ライフ・バランス”と言います。あなたは、現在、ワーク・ライフ・バランスがうまくとれていると思いますか。(〇は1つ)

◆『とれていると思う』は49.6%、『とれていると思わない』は48.7%

	平成28年9月	平成22年9月
『とれていると思う』	49.6%	46.3%
そう思う	9.7%	11.6%
どちらかといえばそう思う	39.9%	34.7%
『とれていると思わない』	48.7%	52.8%
どちらかといえばそう思わない	30.0%	31.7%
そう思わない	18.7%	21.1%

『とれていると思う』…「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合算

『とれていると思わない』…「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合算



【全体】

『とれていると思う』は49.6%、『とれていると思わない』は48.7%となっています。

【性別】

女性は『とれていると思う』(56.2%)が男性(42.1%)より14.1ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は『とれていると思う』(38.4%)が他の年代に比べて低くなっています。

4-9 非就業者の今後の就業意向

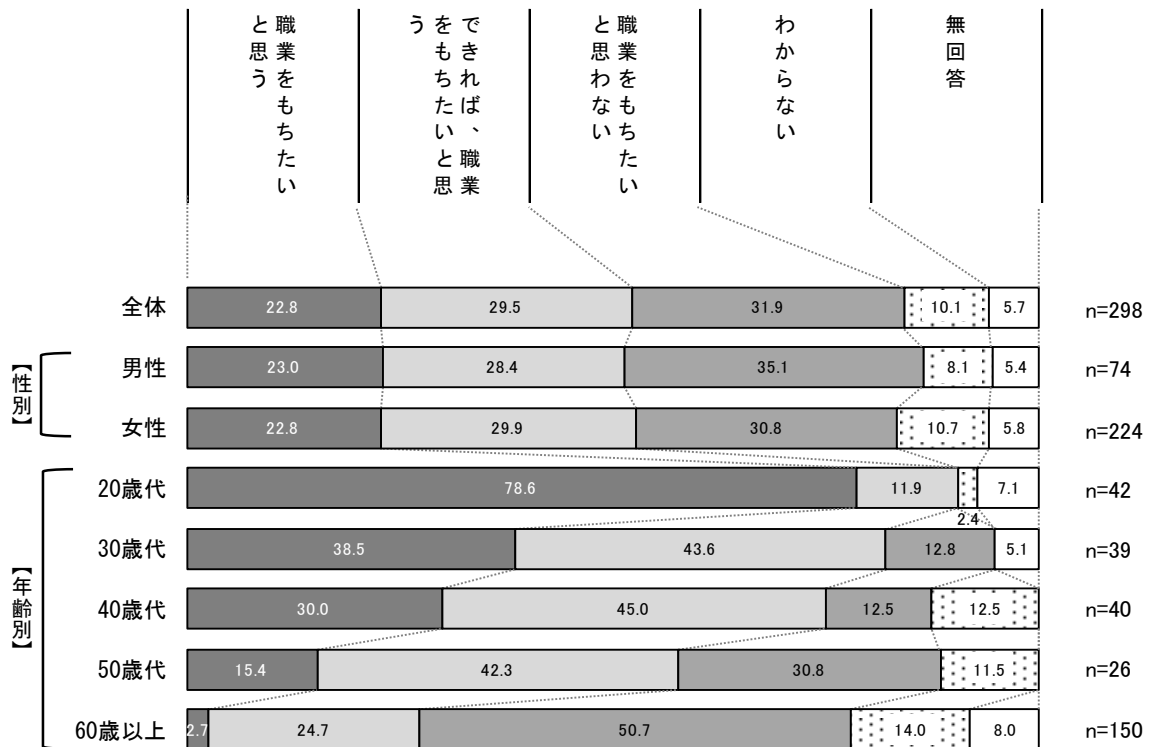
問 14 は、現在仕事に就いていない方におたずねします。

問 14 あなたは、今後、収入を得る職業をもちたいと思いますか。(○は1つ)

◆『職業をもちたい』は52.3%、「職業をもちたいと思わない」は31.9%

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
『職業をもちたい』	52.3%	55.4%
職業をもちたいと思う	22.8%	24.0%
できれば、職業をもちたいと思う	29.5%	31.4%
職業をもちたいと思わない	31.9%	29.6%
わからない	10.1%	7.0%

『職業をもちたい』…「職業をもちたいと思う」と「できれば、職業をもちたいと思う」を合算



【全体】

『職業をもちたい』は52.3%、「職業をもちたいと思わない」は31.9%となっています。

【性別】

大きな差はみられませんでした。

【年齢別】

60歳以上は「職業をもちたいと思わない」(50.7%)が『職業をもちたい』(27.4%)より23.3ポイント高くなっています。

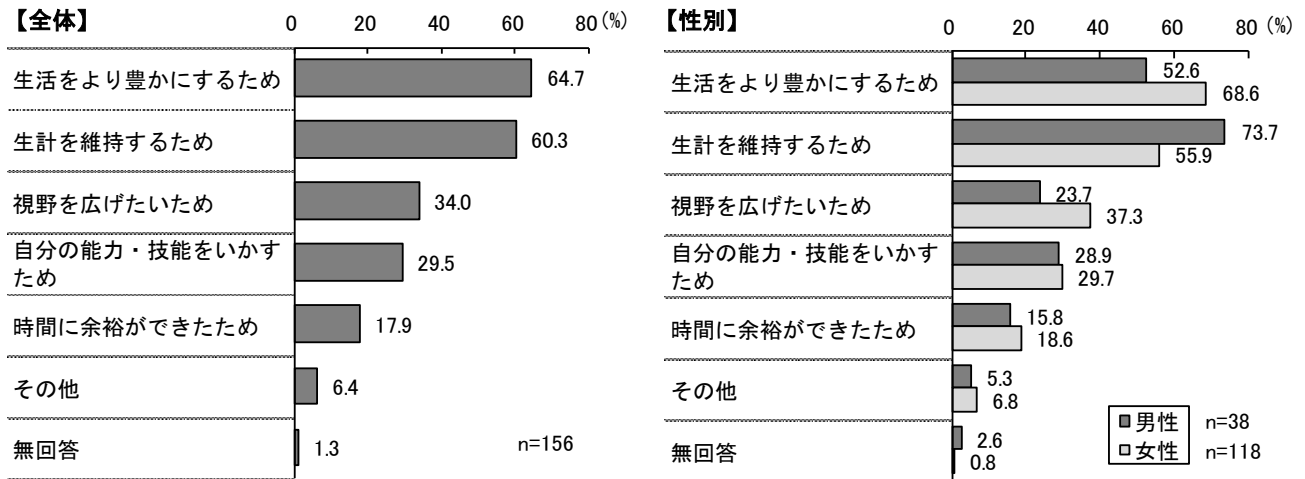
II 調査の結果【一般市民】

問 14 で、「1 職業をもちたいと思う」または「2 できれば、職業をもちたいと思う」と回答した方におたずねします。

問 14(1) あなたが職業をもちたいと思っているのは、どのような理由からですか。
(あてはまるものすべてに○)

◆「生活をより豊かにするため」、「生計を維持するため」が6割以上

◆男性は「生計を維持するため」、女性は「生活をより豊かにするため」が最も高い



【全体】

「生活をより豊かにするため」(64.7%)が最も高く、次いで「生計を維持するため」(60.3%)、「視野を広げたいため」(34.0%)が高くなっています。

【性別】

男性は「生計を維持するため」(73.7%)が最も高く、女性(55.9%)より17.8ポイント高くなっています。

女性は「生活をより豊かにするため」(68.6%)が最も高く、男性(52.6%)より16.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

20 歳代は「生計を維持するため」(76.3%)、40 歳代は「生活をより豊かにするため」(73.3%) がそれぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数 (件)	生活をより豊かにするため	生計を維持するため	視野を広げたいため	自分の能力・技能をいかすため	時間に余裕ができたため	その他	無回答
20 歳代	38	71.1	76.3	28.9	34.2	5.3	5.3	—
30 歳代	32	71.9	62.5	40.6	25.0	6.3	6.3	—
40 歳代	30	73.3	53.3	36.7	33.3	23.3	6.7	3.3
50 歳代	15	60.0	66.7	46.7	26.7	33.3	13.3	—
60 歳以上	41	48.8	46.3	26.8	26.8	29.3	4.9	2.4

■「その他」の内訳

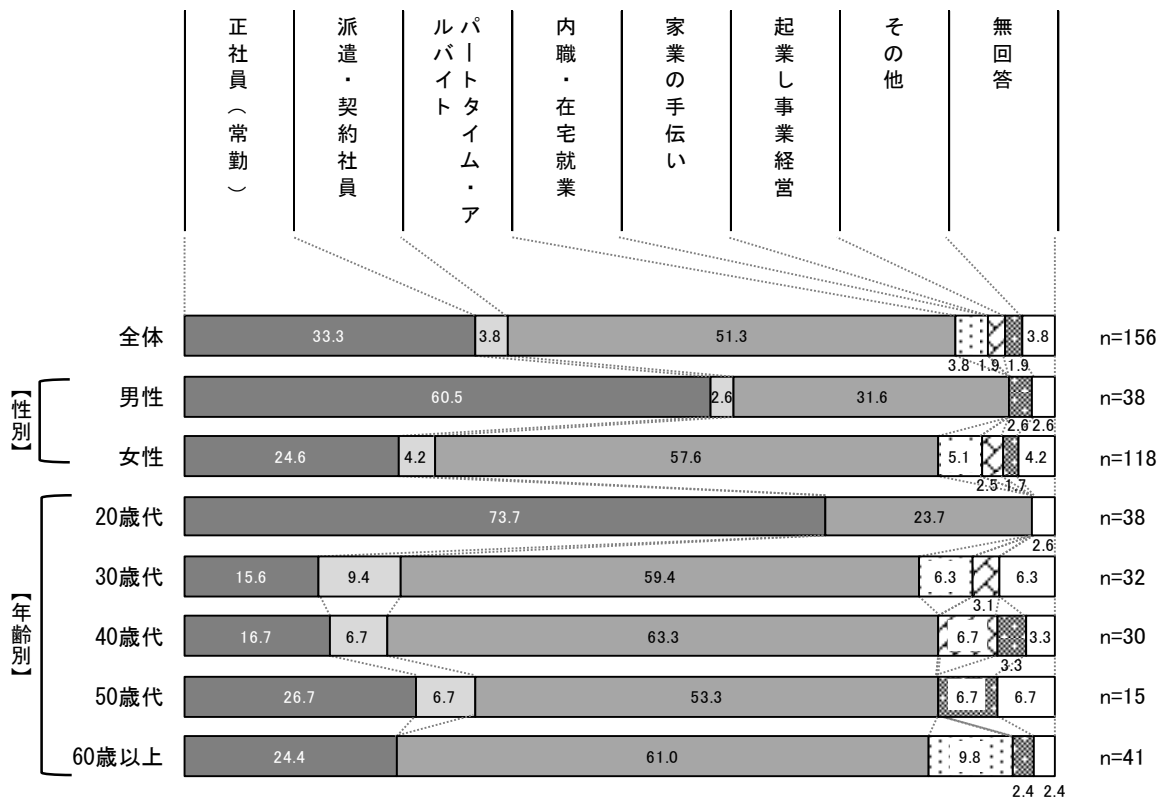
意見(10 件)
・ 老後の生活のため。(2件)
・ 生きがい・楽しみ。(2件)
・ その他(6件)

II 調査の結果【一般市民】

問 14(2) あなたが職業をもって働くとしたら、どのような形で働きたいですか。(○は1つ)

- ◆「パートタイム・アルバイト」が約5割、「正社員」が3割強
- ◆前回調査と比べて「正社員」が増加、「パートタイム・アルバイト」が減少

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
正社員(常勤)	33.3%	24.3%
派遣・契約社員	3.8%	3.7%
パートタイム・アルバイト	51.3%	58.7%
内職・在宅就業	3.8%	3.2%
家業の手伝い	—	0.5%
起業し事業経営	1.9%	5.3%
その他	1.9%	2.1%



【全体】

「パートタイム・アルバイト」(51.3%)が最も高く、次いで「正社員(常勤)」(33.3%)が高くなっています。

【性別】

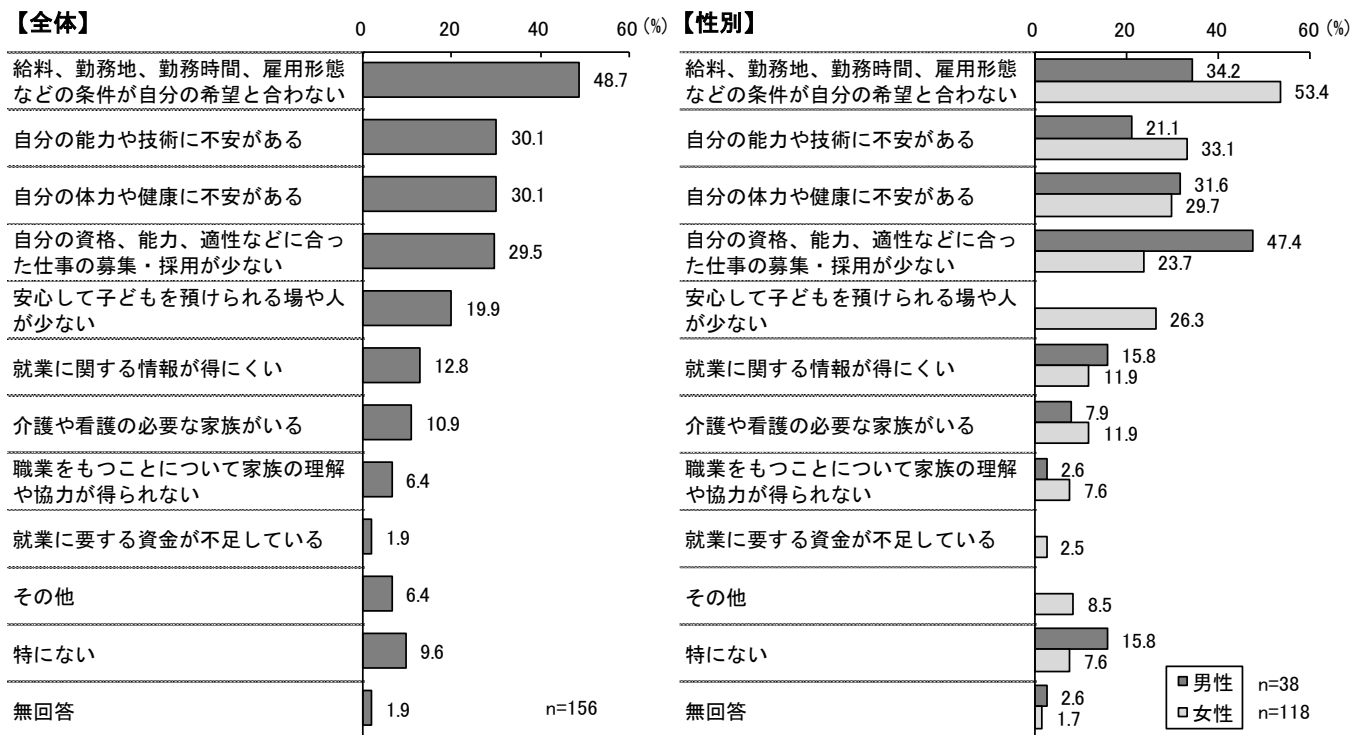
男性は「正社員(常勤)」(60.5%)が高く、女性は「パートタイム・アルバイト」(57.6%)が高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「正社員(常勤)」が73.7%と非常に高くなっています。

問 14(3) あなたは、職業をもつ上で、何か困っていることがありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

- ◆「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」が約5割
- ◆男性では「自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない」、女性では「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」が最も高い



【全体】

「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」(48.7%)が最も高く、次いで「自分の能力や技術に不安がある」「自分の体力や健康に不安がある」(ともに30.1%)、「自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない」(29.5%)が高くなっています。

【性別】

男性は「自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない」(47.4%)が最も高く、次いで「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」(34.2%)が高くなっています。

女性は「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」(53.4%)が最も高く、次いで「自分の能力や技術に不安がある」(33.1%)が高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【年齢別】

30歳代は「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」(71.9%)、「安心して子どもを預けられる場や人が少ない」(53.1%)、60歳以上は「自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない」(48.8%)が、それぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない	自分の能力や技術に不安がある	自分の体力や健康に不安がある	自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない	安心して子どもを預けられる場や人が少ない	就業に関する情報が得にくい	介護や看護の必要な家族がいる	職業をもつことについて家族の理解や協力が得られない	就業に要する資金が不足している	その他	特にない	無回答
20歳代	38	36.8	34.2	15.8	21.1	13.2	5.3	2.6	—	—	2.6	26.3	5.3
30歳代	32	71.9	37.5	15.6	12.5	53.1	18.8	3.1	12.5	—	12.5	6.3	—
40歳代	30	63.3	33.3	43.3	23.3	23.3	3.3	20.0	10.0	3.3	—	6.7	—
50歳代	15	53.3	26.7	60.0	46.7	6.7	20.0	6.7	—	—	6.7	—	—
60歳以上	41	29.3	19.5	34.1	48.8	2.4	19.5	19.5	7.3	4.9	9.8	2.4	2.4

【結婚の有無別】

結婚している人は「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」(52.3%)が『結婚していない』人(40.8%)より11.5ポイント高くなっています。

『結婚していない』人は「自分の能力や技術に不安がある」(38.8%)が結婚している人(26.2%)より12.6ポイント高く、「特にない」(20.4%)が結婚している人(4.7%)より15.7ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない	自分の能力や技術に不安がある	自分の体力や健康に不安がある	自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない	安心して子どもを預けられる場や人が少ない	就業に関する情報が得にくい	介護や看護の必要な家族がいる	職業をもつことについて家族の理解や協力が得られない	就業に要する資金が不足している	その他	特にない	無回答
結婚している	107	52.3	26.2	28.0	27.1	28.0	13.1	14.0	9.3	1.9	7.5	4.7	1.9
『結婚していない』	49	40.8	38.8	34.7	34.7	2.0	12.2	4.1	—	2.0	4.1	20.4	2.0

【子どもの有無別】

子どものいない人は「自分の体力や健康に不安がある」(46.5%)が子どものいる人(24.0%)より22.5ポイント高く、「特にない」(16.3%)が子どものいる人(5.0%)より11.3ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない	自分の能力や技術に不安がある	自分の体力や健康に不安がある	自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない	安心して子どもを預けられる場や人が少ない	就業に関する情報が得にくい	介護や看護の必要な家族がいる	職業をもつことについて家族の理解や協力が得られない	就業に要する資金が不足している	その他	特にない	無回答
子どもがいる	100	50.0	25.0	24.0	28.0	31.0	12.0	12.0	9.0	3.0	10.0	5.0	1.0
子どもはいない	43	46.5	34.9	46.5	32.6	—	16.3	11.6	2.3	—	—	16.3	4.7

■「その他」の内訳

意見(10件)
・ 高齢のため仕事がなかなか見つからない。(5件)
・ 子どもを預けることに不安がある。(3件)
・ その他(2件)

5 地域活動について

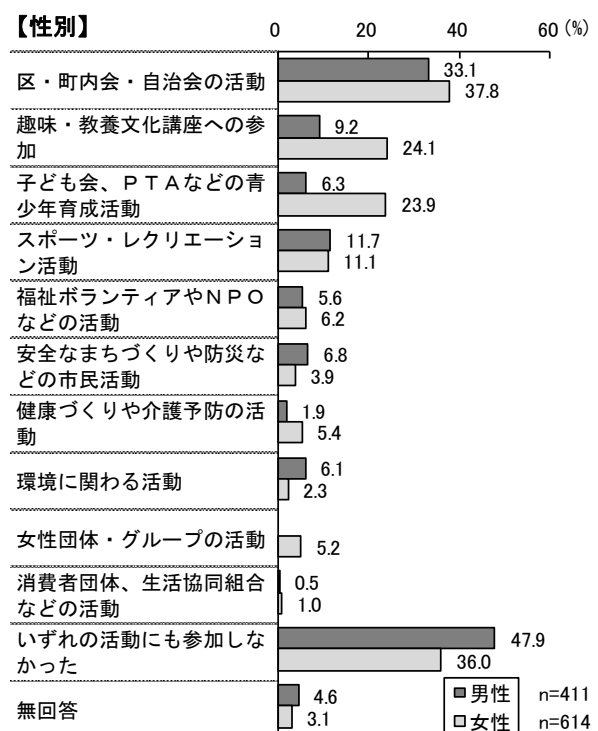
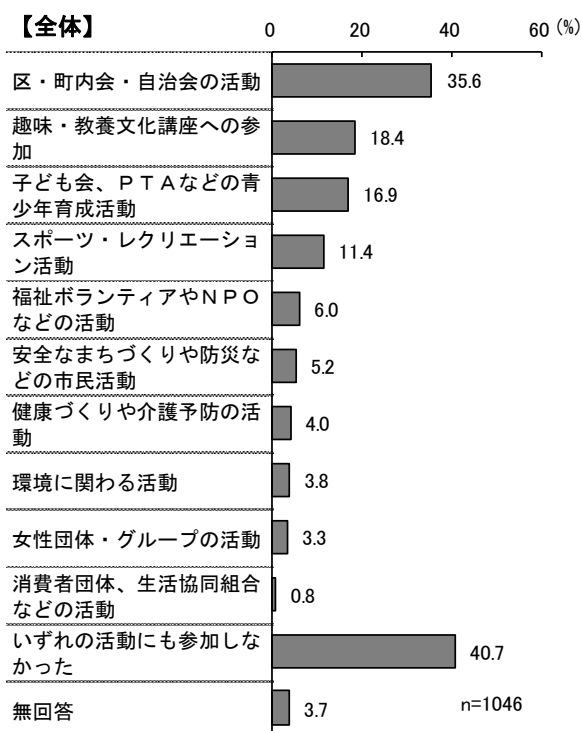
5-1 地域活動への参加状況

問15 最近5年間に、あなたは、次のような地域活動に参加したことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- ◆ 「いずれの活動にも参加しなかった」が最も高い
- ◆ 参加した活動では、「区・町内会・自治会の活動」、「趣味・教養文化講座への参加」、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」が上位
- ◆ 前回調査と比べて「区・町内会・自治会の活動」以外のすべての活動への参加が減少

※前回調査の設問文は「あなたは、次のような地域活動に参加したことがありますか」。

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
区・町内会・自治会の活動	35.6%	33.7%
趣味・教養文化講座への参加	18.4%	28.7%
子ども会、PTAなどの青少年育成活動	16.9%	27.0%
スポーツ・レクリエーション活動	11.4%	17.6%
福祉ボランティアやNPOなどの活動	6.0%	7.1%
安全なまちづくりや防災などの市民活動	5.2%	5.4%
健康づくりや介護予防の活動	4.0%	6.1%
環境に関わる活動	3.8%	4.8%
女性団体・グループの活動	3.3%	6.8%
消費者団体、生活協同組合などの活動	0.8%	4.7%
(防災に関する活動)		11.6%
(文化・芸術活動)		9.3%
いずれの活動にも参加しなかった	40.7%	32.3%



【全体】

「いずれの活動にも参加しなかった」（40.7％）が最も高く、次いで「区・町内会・自治会の活動」（35.6％）、「趣味・教養文化講座への参加」（18.4％）、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」（16.9％）が高くなっています。

【性別】

女性は「趣味・教養文化講座への参加」、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」が2割台で、男性より高くなっています。

【年齢別】

40歳代は「区・町内会・自治会の活動」、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」、60歳以上は「趣味・教養文化講座への参加」が、それぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	区・町内会・自治会の活動	趣味・教養文化講座への参加	子ども会、PTAなどの青少年育成活動	スポーツ・レクリエーション活動	福祉ボランティアやNPOなどの活動	防災などの市民活動	安全なまちづくりや防犯などの活動	健康づくりや介護予防の活動	環境に関わる活動	女性団体・グループの活動	消費者団体、生活協同組合などの活動	いずれの活動にも参加しなかった	無回答
20歳代	106	4.7	5.7	3.8	4.7	5.7	—	0.9	0.9	0.9	—	74.5	4.7	
30歳代	171	19.9	14.0	16.4	7.0	1.2	2.9	1.8	4.7	1.8	0.6	55.0	3.5	
40歳代	265	48.3	17.4	34.0	12.5	5.7	4.5	1.9	3.8	2.6	0.8	26.4	1.5	
50歳代	191	46.6	15.2	13.1	11.0	4.7	5.8	3.7	4.7	3.1	—	36.1	5.2	
60歳以上	291	38.5	27.5	8.9	15.5	10.0	8.2	8.6	3.8	5.2	1.7	36.4	4.5	

【結婚の有無別】

結婚している人は「区・町内会・自治会の活動」（42.4％）が『結婚していない』人（17.7％）より24.7ポイント高く、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」（20.1％）が『結婚していない』人（7.5％）より12.6ポイント高くなっています。

『結婚していない』人は「いずれの活動にも参加しなかった」（62.8％）が結婚している人（33.0％）より29.8ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	区・町内会・自治会の活動	趣味・教養文化講座への参加	子ども会、PTAなどの青少年育成活動	スポーツ・レクリエーション活動	福祉ボランティアやNPOなどの活動	防災などの市民活動	安全なまちづくりや防犯などの活動	健康づくりや介護予防の活動	環境に関わる活動	女性団体・グループの活動	消費者団体、生活協同組合などの活動	いずれの活動にも参加しなかった	無回答
結婚している	757	42.4	20.2	20.1	12.7	6.2	5.9	4.2	4.6	3.4	0.9	33.0	4.0	
『結婚していない』	266	17.7	12.0	7.5	7.5	5.3	2.6	3.4	1.5	2.3	0.4	62.8	3.0	

II 調査の結果【一般市民】

【職業別】

パートタイム・アルバイトは「区・町内会・自治会の活動」(46.7%)、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」(29.5%)、専業主婦・専業主夫は「趣味・教養文化講座への参加」(33.3%)が、それぞれ他の職業に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	区・町内会・自治会の活動	趣味・教養文化講座への参加	子ども会、PTAなどの青少年育成活動	スポーツ・レクリエーション活動	福祉ボランティアやNPOなどの活動	防災などの市民活動	安全なまちづくりや防犯などの活動	健康づくりや介護予防の活動	環境に関わる活動	女性団体・グループの活動	消費者団体、生活協同組合などの活動	いずれの活動にも参加しなかった	無回答
会社員	320	31.3	8.1	7.8	11.3	3.8	5.0	0.6	5.6	0.3	0.3	49.1	4.4	
公務員	53	32.1	7.5	26.4	17.0	5.7	5.7	1.9	1.9	1.9	—	45.3	—	
派遣・契約社員	30	23.3	20.0	20.0	10.0	3.3	—	—	3.3	—	—	40.0	6.7	
パートタイム・アルバイト	210	46.7	21.9	29.5	11.0	6.2	6.7	4.3	2.4	4.8	0.5	31.0	4.3	
自営業	65	41.5	20.0	13.8	10.8	7.7	4.6	6.2	6.2	7.7	3.1	32.3	4.6	
農業	3	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
内職・在宅就業	9	66.7	55.6	44.4	22.2	11.1	—	—	—	—	—	11.1	—	
専業主婦・専業主夫	174	37.9	33.3	23.0	12.6	8.6	3.4	8.6	3.4	6.3	1.7	29.3	2.9	
学生	24	12.5	8.3	12.5	4.2	12.5	—	—	4.2	—	—	58.3	4.2	
無職	100	28.0	23.0	5.0	12.0	7.0	8.0	9.0	3.0	4.0	1.0	53.0	4.0	
その他	27	44.4	7.4	11.1	3.7	—	7.4	3.7	—	—	—	51.9	—	

【子どもの有無別】

子どものいる人は「区・町内会・自治会の活動」(44.7%)が子どものいない人(13.2%)より31.5ポイント高くなっています。

子どものいない人は「いずれの活動にも参加しなかった」(70.5%)が子どものいる人(29.9%)より40.6ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	区・町内会・自治会の活動	趣味・教養文化講座への参加	子ども会、PTAなどの青少年育成活動	スポーツ・レクリエーション活動	福祉ボランティアやNPOなどの活動	防災などの市民活動	安全なまちづくりや防犯などの活動	健康づくりや介護予防の活動	環境に関わる活動	女性団体・グループの活動	消費者団体、生活協同組合などの活動	いずれの活動にも参加しなかった	無回答
子どもがいる	739	44.7	21.1	22.6	13.7	6.6	6.5	5.1	4.7	3.8	1.1	29.9	4.2	
子どもはいない	220	13.2	10.5	0.9	5.9	3.6	1.8	1.4	1.8	1.8	—	70.5	1.8	

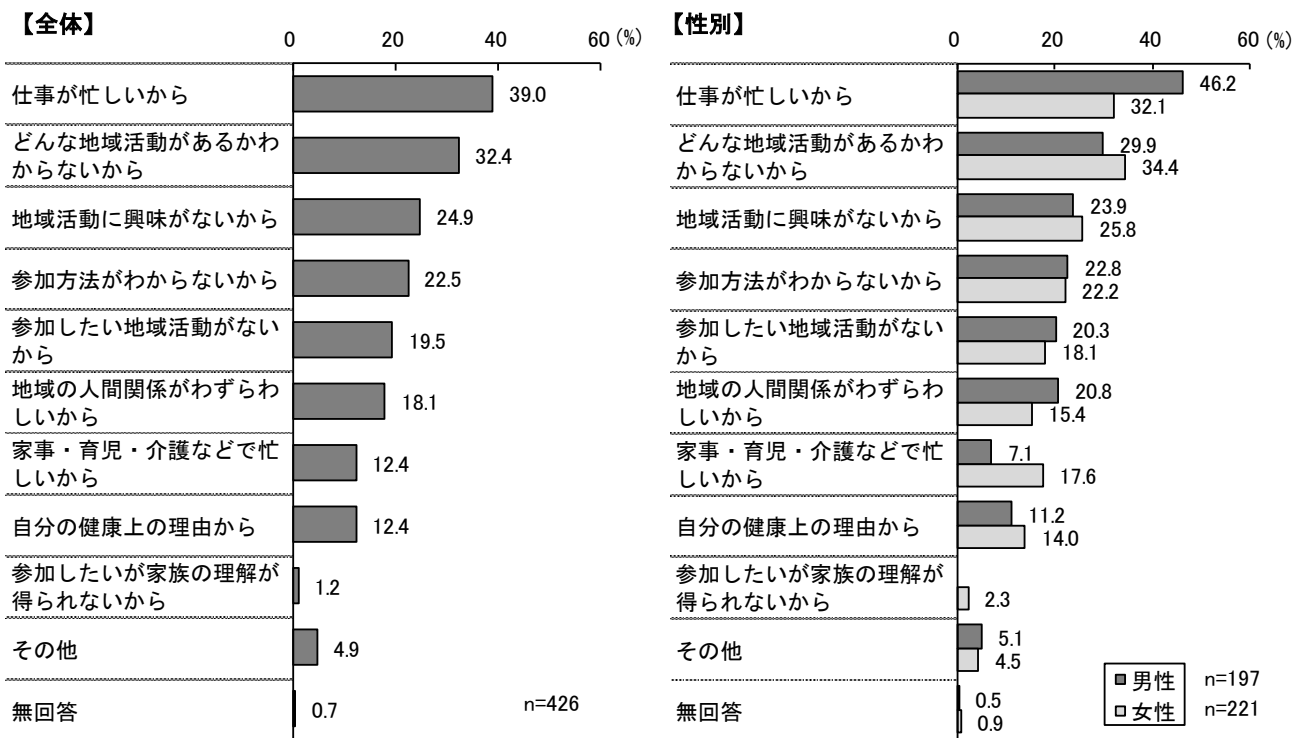
問 15 で、「11 いずれの活動にも参加しなかった」と回答した方におたずねします。

問 15(1) いずれの活動にも参加しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

◆「仕事が忙しいから」、「どんな地域活動があるかわからないから」、「地域活動に興味がないから」が上位

◆前回調査と比べて「仕事が忙しいから」が減少し、「参加したい地域活動がないから」が増加

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
仕事が忙しいから	39.0%	50.0%
どんな地域活動があるかわからないから	32.4%	33.0%
地域活動に興味がないから	24.9%	19.6%
参加方法がわからないから	22.5%	19.9%
参加したい地域活動がないから	19.5%	11.3%
地域の人間関係がわずらわしいから	18.1%	17.9%
家事・育児・介護などで忙しいから	12.4%	14.3%
自分の健康上の理由から	12.4%	8.0%
参加したいが家族の理解が得られないから	1.2%	0.3%
その他	4.9%	5.1%



【全体】

「仕事が忙しいから」(39.0%) が最も高く、次いで「どんな地域活動があるかわからないから」(32.4%)、「地域活動に興味がないから」(24.9%) が高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【性別】

男性は「仕事が忙しいから」(46.2%)が女性(32.1%)より14.1ポイント高く、女性は「家事・育児・介護などで忙しいから」(17.6%)が男性(7.1%)より10.5ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「どんな地域活動があるかわからないから」(44.3%)、40歳代は「地域活動に興味がないから」(37.1%)、「地域の間関係がわずらわしいから」(27.1%)が、それぞれ他の年代に比べて高くなっています。また、60歳以上は「自分の健康上の理由から」(29.2%)が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	仕事が忙しいから	どんな地域活動があるかわからないから	地域活動に興味がないから	参加方法がわからないから	参加したい地域活動がないから	地域の間関係がわずらわしいから	家事・育児・介護などで忙しいから	自分の健康上の理由から	参加したいが家族の理解が得られないから	その他	無回答
20歳代	79	43.0	44.3	26.6	30.4	19.0	2.5	11.4	5.1	—	6.3	—
30歳代	94	50.0	38.3	29.8	28.7	20.2	13.8	16.0	4.3	—	2.1	—
40歳代	70	50.0	28.6	37.1	20.0	15.7	27.1	12.9	4.3	1.4	2.9	2.9
50歳代	69	40.6	39.1	20.3	21.7	20.3	23.2	13.0	15.9	—	2.9	—
60歳以上	106	17.0	16.0	14.2	13.2	19.8	23.6	10.4	29.2	3.8	8.5	0.9

【結婚の有無別】

結婚している人は「家事・育児・介護などで忙しいから」(16.8%)が『結婚していない』人(6.6%)より10.2ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	仕事が忙しいから	どんな地域活動があるかわからないから	地域活動に興味がないから	参加方法がわからないから	参加したい地域活動がないから	地域の間関係がわずらわしいから	家事・育児・介護などで忙しいから	自分の健康上の理由から	参加したいが家族の理解が得られないから	その他	無回答
結婚している	250	36.0	30.0	24.0	20.0	20.0	20.4	16.8	10.4	1.6	4.8	0.8
『結婚していない』	167	43.1	35.9	25.7	26.3	18.0	14.4	6.6	16.2	0.6	4.8	0.6

【職業別】

会社員は「仕事が忙しいから」(55.4%)、専業主婦・専業主夫は「家事・育児・介護などで忙しいから」(27.5%)、無職では「参加したい地域活動がないから」(32.1%)、「地域の人間関係がわずらわしいから」(28.3%)、「自分の健康上の理由から」(43.4%)が、それぞれ他の職業に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	仕事が忙しいから	どんな地域活動があるかわからないから	地域活動に興味がないから	参加方法がわからないから	参加したい地域活動がないから	地域の人間関係がわずらわしいから	家事・育児・介護などで忙しいから	自分の健康上の理由から	参加したいが家族の理解が得られないから	その他	無回答
会社員	157	55.4	36.3	31.8	28.7	17.8	17.2	10.8	3.2	—	3.2	1.3
公務員	24	58.3	33.3	16.7	12.5	20.8	8.3	8.3	—	—	4.2	—
派遣・契約社員	12	41.7	33.3	50.0	16.7	33.3	25.0	—	—	—	8.3	—
パートタイム・アルバイト	65	41.5	32.3	26.2	18.5	10.8	15.4	18.5	16.9	—	3.1	1.5
自営業	21	61.9	33.3	14.3	14.3	14.3	19.0	—	9.5	4.8	4.8	—
農業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
内職・在宅就業	1	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
専業主婦・専業主夫	51	9.8	31.4	15.7	19.6	15.7	15.7	27.5	19.6	5.9	5.9	—
学生	14	21.4	14.3	21.4	28.6	7.1	—	—	—	—	21.4	—
無職	53	3.8	22.6	15.1	17.0	32.1	28.3	9.4	43.4	1.9	5.7	—
その他	14	28.6	42.9	21.4	28.6	42.9	28.6	7.1	—	—	—	—

内職・在宅就業は該当者が1名のため、データを非掲載とし、「x」で表示した。

【子どもの有無別】

子どものいる人は「家事・育児・介護などで忙しいから」(19.0%)が子どものいない人(7.1%)より 11.9ポイント高くなっています。

子どものいない人は「どんな地域活動があるかわからないから」、「地域活動に興味がないから」が子どものいる人より 10ポイント以上高くなっています。

(%)

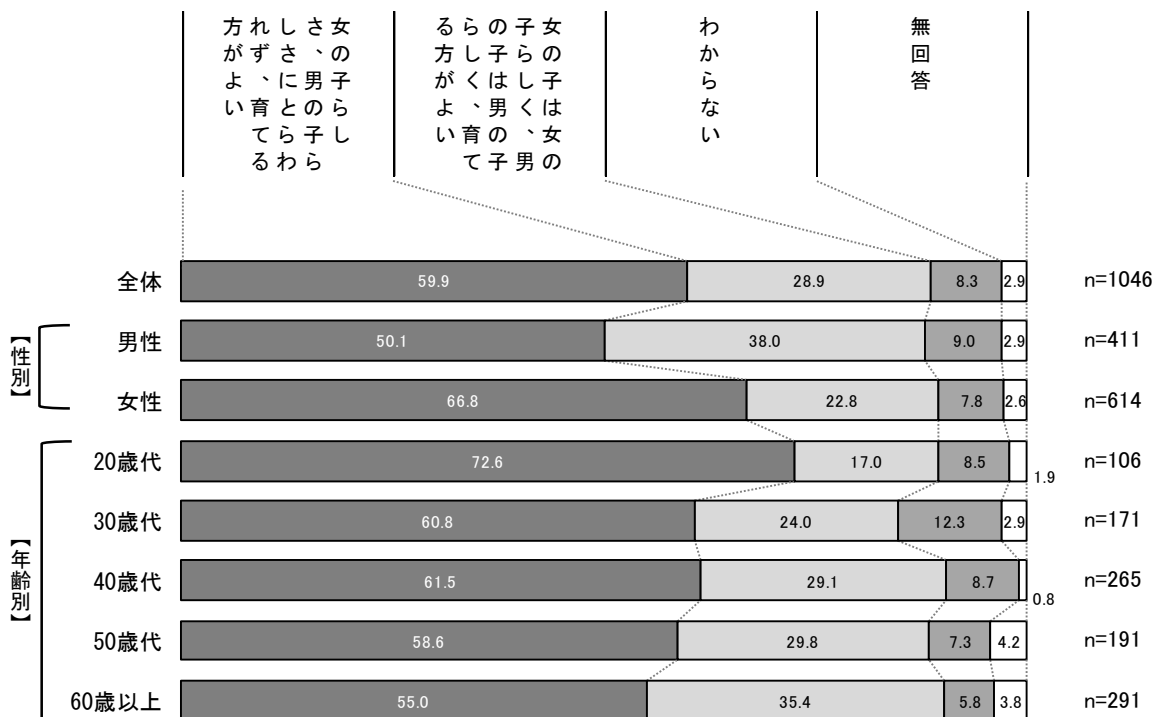
	件数(件)	仕事が忙しいから	どんな地域活動があるかわからないから	地域活動に興味がないから	参加方法がわからないから	参加したい地域活動がないから	地域の人間関係がわずらわしいから	家事・育児・介護などで忙しいから	自分の健康上の理由から	参加したいが家族の理解が得られないから	その他	無回答
子どもがいる	221	36.7	26.7	19.5	19.5	17.6	20.4	19.0	12.7	1.8	5.0	0.9
子どもはいない	155	40.0	37.4	32.3	24.5	21.3	15.5	7.1	14.8	0.6	2.6	0.6

6 子どもの教育について

6-1 望ましい子どもの育て方

問 16 あなたは、どのように子どもを育てるのがよいと思いますか。(〇は1つ)

◆「女の子らしさ、男の子らしさにとらわれず、育てる方がよい」は約6割、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、育てる方がよい」は約3割



【全体】

「女の子らしさ、男の子らしさにとらわれず、育てる方がよい」(59.9%)が最も高くなっています。

【性別】

男性は「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、育てる方がよい」(38.0%)が女性(22.8%)より15.2ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「女の子らしさ、男の子らしさにとらわれず、育てる方がよい」(72.6%)が他の年代に比べて高くなっています。

【子どもの有無別】

子どものいる人は「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、育てる方がよい」(31.9%) が子どものいない人 (20.0%) より 11.9 ポイント高くなっています。

子どものいない人は「女の子らしさ、男の子らしさにとらわれず、育てる方がよい」(67.3%) が子どものいる人 (57.8%) より 9.5 ポイント高くなっています。

(%)

	件数 (件)	女の子らしさ、男の子らしさにとらわれず、育てる方がよい	女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、育てる方がよい	わからない	無回答
子どもがいる	739	57.8	31.9	7.0	3.2
子どもはいない	220	67.3	20.0	11.4	1.4

6-2 子どもに期待する進学先

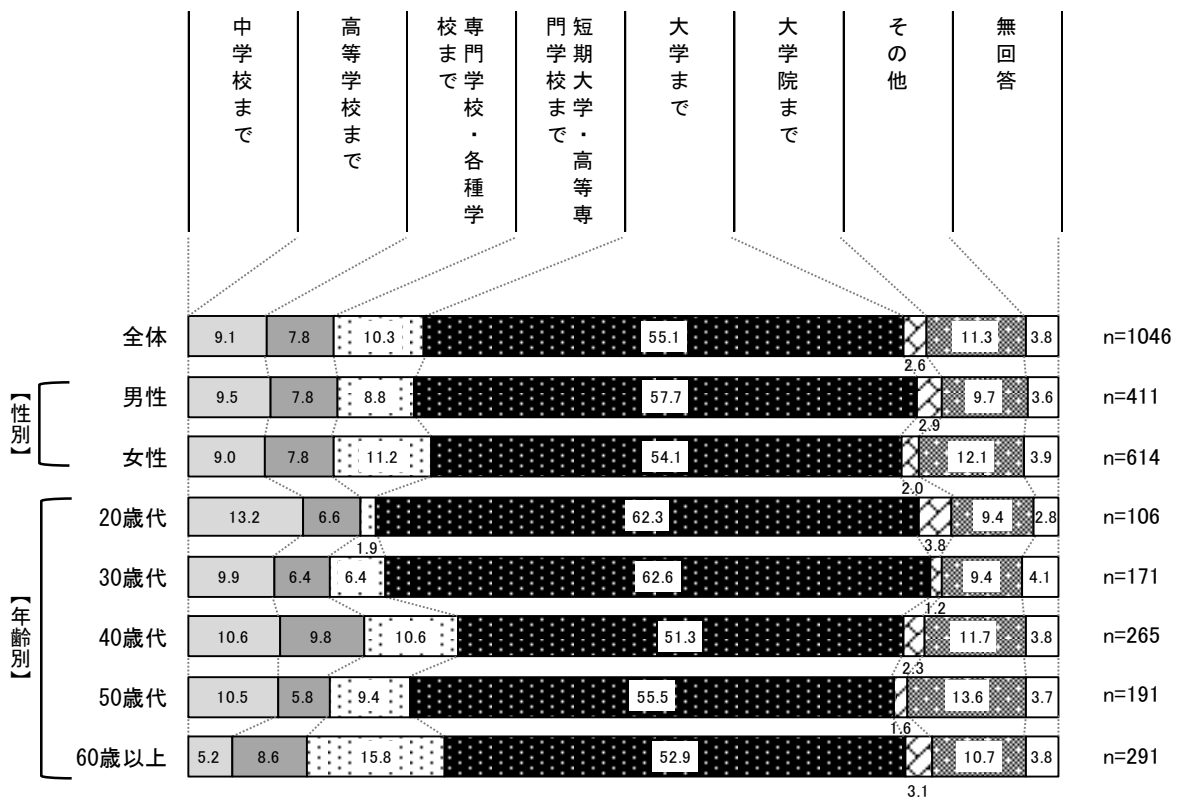
問17 子どもにはどこまで進学することを期待しますか。女の子と男の子の場合について、それぞれ1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

<女の子の場合>

- ◆「大学まで」が5割強、「短期大学・高等専門学校まで」が約1割
- ◆前回調査と比べて「高等学校まで」が減少し、「大学まで」が増加

※前回調査の設問文は「子どもの教育はどこまでを期待しますか」。

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
中学校まで	—	3.9%
高等学校まで	9.1%	23.2%
専門学校・各種学校まで	7.8%	8.1%
短期大学・高等専門学校まで	10.3%	16.9%
大学まで ※前回調査は「4年制大学まで」	55.1%	39.1%
大学院まで	2.6%	1.0%
その他	11.3%	4.1%



【全体】

「大学まで」(55.1%) が最も高く、次いで「その他」(11.3%)、「短期大学・高等専門学校まで」(10.3%) が高くなっています。

【性別】

大きな差はみられませんでした。

【年齢別】

20歳代・30歳代は「大学まで」が6割以上と若干高くなっています。

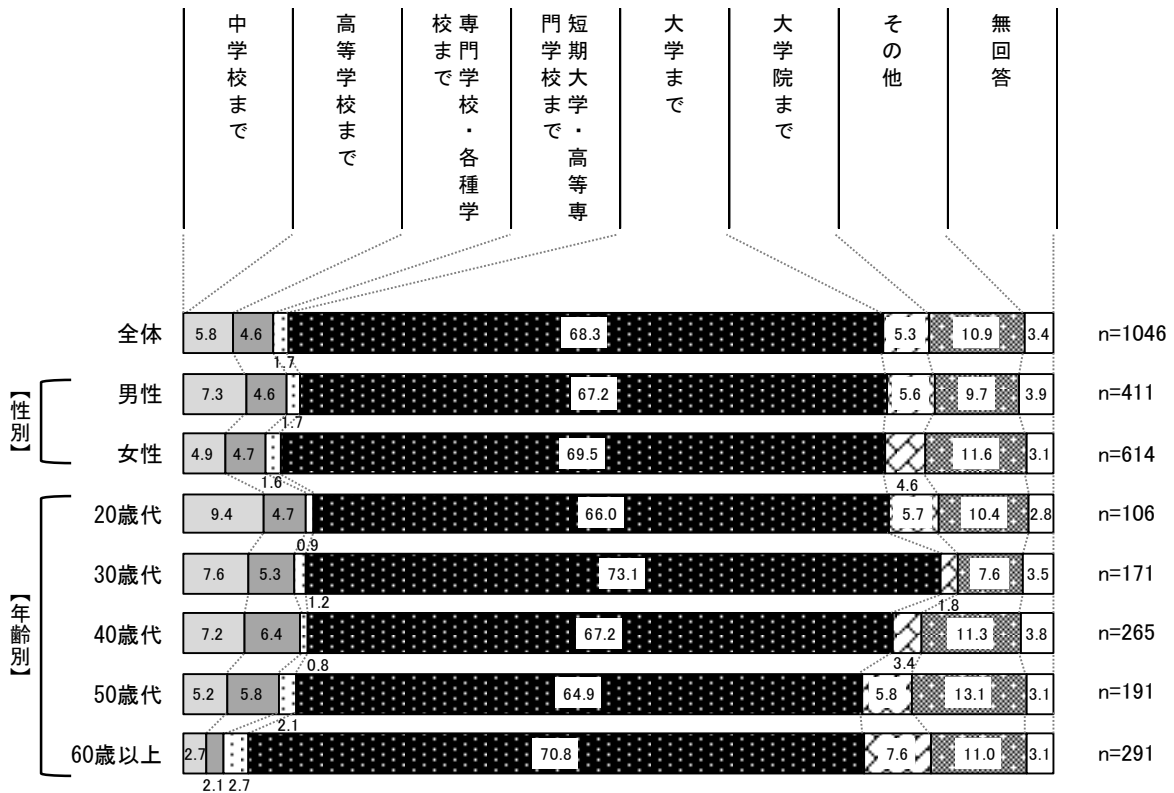
<男の子の場合>

◆「大学まで」が7割弱、他は1割未満

◆前回調査と比べて「高等学校まで」が減少し、「大学まで」が増加

※前回調査の設問文は「子どもの教育はどこまでを期待しますか」。

	平成 28 年 9 月	平成 22 年 9 月
中学校まで	—	4.5%
高等学校まで	5.8%	20.8%
専門学校・各種学校まで	4.6%	6.7%
短期大学・高等専門学校まで	1.7%	2.8%
大学まで ※前回調査は「4年制大学まで」	68.3%	53.8%
大学院まで	5.3%	4.1%
その他	10.9%	4.4%



【全体】

「大学まで」(68.3%)が最も高く、次いで「その他」(10.9%)、「高等学校まで」(5.8%)が高くなっています。

【性別】

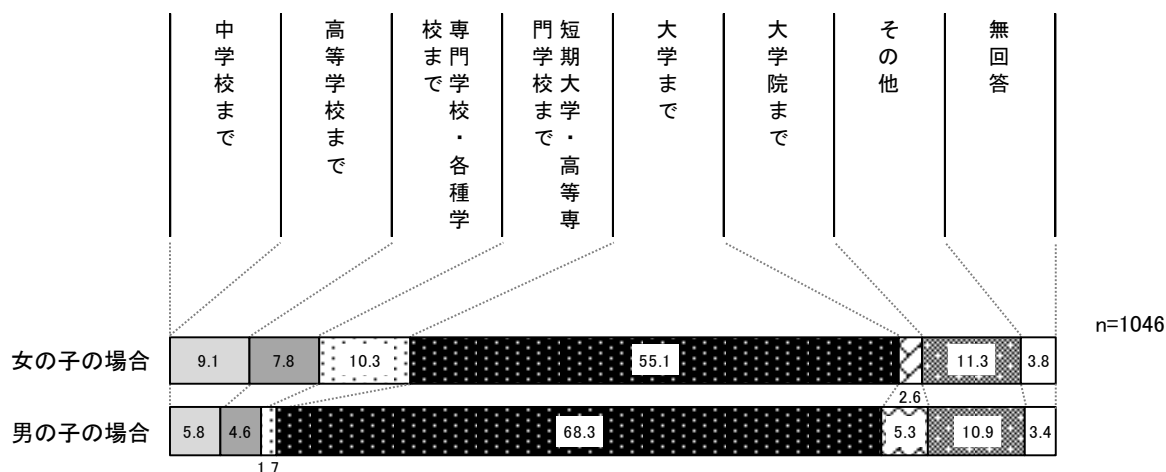
大きな差はみられませんでした。

【年齢別】

30歳代は「大学まで」(73.1%)が若干高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【女の子と男の子の比較】（子どもに期待する進学先）



女の子の場合は「短期大学・高等専門学校まで」（10.3%）が男の子（1.7%）より 8.6 ポイント高く、男の子の場合は「大学まで」（68.3%）が女の子（55.1%）より 13.2 ポイント高くなっています。

【中学生・高校生との比較】

女子の進学希望と一般市民の女の子への期待についてみると、一般市民は「短期大学・高等専門学校まで」が中学生・高校生より若干高くなっています。中学生・高校生は「大学まで」が約 60% で一般市民（55.1%）より若干高くなっています。

男子の進学希望と一般市民の男の子への期待についてみると、中学生・高校生と一般市民はともに「大学まで」が 60% 台ですが、中学生・高校生は「高等学校まで」が 20% 台で一般市民（5.8%）より高くなっています。

●女子の進学希望と、一般市民の女の子への期待

	中学生女子	高校生女子	一般市民
中学校まで	—	—	—
高等学校まで	13.1	13.8	9.1
専門学校・各種学校まで	17.9	16.7	7.8
短期大学・高等専門学校まで	4.8	6.4	10.3
大学まで	60.6	59.6	55.1
大学院まで	2.4	1.4	2.6
その他	1.2	1.1	11.3

●男子の進学希望と、一般市民の男の子への期待

	中学生男子	高校生男子	一般市民
中学校まで	1.1	—	—
高等学校まで	21.0	23.4	5.8
専門学校・各種学校まで	9.7	5.0	4.6
短期大学・高等専門学校まで	1.1	—	1.7
大学まで	61.8	65.3	68.3
大学院まで	3.7	4.7	5.3
その他	1.5	1.3	10.9

■「その他」の内訳

女の子(117 件)
・ 本人の望むところまで。(92 件)
・ 本人の能力・適性次第。(14 件)
・ 高等学校以上。(4 件)
・ 希望する職種に適した学校まで。(2 件)
・ その他(5 件)

男の子(111 件)
・ 本人の望むところまで。(88 件)
・ 本人の能力・適性次第。(13 件)
・ 希望する職種に適した学校。(2 件)
・ 大学以上。(2 件)
・ その他(6 件)

7 メディアにおける性・暴力や性別役割分担の表現について

7-1 メディアにおける性・暴力や性別役割分担の表現について

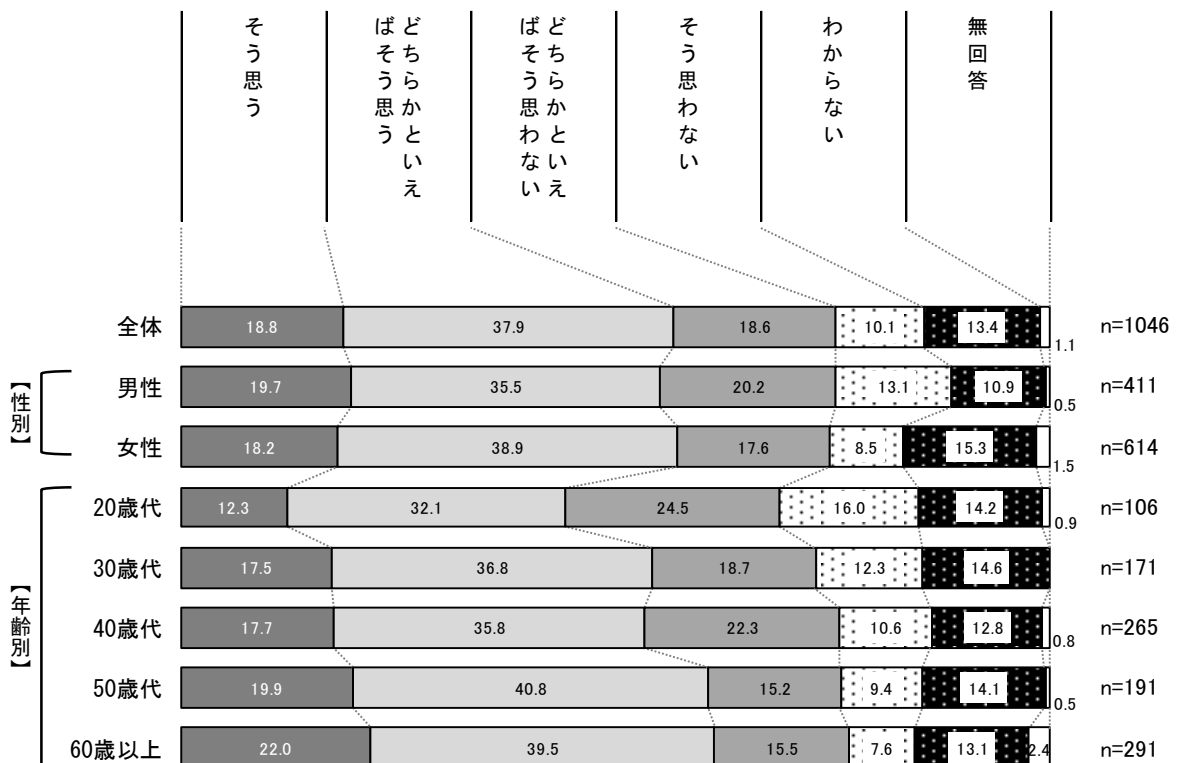
問18 あなたは、テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどのメディアにおける性・暴力の表現や、性別による固定的な役割分担（「男は仕事、女は家庭」など）の表現について、問題があると思いますか。（○は1つ）

◆『問題があると思う』は56.7%、『問題があると思わない』は28.7%

平成28年9月	
『問題があると思う』	56.7%
そう思う	18.8%
どちらかといえばそう思う	37.9%
『問題があると思わない』	28.7%
どちらかといえばそう思わない	18.6%
そう思わない	10.1%
わからない	13.4%

『問題があると思う』…「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合算

『問題があると思わない』…「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合算



【全体】

『問題があると思う』は56.7%、『問題があると思わない』は28.7%となっています。

【性別】

男性は『問題があると思わない』（33.3%）が女性（26.1%）より7.2ポイント高くなっています。

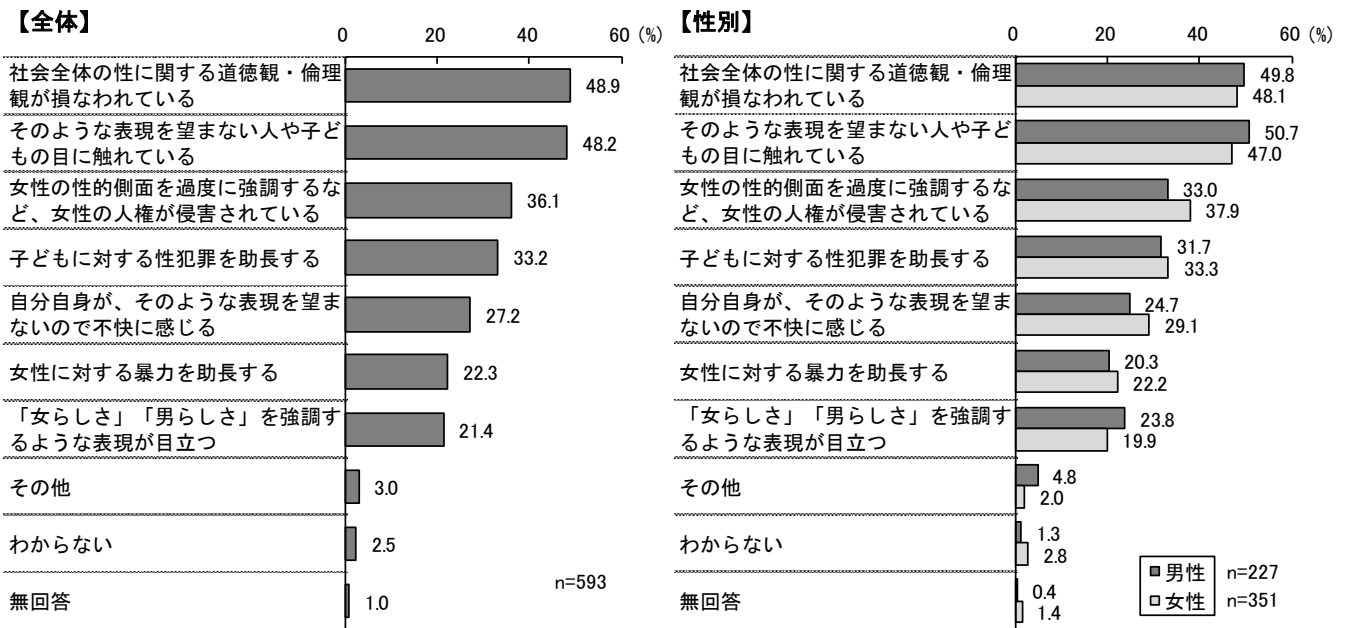
【年齢別】

20歳代は『問題があると思わない』（40.5%）が他の年代に比べて高くなっています。

問 18 で、「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と回答した方におたずねします。

問 18(1) それはどのような点で問題があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

◆「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」が約5割



【全体】

「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(48.9%)が最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」(48.2%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている」(36.1%)が高くなっています。

【性別】

大きな差はみられませんでした。

II 調査の結果【一般市民】

【年齢別】

年齢が高いほど「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が高くなっています。

20歳代・30歳代は「女らしさ」「男らしさ」を強調するような表現が目立つ」、60歳以上は「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（64.2%）、「女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている」（45.8%）、「自分自身が、そのような表現を望まないのので不快に感じる」（39.1%）が、それぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている	女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている	子どもに対する性犯罪を助長する	自分自身が、そのような表現を望まないのので不快に感じる	女性に対する暴力を助長する	「女らしさ」「男らしさ」を強調するような表現が目立つ	その他	わからない	無回答
20歳代	47	29.8	51.1	25.5	19.1	25.5	17.0	31.9	4.3	2.1	—
30歳代	93	37.6	53.8	34.4	24.7	20.4	10.8	32.3	4.3	2.2	—
40歳代	142	40.8	55.6	31.0	31.0	16.2	24.6	15.5	4.2	3.5	—
50歳代	116	51.7	38.8	31.9	39.7	29.3	25.9	19.8	2.6	2.6	0.9
60歳以上	179	64.2	45.3	45.8	37.4	39.1	22.3	19.0	1.7	1.1	2.8

【子どもの有無別】

子どものいる人は「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（52.0%）、「子どもに対する性犯罪を助長する」（34.1%）が子どものいない人を10ポイント以上上回っています。

子どものいない人は「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」（57.1%）、「女らしさ」「男らしさ」を強調するような表現が目立つ」（29.5%）が子どものいる人を10ポイント以上上回っています。

(%)

	件数(件)	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている	女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている	子どもに対する性犯罪を助長する	自分自身が、そのような表現を望まないのので不快に感じる	女性に対する暴力を助長する	「女らしさ」「男らしさ」を強調するような表現が目立つ	その他	わからない	無回答
子どもがいる	431	52.0	46.2	35.5	34.1	26.7	20.4	18.6	2.8	2.3	1.2
子どもはいない	112	38.4	57.1	35.7	24.1	28.6	18.8	29.5	5.4	2.7	0.9

■「その他」の内訳

意見(18件)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 役割分担を「男は仕事」「女は家庭」と見せることが多いと感じる。また、育児休暇やママが働いていることを大変なことだとわざわざ見せているように見える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 某消臭芳香剤のCMは、母(女)が洗たくをするのが当然という考えが出ていて不快に感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 政治家や議員などが公の場で女性蔑視な言動を垂れ流している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームなど、リアルすぎて怖いので、子どもにはあまりやってほしくない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ その他(14件)

8 人権の尊重について

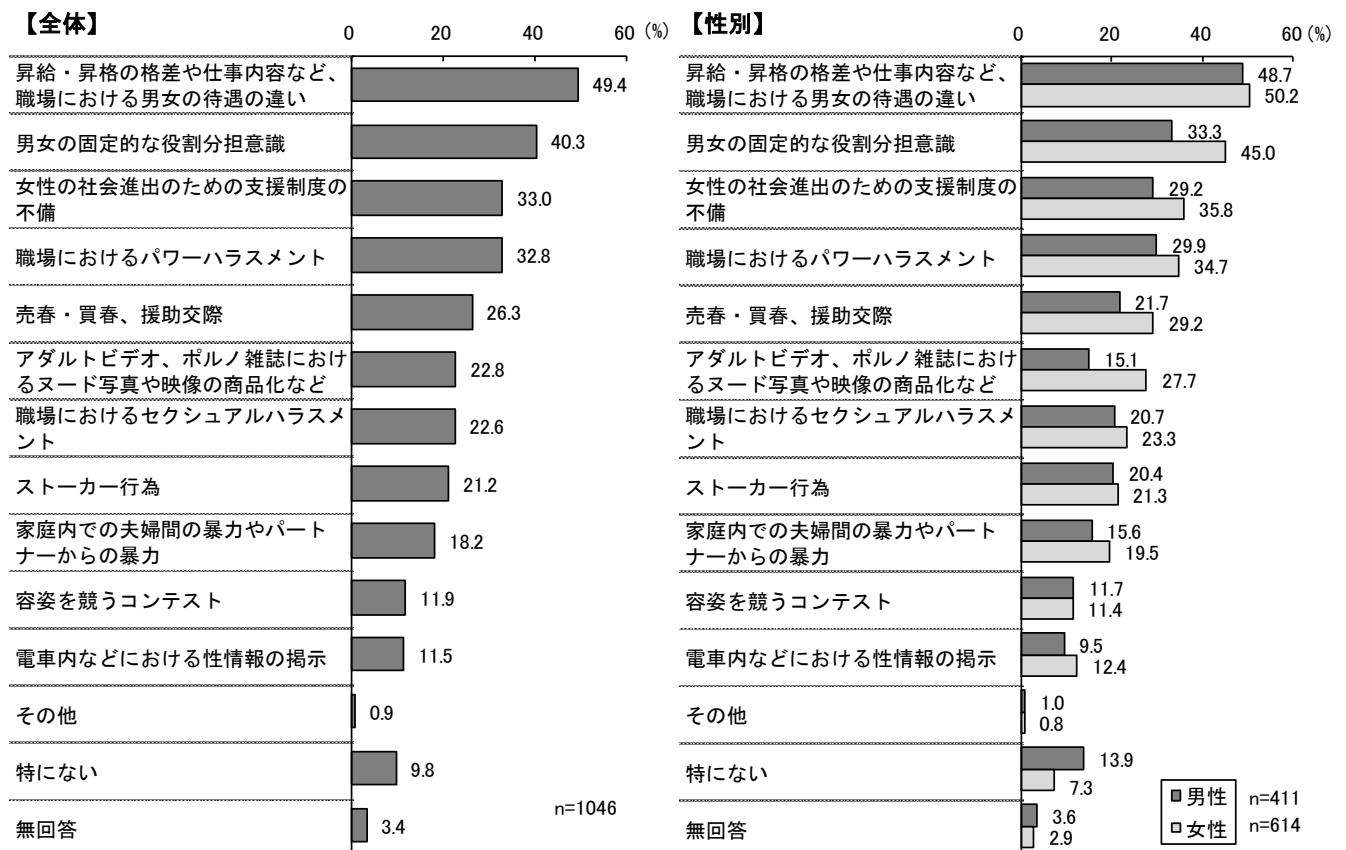
8-1 男女の人権が尊重されていないと感じるもの

問 19 男女の人権が尊重されていないとあなたが感じるものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- ◆「昇給・昇格の格差や仕事内容など、職場における男女の待遇の違い」が約5割
- ◆「職場におけるパワーハラスメント」は3割以上で、「職場におけるセクシュアルハラスメント」(約2割)より高い

※前回調査の設問文は「女性の人権が尊重されていないとあなたが感じるものはありますか。」

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
昇給の格差や仕事内容など、職場における男女の待遇の違い	49.4%	42.6%	44.5%
男女の固定的な役割分担意識	40.3%	38.1%	43.5%
女性の社会進出のための支援制度の不備	33.0%	31.8%	33.2%
職場におけるパワーハラスメント ※今回調査のみ	32.8%	—	—
売春・買春、援助交際	26.3%	26.2%	24.2%
アダルトビデオ、雑誌におけるヌード写真や映像の商品化など	22.8%	28.4%	20.0%
職場におけるセクシュアルハラスメント	22.6%	18.6%	25.1%
ストーカー行為	21.2%	18.6%	15.0%
家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力	18.2%	18.8%	22.2%
容姿を競うコンテスト	11.9%	10.3%	7.5%
電車内などにおける性情報の掲示	11.5%	12.3%	14.2%
その他	0.9%	0.7%	1.6%
特にない	9.8%	10.5%	10.9%



【全体】

「昇給・昇格の格差や仕事内容など、職場における男女の待遇の違い」（49.4%）が最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担意識」（40.3%）、「女性の社会進出のための支援制度の不備」（33.0%）が高くなっています。

【性別】

女性は「男女の固定的な役割分担意識」、「アダルトビデオ、ポルノ雑誌におけるヌード写真や映像の商品化など」がともに、男性より10ポイント以上高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「職場におけるセクシュアルハラスメント」（28.3%）が他の年代に比べて若干高くなっています。

(%)

	件数(件)	昇給・昇格の格差や仕事内容など、職場における男女の待遇の違い	男女の固定的な役割分担意識	女性の社会進出のための支援制度の不備	職場におけるパワーハラスメント	売春・買春、援助交際	アダルトビデオ、ポルノ雑誌におけるヌード写真や映像の商品化など	職場におけるセクシュアルハラスメント	ストーカー行為	家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力	容姿を競うコンテスト	電車内などにおける性情報の掲示	その他	特になし	無回答
20歳代	106	39.6	38.7	23.6	29.2	18.9	15.1	28.3	15.1	18.9	7.5	3.8	0.9	16.0	4.7
30歳代	171	53.2	43.3	34.5	29.2	25.1	18.7	19.3	17.5	14.0	6.4	11.7	1.2	7.6	3.5
40歳代	265	44.5	41.5	34.3	32.1	22.3	21.9	19.2	19.6	14.3	10.2	10.6	1.5	9.1	1.9
50歳代	191	52.9	39.8	34.0	31.9	28.3	24.6	19.9	21.5	19.9	12.6	8.9	—	10.5	1.0
60歳以上	291	53.3	38.1	34.0	37.1	31.3	27.1	25.8	25.8	21.6	16.5	15.5	0.7	9.6	5.2

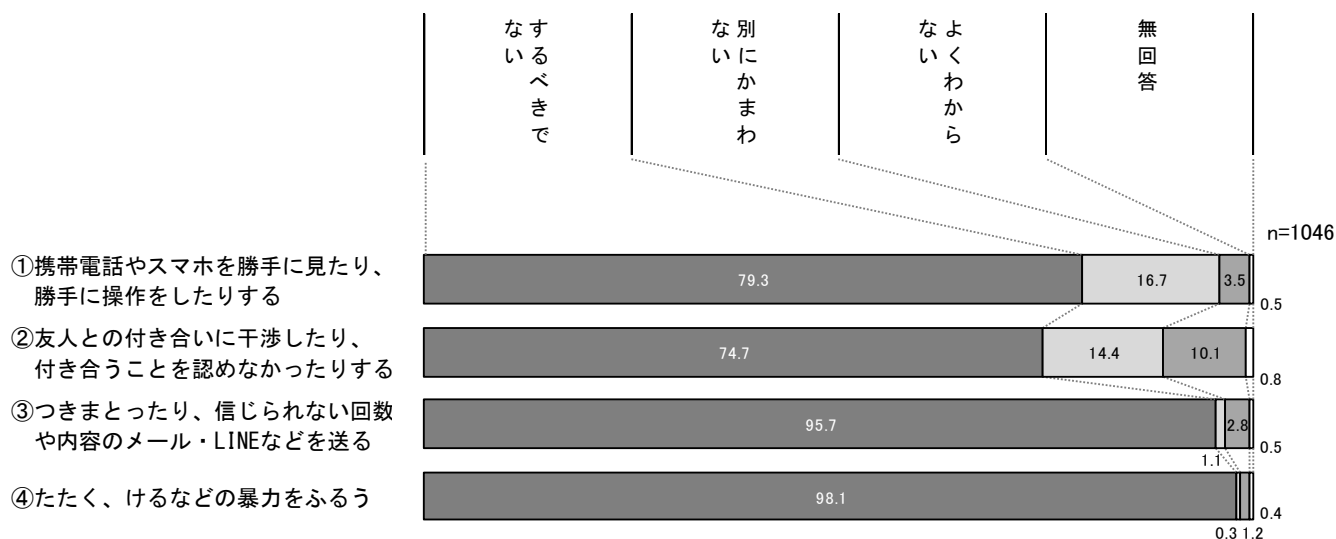
■「その他」の内訳

意見(7件)
・ 女性の人権の方が過度に尊重されている。(2件)
・ 女性が男性トイレを洗うこと。
・ 報道、ワイドショー等による偏見。
・ その他(3件)

8-2 夫婦・恋人間の暴力等について

問 20 あなたは、夫婦や恋人との間で、①～④のようなことについてどう思いますか。それぞれ1つずつ選んで、番号に○印をつけてください。

◆「つきまったり、信じられない回数や内容のメール・LINEなどを送る」、「たたく、けるなどの暴力をふるう」は「するべきでない」が9割以上

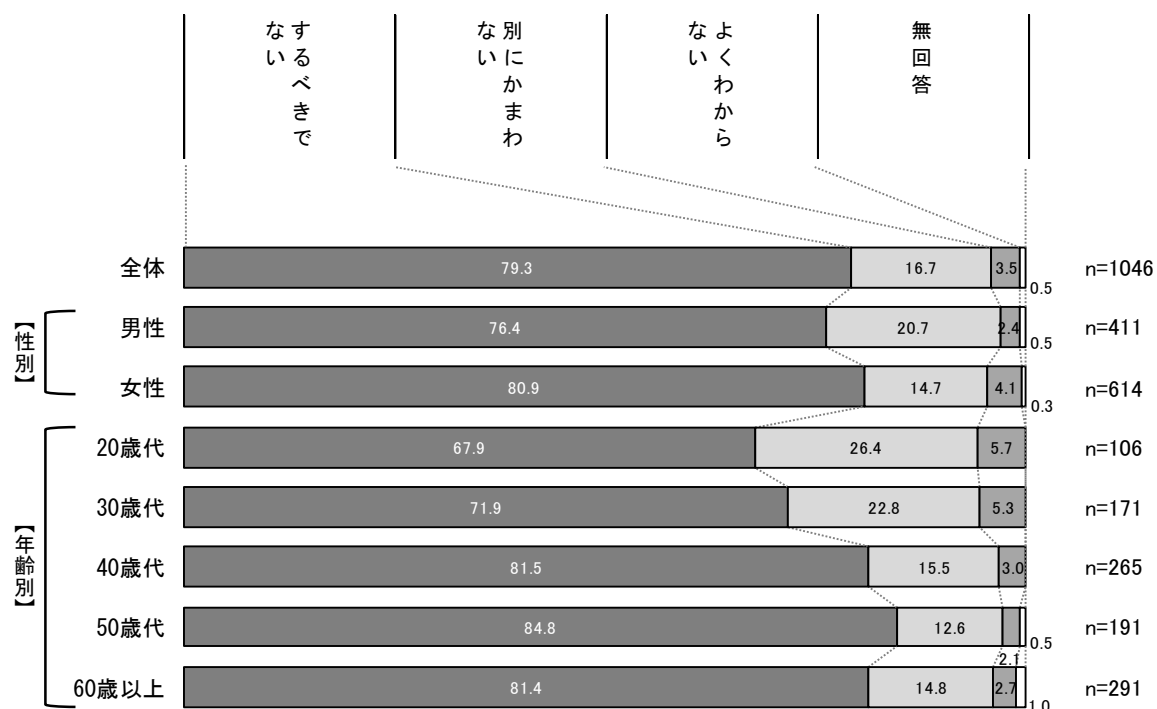


【全体】(①～④)

「するべきでない」は「たたく、けるなどの暴力をふるう」(98.1%)、「つきまったり、信じられない回数や内容のメール・LINEなどを送る」(95.7%)で90%以上と高くなっています。一方、「別にいいから」は「携帯電話やスマホを勝手に見たり、勝手に操作をしたりする」で16.7%、「友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする」で14.4%、他の項目では約1%となっています。

<①携帯電話やスマホを勝手に見たり、勝手に操作をしたりする>

◆「すべきでない」は79.3%、「別にかまわない」は16.7%



【全体】

「すべきでない」は79.3%、「別にかまわない」は16.7%となっています。

【性別】

男性は「別にかまわない」(20.7%)が女性(14.7%)より6.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「別にかまわない」(26.4%)が他の年代に比べて高くなっています。

【中学生・高校生との比較】(①携帯電話やスマホを勝手に見たり、勝手に操作をしたりする)

中学生・高校生と比べると、一般市民は「すべきでない」(79.3%)が中学生・高校生より10ポイント以上高くなっています。

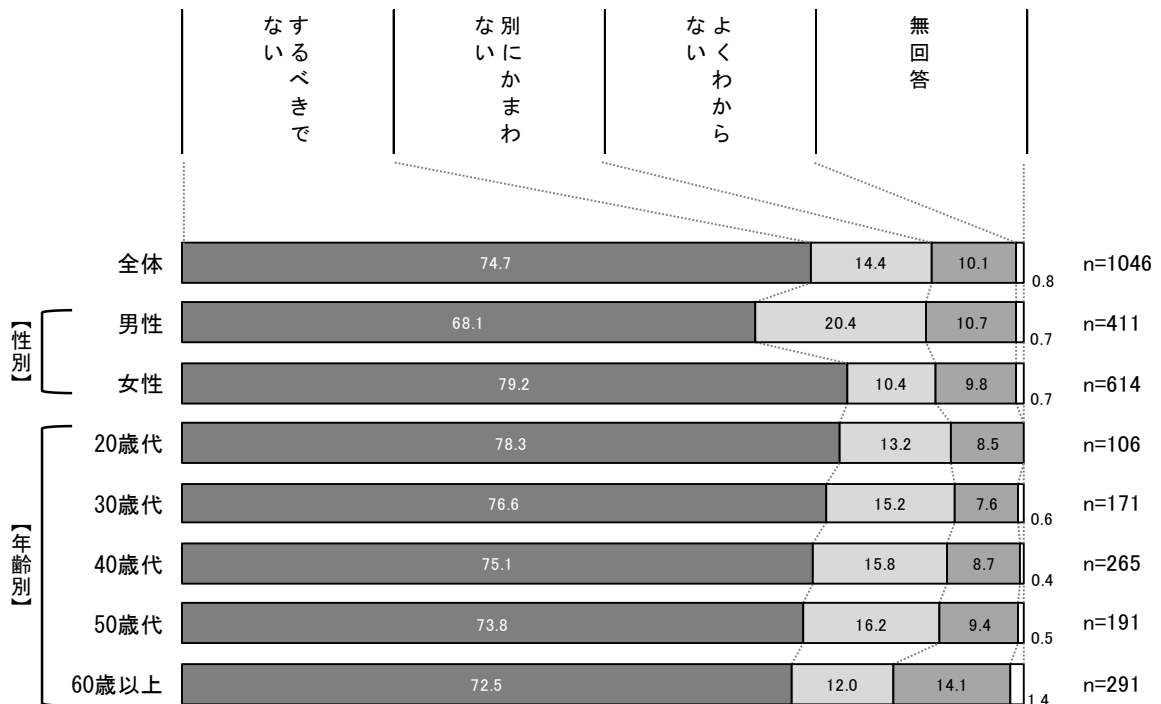
	中学生	高校生	一般市民
すべきでない	61.8	67.3	79.3
別にかまわない	26.5	24.8	16.7
よくわからない	11.3	7.7	3.5

(%)

Ⅱ 調査の結果【一般市民】

<②友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする>

◆「すべきでない」は74.7%、「別にかまわない」は14.4%



【全体】

「すべきでない」は74.7%、「別にかまわない」は14.4%となっています。

【性別】

男性は「別にかまわない」(20.4%)が女性(10.4%)より10.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

年齢が低いほど「すべきでない」は高くなっていますが、いずれの年代でも7割以上となっています。

【中学生・高校生との比較】(②友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする)

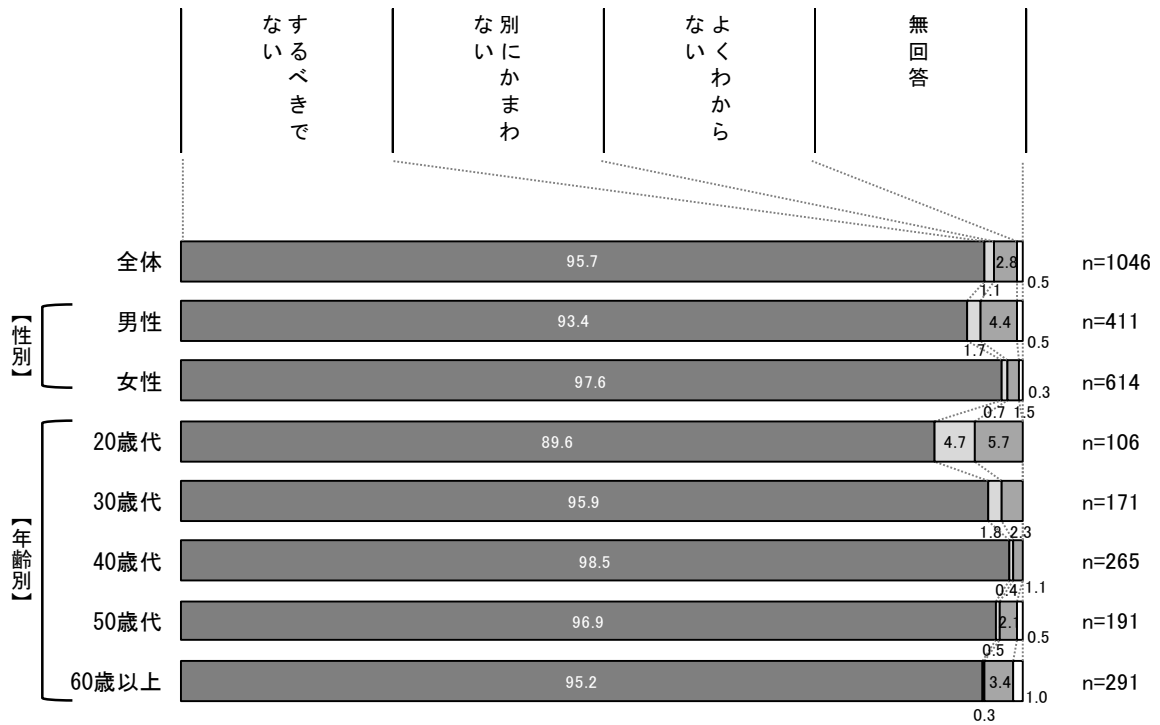
中学生・高校生と比べると、一般市民は「すべきでない」(74.7%)が中学生・高校生と同じ約75%で、差はみられませんでした。

	中学生	高校生	一般市民
すべきでない	75.0	75.3	74.7
別にかまわない	8.8	11.6	14.4
よくわからない	15.7	12.9	10.1

(%)

<③つきまったり、信じられない回数や内容のメール・LINE などを送る>

◆「すべきでない」は95.7%、「別にかまわない」は1.1%



【全体】

「すべきでない」は95.7%、「別にかまわない」は1.1%となっています。

【性別】

女性は「すべきでない」(97.6%)が男性(93.4%)より若干高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「別にかまわない」(4.7%)が他の年代に比べて若干高くなっています。

【中学生・高校生との比較】(③つきまったり、信じられない回数や内容のメール・LINE などを送る)

中学生・高校生と比べると、一般市民は「すべきでない」(95.7%)が中学生・高校生より10ポイント以上高くなっています。

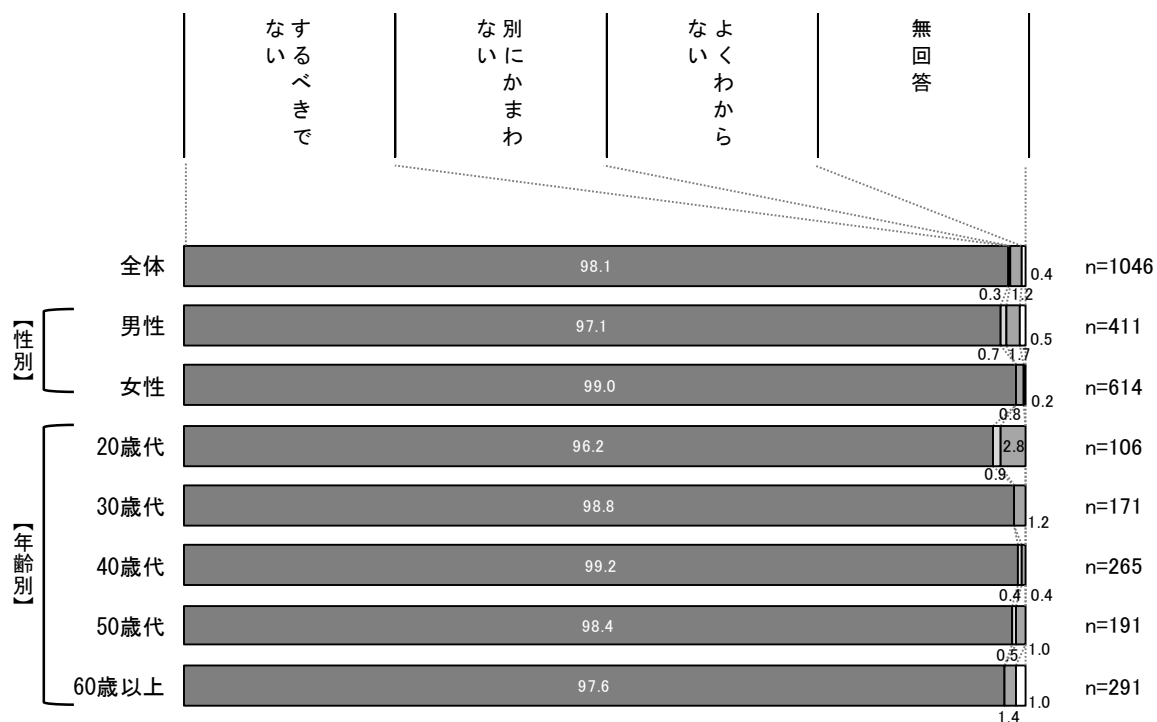
	中学生	高校生	一般市民
すべきでない	81.4	81.7	95.7
別にかまわない	8.3	9.6	1.1
よくわからない	10.0	8.5	2.8

(%)

II 調査の結果【一般市民】

<④たたく、けるなどの暴力をふるう>

◆「すべきでない」は98.1%、「別にかまわない」は0.3%



【全体】

「すべきでない」は98.1%、「別にかまわない」は0.3%となっています。

【性別】

大きな差はみられませんでした。

【年齢別】

大きな差はみられませんでした。

【高校生との比較】（④たたく、けるなどの暴力をふるう）

高校生と比べると、一般市民は「すべきでない」（98.1%）が高校生（93.5%）より若干高くなっています。

	高校生	一般市民
すべきでない	93.5	98.1
別にかまわない	1.5	0.3
よくわからない	4.9	1.2

(%)

8-3 恋人・配偶者から暴力を受けた経験

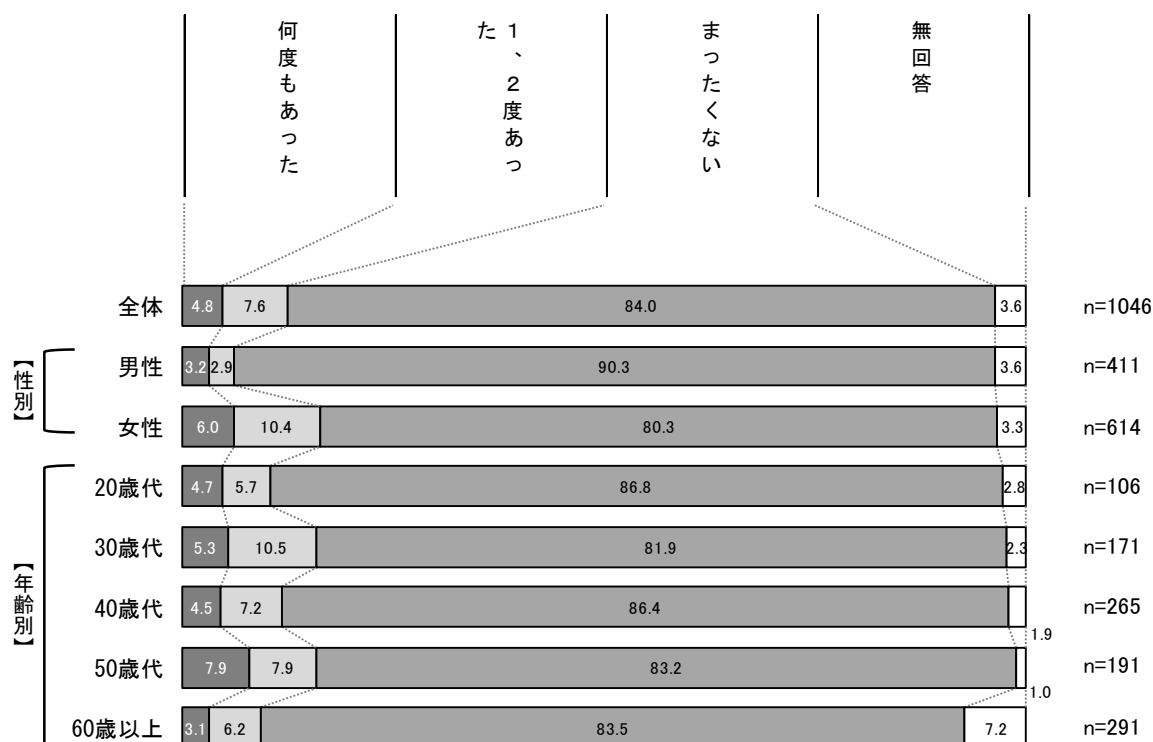
問 21 最近5年間に、あなたの恋人や配偶者（事実婚や別居中、離婚後を含む）から、身体的・精神的・性的・経済的暴力を受けたことがありますか。（○は1つ）

◆『暴力を受けたことがある』人は12.4%

◆前回調査と比べて『暴力を受けたことがある』人が減少し、「まったくない」人が増加

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『暴力を受けたことがある』	12.4%	14.6%	16.1%
何度もあった	4.8%	6.3%	7.4%
1、2度あった	7.6%	8.3%	8.7%
まったくない	84.0%	77.3%	78.0%

『暴力を受けたことがある』…「何度もあった」と「1、2度あった」を合算



【全体】

『暴力を受けたことがある』は12.4%、「まったくない」は84.0%となっています。

【性別】

女性は『暴力を受けたことがある』が16.4%、男性は6.1%となっています。

【年齢別】

30歳代・50歳代は『暴力を受けたことがある』（ともに15.8%）が他の年代に比べて高くなっています。

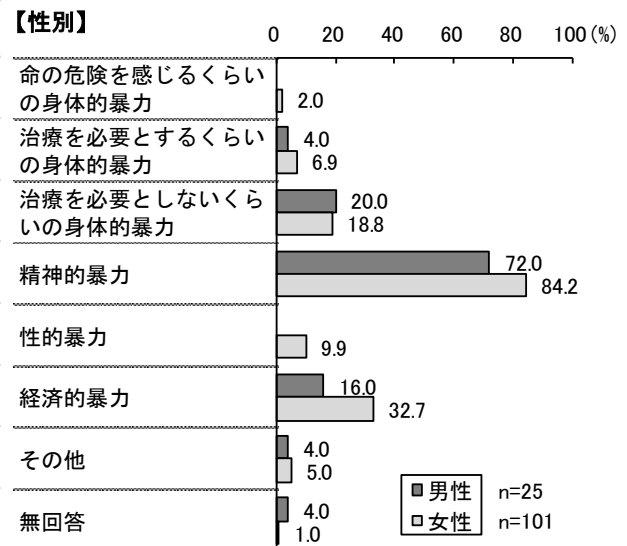
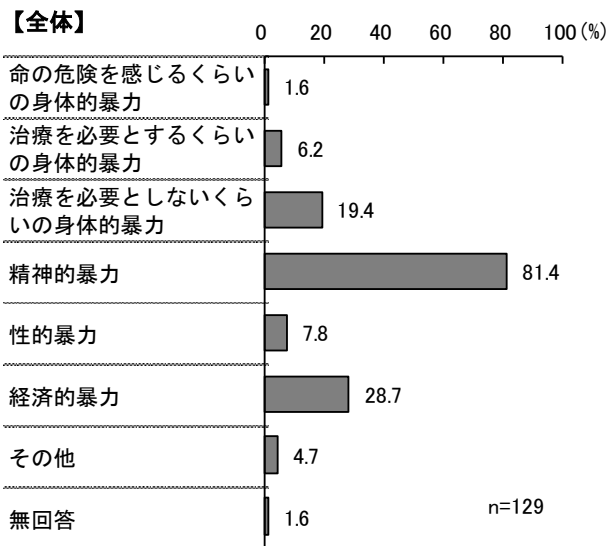
II 調査の結果【一般市民】

問 21 で、「1 何度もあった」または「2 1、2度あった」と回答した方におたずねします。
 問 21(1) どのような暴力を受けたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

◆「精神的暴力」が約8割

◆前回調査と比べて「精神的暴力」、「経済的暴力」が増加

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
命の危険を感じるくらいの身体的暴力	1.6%	3.9%	5.8%
治療を必要とするくらいの身体的暴力	6.2%	9.2%	6.8%
治療を必要としないくらいの身体的暴力	19.4%	23.0%	23.0%
精神的暴力	81.4%	71.1%	59.7%
性的暴力	7.8%	14.5%	13.6%
経済的暴力	28.7%	23.7%	17.3%
その他	4.7%	4.6%	—



【全体】

「精神的暴力」(81.4%)が最も高く、次いで「経済的暴力」(28.7%)、「治療を必要としないくらいの身体的暴力」(19.4%)が高くなっています。また、「命の危険を感じるくらいの身体的暴力」は1.6%、「治療を必要とするくらいの身体的暴力」は6.2%となっています。

【性別】

女性は「精神的暴力」が84.2%、「経済的暴力」が32.7%、「治療を必要としないくらいの身体的暴力」が18.8%となっています。

なお、男性は全体数が25件と少ないため、比率をみることは適当ではありません。

【年齢別】

40歳代は「経済的暴力」(41.9%)、50歳代は「精神的暴力」(93.3%)が、それぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	命の危険を感じるくらい の身体的暴力	治療を必要とするくらい の身体的暴力	治療を必要としない くらいの身体的暴力	精神的暴力	性的暴力	経済的暴力	その他	無回答
20歳代	11	9.1	9.1	18.2	81.8	18.2	27.3	18.2	—
30歳代	27	3.7	—	33.3	77.8	7.4	25.9	3.7	3.7
40歳代	31	—	9.7	19.4	80.6	12.9	41.9	—	—
50歳代	30	—	3.3	6.7	93.3	3.3	23.3	3.3	—
60歳以上	27	—	11.1	18.5	74.1	3.7	25.9	7.4	3.7

【結婚の有無別】

『結婚していない』人は「性的暴力」(21.9%)、「経済的暴力」(37.5%)が結婚している人より10ポイント以上高くなっています。

(%)

	件数(件)	命の危険を感じるくらい の身体的暴力	治療を必要とするくらい の身体的暴力	治療を必要としない くらいの身体的暴力	精神的暴力	性的暴力	経済的暴力	その他	無回答
結婚している	94	—	4.3	21.3	81.9	3.2	26.6	5.3	2.1
『結婚していない』	32	6.3	12.5	12.5	81.3	21.9	37.5	3.1	—
未婚	13	15.4	7.7	7.7	69.2	23.1	23.1	7.7	—
離別	16	—	18.8	6.3	93.8	18.8	56.3	—	—
死別	3	—	—	66.7	66.7	33.3	—	—	—

■「その他」の内訳

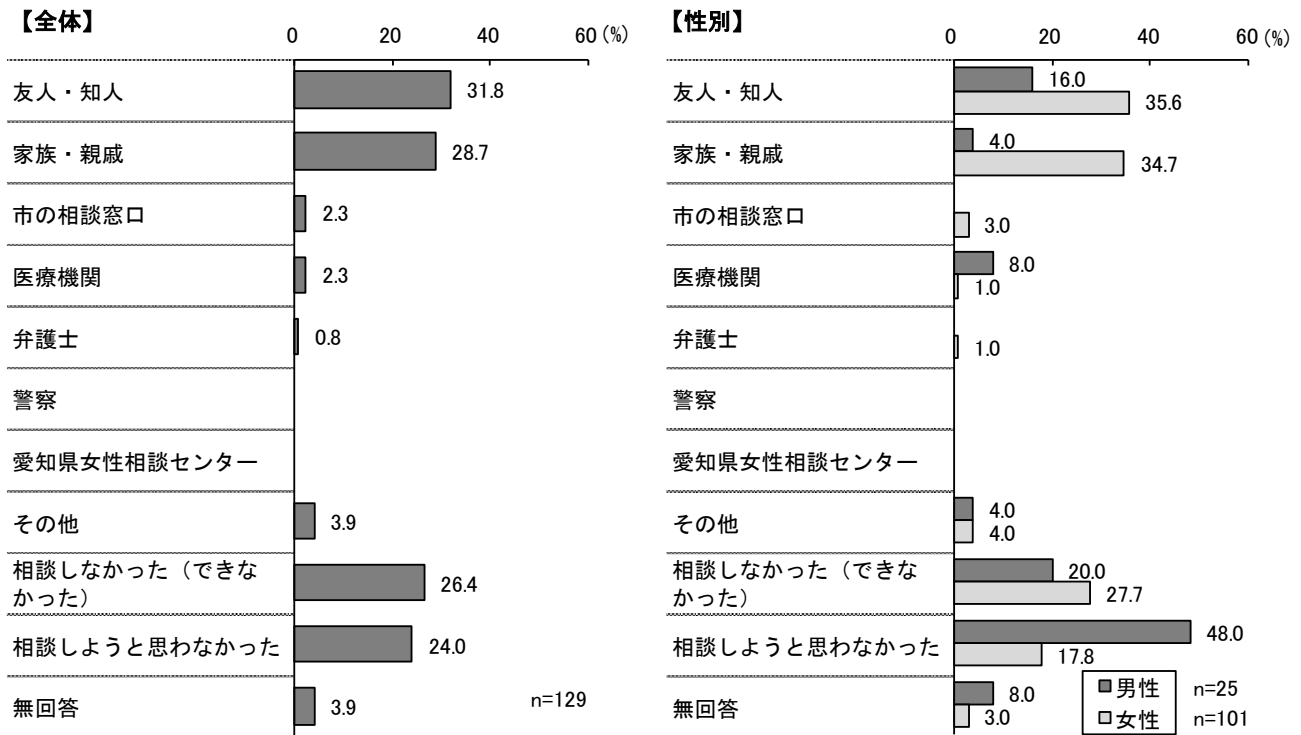
意見(4件)
・ 子どもへのモラハラ。
・ 浪費癖。
・ その他(2件)

II 調査の結果【一般市民】

問 21 (2) あなたは、暴力を受けたときに、誰（どこ）に相談をしましたか。
 （あてはまるものすべてに○）

◆相談相手は「友人・知人」、「家族・親戚」が約3割

◆「相談しなかった（できなかった）」、「相談しようと思わなかった」は2割以上



【全体】

「友人・知人」（31.8%）が最も高く、次いで「家族・親戚」（28.7%）が高くなっています。また、「相談しなかった（できなかった）」が26.4%、「相談しようと思わなかった」が24.0%となっています。

【性別】

女性は「友人・知人」、「家族・親戚」が全体に比べて若干高く、「相談しようと思わなかった」が全体に比べて若干低くなっています。

なお、男性は全体数が25件と少ないため、比率をみることは適当ではありません。

【年齢別】

40歳代は「相談しなかった（できなかった）」（32.3%）が若干高くなっています。

(%)

	件数 (件)	友人・知人	家族・親戚	市の相談窓口	医療機関	弁護士	警察	愛知県女性 相談センター	その他	相談しなかった (できなかった)	相談しようと思わなかった	無回答
20歳代	11	81.8	45.5	—	—	—	—	—	—	—	—	9.1
30歳代	27	33.3	33.3	—	—	—	—	—	7.4	18.5	37.0	—
40歳代	31	29.0	29.0	3.2	6.5	—	—	—	3.2	32.3	19.4	—
50歳代	30	30.0	26.7	3.3	—	3.3	—	—	3.3	30.0	20.0	3.3
60歳以上	27	14.8	18.5	3.7	3.7	—	—	—	3.7	33.3	29.6	11.1

■「その他」の内訳

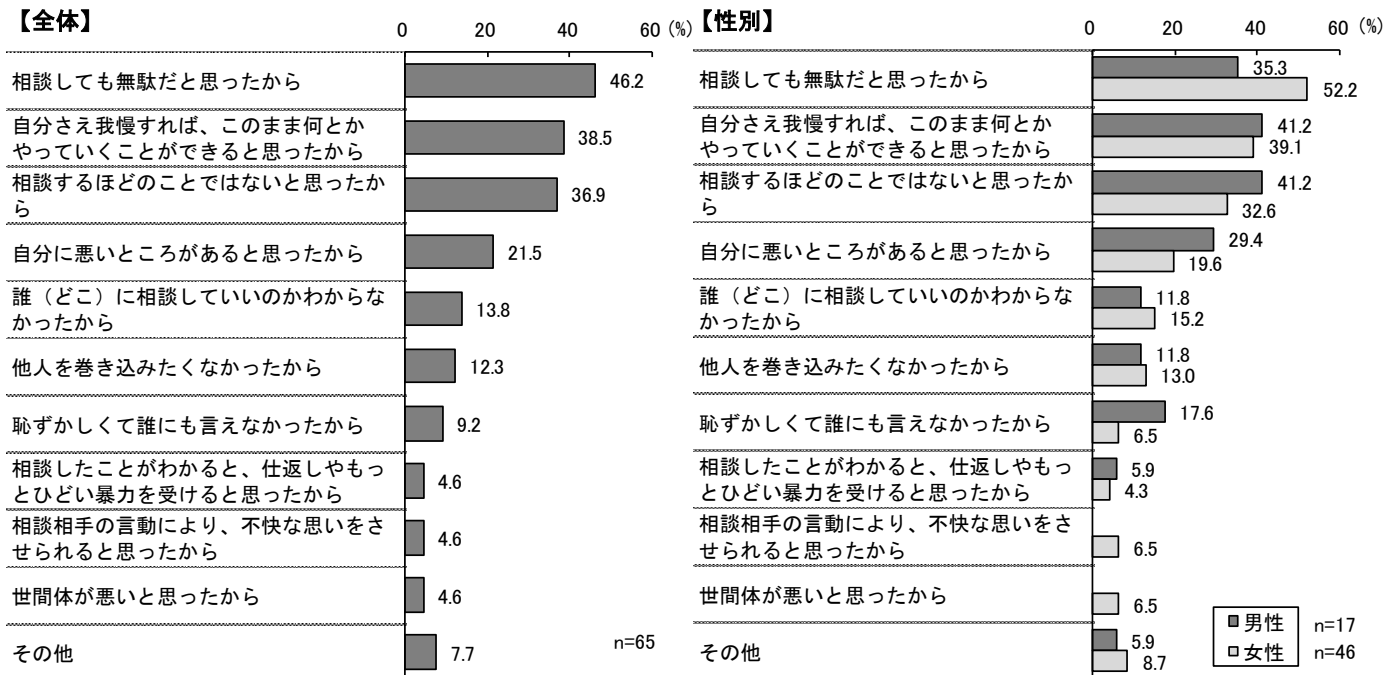
意見(4件)
・ インターネット。
・ 無料電話相談(24時間受付)。
・ 本人に言う、同様に行動した。
・ 会社の健康管理室。

II 調査の結果【一般市民】

問 21 (2) で、「9 相談しなかった（できなかった）」または「10 相談しようと思わなかった」と回答した方におたずねします。

問 21 (3) その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

◆「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」が上位



【全体】

「相談しても無駄だと思ったから」（46.2%）が最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」（38.5%）、「相談するほどのことではないと思ったから」（36.9%）が高くなっています。

【性別】

女性は「相談しても無駄だと思ったから」（52.2%）が全体に比べて若干高くなっています。

■「その他」の内訳

意見（5件）

- ・ 相談しても「こうしたらいい」と言ってもらえる確証がなかったので、時間とお金の無駄になるのが嫌だったから。
- ・ アルツハイマーの初期症状の可能性もあり、しばらく様子を見ることにしたから。
- ・ その他（3件）

9 市の男女共同参画の取り組みについて

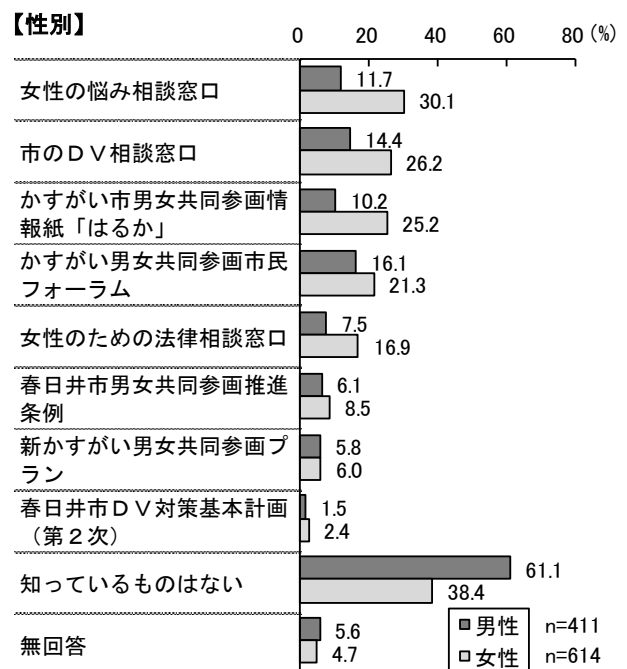
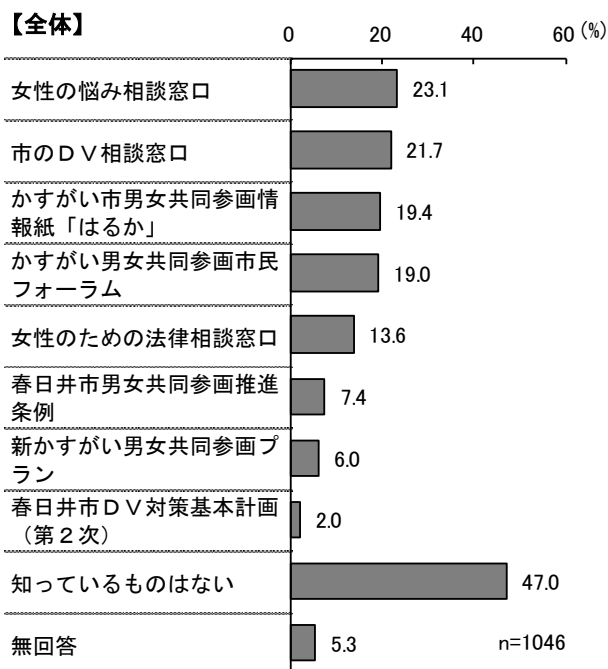
9-1 市の男女共同参画の取り組みの認知度

問 22 春日井市では男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みをしています。あなたが知っているまたは聞いたことがあるものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

◆「知っているものはない」が最も高い

◆前回調査と比べて「情報紙「はるか」」の認知度が増加、「かすがい男女共同参画プラン」の認知度が減少

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
女性の悩み相談窓口	23.1%	26.6%
市のDV相談窓口	21.7%	25.7%
かすがい市男女共同参画情報紙「はるか」	19.4%	7.6%
かすがい男女共同参画市民フォーラム	19.0%	18.6%
女性のための法律相談窓口 ※今回調査のみ	13.6%	—
春日井市男女共同参画推進条例	7.4%	4.6%
新かすがい男女共同参画プラン	6.0%	17.2%
春日井市DV対策基本計画(第2次)	2.0%	3.9%
知っているものはない	47.0%	41.8%



【全体】

「知っているものはない」(47.0%)が最も高く、次いで「女性の悩み相談窓口」(23.1%)、「市のDV相談窓口」(21.7%)、「かすがい市男女共同参画情報紙「はるか」」(19.4%)、「かすがい男女共同参画市民フォーラム」(19.0%)が高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【性別】

女性は「女性の悩み相談窓口」、「市のDV相談窓口」、「かすがい市男女共同参画情報紙「はるか」」が男性より10ポイント以上高くなっています。

男性は「知っているものはない」(61.1%)が女性(38.4%)より22.7ポイント高くなっています。

【年齢別】

年齢が低いほど「知っているものはない」は高く、20歳代は70.8%となっています。

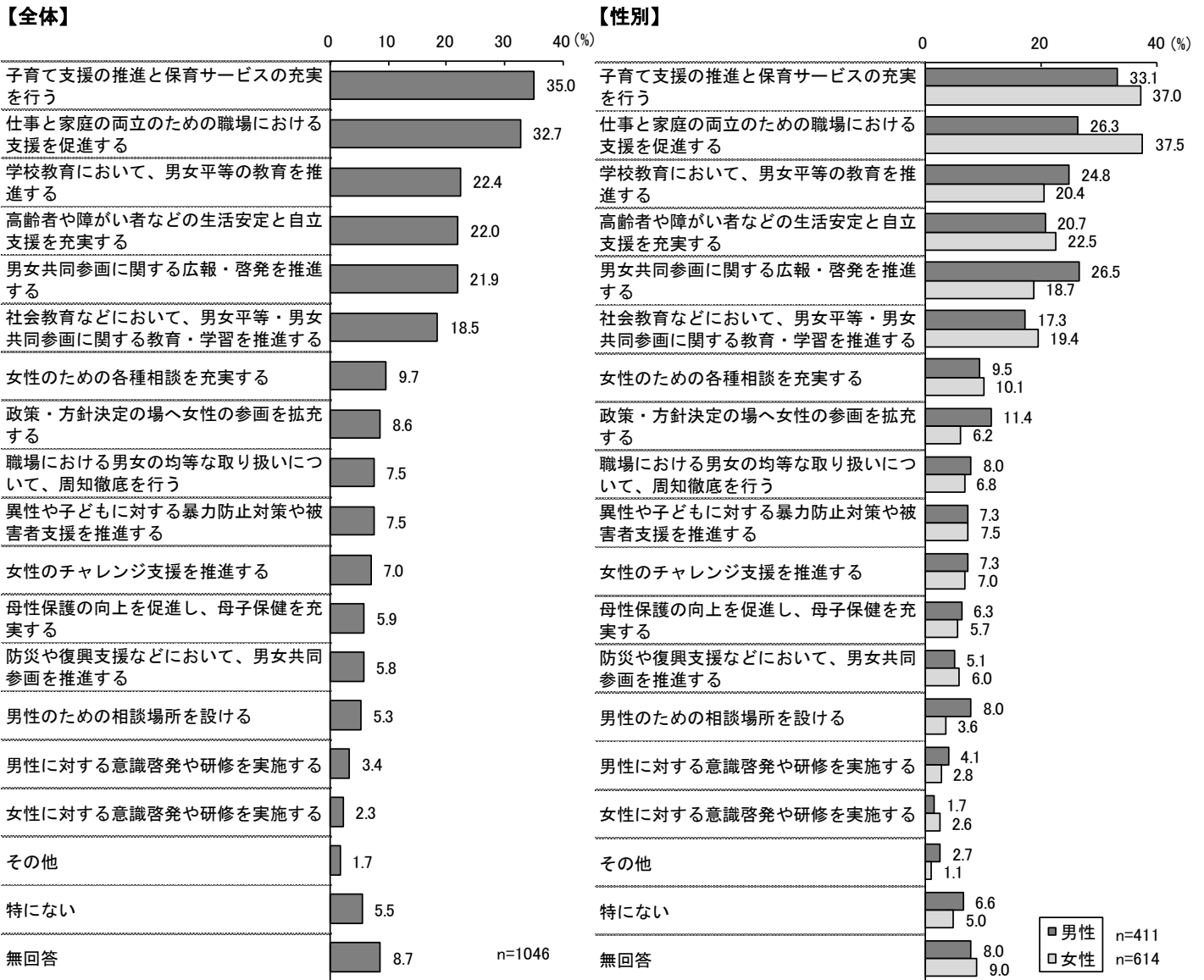
(%)

	件数(件)	女性の悩み相談窓口	市のDV相談窓口	かすがい市男女共同参画情報紙「はるか」	かすがい市男女共同参画市民フォーラム	女性のための法律相談窓口	春日井市男女共同参画推進条例	新かすがい男女共同参画プラン	春日井市DV対策基本計画(第2次)	知っているものはない	無回答
20歳代	106	12.3	6.6	5.7	8.5	2.8	3.8	1.9	0.9	70.8	5.7
30歳代	171	22.8	18.1	9.9	19.3	8.2	5.8	5.3	1.8	55.0	5.8
40歳代	265	25.7	29.4	21.1	16.2	13.6	4.9	4.2	1.1	46.8	1.9
50歳代	191	24.1	20.9	24.1	21.5	14.7	7.9	7.9	2.1	44.5	2.6
60歳以上	291	22.7	21.6	24.4	24.4	18.2	12.0	8.2	3.4	37.5	8.9

9-2 男女共同参画社会形成のために市が力を入れていくべきこと

問 23 男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

◆「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」、「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が3割以上



【全体】

「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」(35.0%)が最も高く、次いで「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」(32.7%)、「学校教育において、男女平等の教育を推進する」(22.4%)が高くなっています。

【性別】

女性は「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」(37.5%)が男性(26.3%)より11.2ポイント高くなっています。

II 調査の結果【一般市民】

【年齢別】

20 歳代・30 歳代は「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」が 40%以上、30 歳代・40 歳代は「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が 40%以上と、いずれも他の年代に比べて高くなっています。60 歳以上は「高齢者や障がい者などの生活安定と自立支援を充実する」(32.0%) が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う	仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する	学校教育において、男女平等の教育を推進する	高齢者や障がい者などの生活安定と自立支援を充実する	男女共同参画に関する広報・啓発を推進する	社会教育などにおいて、男女平等・男女共同参画に関する教育・学習を推進する	女性のための各種相談を充実する	政策・方針決定の場へ女性の参画を拡充する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う	異性や子どもに対する暴力防止対策や被害者支援を推進する	女性のチャレンジ支援を推進する	母性保護の向上を促進し、母子保健を充実する	防災や復興支援などにおいて、男女共同参画を推進する	男性のための相談場所を設ける	男性に対する意識啓発や研修を実施する	女性に対する意識啓発や研修を実施する	その他	特になし	無回答
20 歳代	106	40.6	37.7	15.1	10.4	16.0	17.9	13.2	2.8	10.4	10.4	6.6	10.4	4.7	10.4	2.8	0.9	—	9.4	5.7
30 歳代	171	46.2	42.7	24.6	9.4	15.8	20.5	9.9	4.1	7.0	7.6	8.2	8.2	1.2	7.0	4.1	2.9	2.3	4.7	8.8
40 歳代	265	38.1	40.8	24.5	19.2	22.3	18.9	9.1	7.5	8.3	6.0	7.9	6.4	3.8	5.7	1.9	3.0	3.0	4.2	4.9
50 歳代	191	30.9	30.4	20.4	27.2	24.6	16.8	14.7	7.3	8.9	7.9	8.4	4.7	9.4	5.8	4.7	2.1	0.5	6.3	7.3
60 歳以上	291	27.8	20.3	22.3	32.0	25.4	18.6	6.2	14.1	4.5	7.2	5.2	3.1	7.9	2.1	3.4	1.7	1.7	5.8	13.7

■「その他」の内訳

意見(14 件)
・ わからない。(3件)
・ 選択肢の項目すべて。(2件)
・ その他(9件)

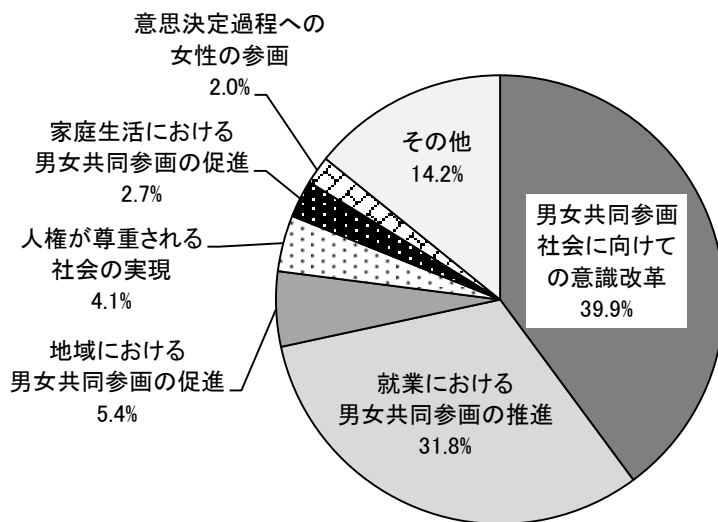
10 自由意見

問 24 男女がともに参画できるまちづくりを進めることについて、ご意見・ご提案やご要望がありましたらご自由にお書きください。

男女がともに参画できるまちづくりを進めることについて、市民の皆さんの自由な意見を書いていただきました。意見の内容を大別すると次表のとおりです。以下、その意見の一部を掲載しています。

意見等の区分(一般市民)

区分	件数	比率
男女共同参画社会に向けての意識改革	59	39.9%
就業における男女共同参画の推進	47	31.8%
地域における男女共同参画の促進	8	5.4%
人権が尊重される社会の実現	6	4.1%
家庭生活における男女共同参画の促進	4	2.7%
意思決定過程への女性の参画	3	2.0%
その他	21	14.2%



II 調査の結果【一般市民】

I 男女共同参画社会に向けての意識改革

意見内容	性別	年代
男女を差別する固定観念が残っていることが特に問題だと思う。急には変わらないが時代を経て少しずつ変化していくものだと思う。	女性	20 歳代
市役所の授乳室が小さいので大きくしてほしい。また男性も入れるような造りにしてほしい。	女性	20 歳代
コンビニにある「成人コーナー」をやめてほしい。目につく所にあってはならない。あるコンビニではコピー機の隣に平然とあり、使用する際に嫌でも目につき、とても不快です。ぜひ注意、指導していただきたい。女性のことを軽視していると感じますので、よろしく願います。	女性	20 歳代
夫婦間の問題にしろ、子育てに関する問題にしろ、相談しても結局、行動するのは相談に行った自分(女性・妻)でしかなく、相談上で得たアドバイスを相手(男性・夫)に伝えるが効力がないか流される。夫婦間の問題は難しいとは思いますが、せめて子育てに関しては夫も参加できる親子教室みたいなものを増やして、自らの目で子どもの育つ環境を見て子育てへの関心を高めてほしい。自営で日曜しか休みがないので日曜にやってほしい。	女性	30 歳代
男女共同参画という言葉がわかりにくい。ざっくりとではなく、具体的な表現でもっとわかりやすくした方がいい。大人だけではなく子どもにもわかりやすく伝えるべきで、女性だけでなく男性に向けての意識啓発の取組みを増やしたほうがいい。男性の意識が変われば女性はもっと自由に活動できると思う。	女性	30 歳代
一般論(女性はこうあるべきだ)を推奨するのではなく、もっと自由に選択できる社会的風土を形成してほしい。「問6 一般的に女性が職業をもつことについて」の設問で一般論を決めてしまうからその枠を意識しすぎてしまうのであり、女性が職業をもつ・もたないにせよ、合う合わないがあるので、もっと幅をもたせてほしい。	女性	30 歳代
私は男女共同参画に賛成です、しかし、男性と女性が区別なく同じであることはいかかなものかと考えます。男は男、女は女、その線引きをある程度行った上で、権利について平等であることが重要であると考えます。行政がその線引きを明確にするのは難しいと思いますが、男性も女性もやりたいことができる社会制度、社会風土になることを願っています。	男性	30 歳代
老若男女がともに意識がもてるような企画を作り、具体的にふれあえる場を設けることが必要だと思います。	男性	30 歳代
はっきりいって認知度が低いし、具合的に「どう変わったのか」が分からない。もっと大きく宣伝、告知してもいいのでは。	男性	30 歳代
男が強いと男中心になり、女が強いと女中心になるのは、人である以上避けることのできない部分なので、意見を聞く場や聞き入れる気持ちを作っていけるような働きかけをしてほしい。男なら女目線で育児・家事の苦労を理解できるような働きかけなど、女性目線・男性目線の理解が必要だと思うので、大変だと思いますが資料や体験の場を作ってもいいかなと思います。	男性	30 歳代
今はもう違うかもしれないが、以前、子どもの学童料金の引き落とし口座に私の口座を指定したら、夫より収入が多いことを証明させられた。夫の口座を指定していれば、そのような証明を依頼されなかっただろうに、男女の差別を強く感じた。保育園に長男が通い出した頃は「お母さんが」という説明だったが、下の子が通っている頃には「お母さんやお父さんが」というような説明に変わり、男女平等を意識したのかと感じた(片親の子どもを意識しているのかもしれない)。	女性	40 歳代
子どもからお年寄りまで男女問わず、男女参画についての知識を学習する場を提供する。	女性	40 歳代
女性が社会に出て、仕事をするのは良いことです。しかし、それを最優先して、出産しないのはおかしい。出産、育児も大切な仕事であり、何よりも最優先されるべきです。その考えを、男性はもちろん、社会全体に広めてほしい。	女性	40 歳代

意見内容	性別	年代
このようなアンケートはありがたいが、今回いろいろなワードを見たという感じで、一般的に広まっているとか、友人たちと話題になるということはあまりない気がする。ここ最近何年かは治療中で働いていないので家にいることが多いが、TV、インターネット、SNS の情報等、不快な情報も多く、一人で問 19 のような何となく不調を抱えていても、周りの人には言うことでもなく、今回このように問いとして上がっていることに、私だけが心の中で抱え込んでいることでもないんだと気づかされ、少し楽になった。市が取り組みを進めているといっても、頑張ってくれているかもしれないが、一般的に浸透していない気がする。でも、良くしようと思っていることは伝わってきた。私も少しでも世の中が良くなることを望んでいる。	女性	40 歳代
外で働く女性と外で働かない女性に対して、偏見があるように思える。仕事を持つ女性は大変で、専業主婦は楽。仕事を持つ女性は忙しく、専業主婦は暇。この固定的な考えを見直さないと男女どちらか女性だけでも共同参画社会にはならないのではないのでしょうか。つまり、家庭の仕事、学校や地域活動も会社の仕事と同等と考え、尊重すべきと考えます。女性が尊重できないことを男性に求めるのは難しいでしょう。最近外で仕事することばかりが重視されているように感じますので(「1億総活躍社会」など)、非常に違和感を感じます。	男性	40 歳代
女性は母親になり、子を育て、家庭を守るのがごく自然なこと。共働きをし、働いても働いてもお金は残らず、家族・家庭が分断されている現代社会は異常、幸福度をもっと感じられる社会に変えるべき。日本人の幸福度指数は大変低い。	男性	40 歳代
高齢者の世帯等にはなかなか浸透しないので、大々的に PR をし、継続していくことで理解は深まると思う。男女平等が女尊男卑になったり、「女の聖域」等の言葉で男性の立場を虐げるような社会にはしないでほしい。	男性	40 歳代
私が転勤族のため、現在夫婦ともに縁もゆかりもない春日井市に住んでおり、近くに支援してくれる親族がいない。このような状況で妻が社会復帰するためには、保育サービスの充実が必要であると考える。安価で安心して子どもを預けられる所の開設が必要である。	男性	40 歳代
女性が社会進出することには賛成ですが、多くの女性が子育ての大半を担っている現状を考えますと、女性の社会進出で子ども達の生活が脅かされないかと危惧しています。無力な子ども達にしわ寄せの来るような社会には決してしてはならないと思います。子ども達が健やかに育ちながら女性も社会に出られるようになることを望みます。それには男性の意識改革は不可欠だと思います。周りをよく見ると、40 代以上の男性は家事にしても意識にしても本当にひどいと思います。子どもを守るということについてもう1点、離婚の多いこの時代、子どもは母親が引き取り育てていることが多いと思いますが、男性は子どもの親であることに変わりはないのに、養育費などを払わず、子育てに対する責任を放棄しているケースをよく見かけます。こういう時代なので、法的に子を養育する強制的制度を作り、子ども達を守るべきだと思います。この世に一人の命を生み出しておきながら、別れた後の責任は取らないという行為は許してはいけないと思います。いろいろな意味で「男尊女卑」、一番弱い子どもが犠牲になる社会は変わっていない気がしてなりません。	女性	50 歳代
私自身に関心がなかったためか「市民生活部男女共同参画課」があるとは知りませんでした。私みたいな者のために、もっともっと広めていただきたいと思っています。	女性	50 歳代
市民一人ひとりが取り組みに参加できたり、意識の向上を図るため啓発する必要があると思います。また、相談できる場所、時間を増やし(早朝、夜間も考えるべき)、相談しやすくすることも必要だと思います。	女性	50 歳代
経済的・体力的・精神的にいずれかが弱くなっている家庭や人が DV を受ける環境にある場合が多いのではないかと思います。カウンセリングなどから出て来る可能性が。男性にも女性にも LGBT にも心理的アドバイザー・カウンセリングなど、システムの充実ができるとよいです。学校(保育園なども)でのジェンダー教育はとても大事だと思います。健康な心で育ててほしい。大人になって性犯罪をしてほしくない。	女性	50 歳代

II 調査の結果【一般市民】

意見内容	性別	年代
男女は性的、平均的特徴があり、違いがあるからおもしろい。平等的発言は混乱を生みかねない。活動のあり方は難しいと思う。人として相手への「思いやり」があれば良い。	男性	50 歳代
男と女とでは、身体、精神的にも違いがあります。すべての物事を半分にすることを平等とは言いません。女性が社会に進出することは素晴らしいことと思いますが、その結果家庭がバラバラになったり、子どもに目が行き届かず非行に走ったりでは、本末転倒かと思います。男のすべきこと、女のすべきこと、まずこれを明確にした上で男女の参画とお考えでしょうか。女性が社会に進出して家庭崩壊など、結果不幸になることがかなりのパーセントで起きています。家庭や主人のせいにはしていますが、女性として、妻として、母親としての責務を果たしてからの進出がベストです。そもそも男と女の身体は違っています。男は子ども産めません。今の平等と言われているのは、まるで男に子どもを産めと言っているように聞こえてなりません。今一度皆で考えませんか。男がすべきこと、女がすべきこと、まずはここからかと思います。	男性	50 歳代
男女共同参画の必要性のアピール、認知度を大幅にアップさせる。男女共同参画の会議体やミーティング、説明会等の実施。市民の参画アピール、年齢を超えたミーティング、会議体の実施。体験やシミュレーション方式も要検討。参画したくなるような具体的なテーマでの参画要請。	男性	50 歳代
小さいうちから幼稚園・小学校・中学校で男女平等を教育して、男女それぞれの良い所をのばして、協力して自分たちの社会をより良くしていくのが希望です。教育を充実して、勉強だけでなく、誰もが自立できるよう教えてほしい。	女性	60 歳以上
社会や地域が、男女平等という考え方が広まっても、年配の男性の考え方(「女は家にいる」)はそう簡単には変わらないと思います。自分も主人に対してすごく我慢しているところがありますが、民生委員をしています、我慢しているのは私だけではないとよく感じます。	女性	60 歳以上
いろいろな場所で会合を開く。町内会などにも宣伝していったくさんの人の参加を求める。高齢化するこれからのことも考えて、若い人たちとの交流、男女のことも気軽に参加できるようにしていく。	女性	60 歳以上
こうしたアンケートから個々の意識状況をくみ取っていただけることは春日井市の市民の状況がわかり、男女共同参画に良いことと思います。私は 40 年近く名古屋市で公務員として働いてきました。女性が働き続けることは良いことですが、公務員でしたので続けてこれました。社会全般の企業ではまだまだ女性が男性同様に働き続けることは大変です。女性同士でも理解、応援がなく、ひっぱり合っている話も聞きます。女性の意識も変わり、成長しないといけませんね。	女性	60 歳以上
すべての場所、場面で、男女が平等に扱われることが望ましいとは思いますが、身体的に男女は同じではありません。男らしく女らしくではなくて、男は男にしかできない、例えば、体力的な場合に男を發揮し、女は身体的に休まなければならない日があるように、平等にはならないと思います。いろいろな条件のもと、すべての人のやさしい心が加わって平等になされると良いと思います。	女性	60 歳以上
男女が平等で互いに協力し合い楽しい家庭・職場が築けたら、どんなに素晴らしい社会ができるだろうと思います。まだまだ年月が浅く男女が平等になるには大変ですが、地道な周知活動が一番重要ではないかと思います。	男性	60 歳以上
もっと宗教心を取り入れ、子どもの頃から心の成長に重きを置く教育をすべきだ。心の成長が人間の成長と正比例する。どんなに知識を詰め込んでもそれは両刃の刃になる可能性が高く、やさしい社会への実現にはならないと思う。一番大切なのは、心持ちの教育である。心があればどれだけでも成長はできる。	男性	60 歳以上
市単独では限界あり。広域での連携事業や国・県のモデル事業・実証実験への参画など、幅の広い取り組みが必要。市内及び近隣(尾張東部)の企業参画を促す取り組み。名古屋市の中堅や比較的大規模な先進的取り組みを行っている企業経営者の参画を得て、理解を深めていくことが重要。経営者の意識改革がポイント。	男性	60 歳以上
結婚や子育て、家庭を持つことを前向きにとらえる意識の啓発を積極的に進めるべき。	男性	60 歳以上

意見内容	性別	年代
そんなに男女ともに男女ともに、力まなくてもよいのではないのでしょうか。女性もすべての人が働いているわけではなく、男性に育児を押しつけている感じがしています。それに子どもがいるから働けないと力説されますが、産むだけ産んだら後は保育園に入れて自分が働くのが希望ですよね。子どもの成長をみられる育児は楽しいではないですか。育児は一生続きません。子どもが成長すれば、親の介護、人生皆めぐりながら一生と思います。育児休暇、産休、介護の休暇なんて公務員か大企業の行っていることです。そんなに働きたいなら子ども産まず、結婚もせず、一生一人でいればよいのではないのでしょうか。皆が納得できることなんてないと思います。自分が大切なのはわかりますが、個人の主張ばかりしては、まとまるものもまとまりません。自分大好きな人は他人には思いやりがないと思っています。	男性	60歳以上
設問全体を通して「男女平等とは男性も女性も立場が同じになることであり、そのためにはどうしたらよいか」ということを問われているように思えたが、男女平等とはそれ程単純ではないはず。このアンケート結果から春日井市としての「男女平等」のビジョンを考えるとしたらそれは誤りであり、それ以前に春日井市としての「男女平等」のあり方を示すべきだと思います。	男性	60歳以上

Ⅱ 就業における男女共同参画の推進

意見内容	性別	年代
私が以前働いていた美容室は「男だから」「女だから」「バイトだから」「社員だから」といった差別が目立ち、私を含め何人もの方が離れていきました。特に、美容室という環境は「女性」にやってほしいなどの要望が多くあり、今ではとある店舗が男性スタッフのみになってしまい、お客様も離れていきました。女性は人生において結婚や出産、育児などたくさんイベントがあり、家族だけでなく職場の理解も必要だと思います。アルバイトやパートでも「休暇」という制度をつくる職場がもう少し増えれば、働ける方も増えるのではないかなと思います。正直、男の人と女の方は生まれもった姿から力から何から全く違うので、完全になくなるのは無理だと思いますが。	女性	20歳代
職場に関しては、男性にとっても女性にとっても働きやすい場であることが大切だと思います。そのためには、社会全体で男女がともに参画できるまちづくりを進めていこうという意識をもち、育児休業を取得しやすい雰囲気づくり、周りの理解、奨励が必要になると思います。	女性	20歳代
子どもができて、私自身「女性、男性らしく」という言葉が昔から苦手で、子どもにも関係なく、自分の思うように育ててほしいと思っている。夫はとても子育てに協力的で子どもが大好きだが、仕事上帰りが遅く、いつも帰宅すると子どもは眠っているので淋しそう。もし母親(女性)であれば、職場の人は「お子さんが待っているから早く帰ってあげて」と言ってくれると思う。会社が男性にも子育ての協力について考えてくれればいいのになと思う。育児、家事については、できる人がする。夫婦(パパママ、カップル)で参加できるイベントがもっとあればいいと思う。	女性	20歳代
現在会社員として働いており、11月出産予定でちょうど産休に入ったところです。つわりがひどかった安定期前は、上司の理解がまったくなく、つらい思いをしました。今後も保育園に無事入れるのか、不定休の仕事でうまく家庭と仕事の両立ができるのか、など不安がいっぱいです。まだまだ前例が少ないというのがありますが、土日休みでなく、夜遅くまで働いていたこともあり、想像ができないものもあります。春日井市はこんな支援を受けることができます、などの情報を受け取ることができたらうれしく思います。旦那さんは病院で働いていますが、院内に託児所があるのに、奥さん側が働いていないと利用できないという制限があるのも悲しいなと思っています。今後、より自由に働けるようなシステムができていくことを願っています。	女性	20歳代
名古屋市のような子どもを預かってくれるトワイライトのような所を作ってほしい。現在の「放課後なかよし教室」だとお迎えが16時半だと16時までしか働けない。夏休みも働けないので大変困っている。結局働くため子どもだけを家においていくので心配である。小牧市のような児童館もないので、安心して遊べる所もない。春日井市は子育てしにくい市だと思う。女性が働きにくい市だと思う。	女性	30歳代

II 調査の結果【一般市民】

意見内容	性別	年代
<p>下の子が年中になりようやく落ち着いたので働こうと考えていますが、主人が単身赴任でおらず実家も遠く、いざという時に頼れる人がいないので、働くことにためらいがあります。ママ友にもそんな人が多いです。働く場所はありそうだけど、子どもが風邪をひいたり何かあった時に嫌な顔をせず休ませてくれたり早退させてくれるような会社が増えると、女性もどんどん社会に出られるのではないのでしょうか。</p>	女性	30 歳代
<p>女性が結婚・出産を機に仕事をやめざるを得ない状況に、本人にとっても会社にとっても残念だと感じます。一度仕事を手離してしまうと正社員で再就職というのはとても難しい状況もあり、まずは会社に産休・育休をきちんと取得できる環境を整えてもらい、かつ行政には保育所などの子育て支援を充実してもらいたいです。仕事に復帰するにあたって子どもを預けられるかという不安がつきまとい、会社にもいつ戻れるか確定して伝えることもできません。1才6か月からなら申し込みれば確実に預けられるぐらいの安心材料がほしいです(預けられるか不安だから、皆早め早めに0歳児から預けようという気持ちになってしまうと思います)。また、保育時間も朝7時から夜 19 時ぐらいまでないと、フルタイム勤務者にはきついです。男性が仕事中心で育休などを取りにくい状況にある以上、女性に過度な負担がかからないよう支援体制を整えてほしいと願います。</p>	女性	30 歳代
<p>「少子化だから出産せよ」と世の中は言うが、職場復帰後すぐに妊娠したら職場での立場がない。出産しても子育て支援が充実していないから女性が負担をこうむっている。もっと海外のように育児も家事も男性が参加してくれないと日本の母親は疲れてしまう。専業主婦の私でもストレスと孤独を強く感じる。今後仕事復帰したいが、やっていけるのか不安でたまらない。なぜ育児と家事を女性がやるのが当たり前で、男性がやっているといクメンなのか。育児、家事、仕事の両立は男性もすべきなのではないかと思う。専業主婦で育児をすることに憧れていたが、現実はそう甘くないということを教育すべきだし、高齢出産のリスクも教育すべきだと思う。妊娠、出産、育児と仕事、家事の両立を男性もできる世の中になったら、女性は社会でもっと活躍できると思う。</p>	女性	30 歳代
<p>子どもを持つ母親が働くことのできる時間帯はほとんどの人が同じだと思います。例えば 10 時～14 時・15 時、週3～4日、土日休み。しかし、この時間帯で勤務できる職場はほとんどないか、かなり少ないのではないのでしょうか。子育て中のママの働ける職場を増やすような取組みを市が先頭に立って広めていってもらえると助かります。市内の企業に働きかけて協力を要請して子育て家庭応援企業を認定するとか。実際私も資格を活かして働きたいのですが、その条件で働ける所はありません。</p>	女性	30 歳代
<p>働くお母さんが増えて、保育園が不足しているので、今後増えると助かるし、お母さんたちも安心して働けると思います。</p>	女性	30 歳代
<p>私の妻は名古屋市内の会社に勤めておりますが、育児休暇や時短での勤務形態などが充実しています。それでもやはり、子育てしながら働くということはストレスが大きくなってきます。パート、アルバイトの場合は急な休みなどをする場合、解雇される原因となるようなイメージがあるので、会社を辞めて自宅付近のパート、アルバイトへの転職には悩むところはあります。自分自身においては会社、上長ともに子育てへの配慮が大きくなされているため非常に助かっておりますが、こういった会社はまだまだ少ないため、会社の大小に関わらず自治体から強制的に動いたほうが幸せになる人は増えるかと感じます。</p>	男性	30 歳代
<p>いまだに男性は仕事、女性は家庭というイメージが強い。また、自分もそうだが、家事に参加したくても職場の理解がないことが多い。職場に対して何かしらの働きかけが必要。</p>	男性	30 歳代
<p>男女共同参画社会という言葉自体やその大まかな目的はよく耳にはするが、具体的にどういった社会を目指しているのか、今のところ説得力のある現実的な話を聞いたことはない。育児休業制度といっても、大多数の中小・零細企業では取得が不可能な現実や、出産時にはどうしても休むことが必要になる女性と、主戦力として雇用することが難しいと判断せざるを得ない企業、このような企業が大多数の中、雇用機会均等を法律で決めようがどうしようが、社会は変わりようがないと思いま</p>	男性	30 歳代

す。		
----	--	--

II 調査の結果【一般市民】

意見内容	性別	年代
働く時間について、いろいろと時間を調整しやすくなるというのも働くためには必要。子どもは突然熱を出したり、園などへの出席のため、働く職場で理解してもらえる環境ができてほしい。	女性	40 歳代
公務員は男女関係なく平等で仕事ができる環境が整っていると思うが、一般企業、特に零細・中小企業は子育てをしている女性にとって働きづらいと思う。子育て支援の充実をしてほしいと感じています。男女ともに経済的に自立するという意識が必要だと思います。	女性	40 歳代
女性の社会進出が叫ばれていますが、子どもをもつ女性としては、夫の長時間労働や家事・育児への参加意識の低さから、女性の負担を増加させるということに気づいてほしいです。働きたくてもその負担を考えると、なかなか次の一歩を踏み出す勇気は出ません。それと家事・育児をしている専業主婦をもう少し尊重してほしいです。配偶者控除の見直しが検討されていますが、幼い子どもがいて夫も会社にとられ、ほぼ一人で育児している主婦が多い中で、配偶者控除までなくなってしまうたら主婦の存在は軽んじられているようでならないです。簡単に主婦の社会進出を推し進めるようなことはやめていただきたいです。男性側の働き方、主婦の仕事への優遇、子ども支援(預けられる環境)等をまず整えてから、主婦(女性)の社会進出を提唱してもらいたいです。	女性	40 歳代
「子どもは母親が家で」と表現する際、どのくらいの期間を想定するか人によって大きく違うと思います。私の周りでは「3歳までは母親が家庭で」という考え方・線引きをしている人が多いように感じますが、アンケートの選択肢や計画策定の検討プロセスにおいて明確にすべきではないでしょうか。「母親は就職せず子育てを」といった考えを否定する人は多いと思いますが、一方で「3歳までは母親が家庭で」といった考えを持つ人も多いと思います。もしそれが事実であれば、ひらすら保育施策を進めるのではなく、育休や再就職に対する促進策を検討するなど対応も違ってくると思います。こういった計画が行政責任のアリバイづくりで旗振り役に終わらないことを期待します。実際に各課施策に反映されるだけでなく、各課施策間でどこに重点を置くか、市レベルの判断につながることを期待します。	男性	40 歳代
市の職員は比較的男女がともに働きやすい環境にあると思うので、企業に対しノウハウをもっと伝えてほしい。	男性	40 歳代
性別による格差をなくし、平等を実現すべきであるのは当然のことだと思いますが、それを例えば、子どもが小さいうちから保育所に預けて共働きできるようにするのが良いことだ、というような話に結びつける風潮には非常に違和感があります。男女平等や男女共同参画社会の美名のもとに、GDP向上のみを追求したくて話をすり替えているように感じることもさえます。そして、それらに反論するのは古い頭の悪だとするような雰囲気は、むしろ社会として危険な気がします。どうして必ず仕事が最重視されるような論調になるのでしょうか。夫婦が平等に社会参加することは、女性が子どもを預けてでも仕事をできるようにするよりも、男性が仕事を減らして家庭にもっと時間を費やすようにすることで実現する方がずっと健全で幸福なことのように思います。そして、もっと子どもたちの視点でも考えるべきだと思います。	男性	40 歳代
第2子の出産にともない産休を取得した。その際長男の保育園を退園しなければならなくなった。嫁の仕事復帰を阻む施策と言わざるをえない。	男性	40 歳代
職場において男女社員が優遇されパートタイマーとの大差があります。有休一つ使うにも、できなくて困っています。男女共同参画の方針の上で職場の労働条件・労働環境を改善していただきたいと思っています。	女性	50 歳代
男女平等は個々の考え方が違う限りとても難しいと思います。職場では女性が男性と同じように責任のある仕事を任せられ同じように働こうとしても、家庭で家事、育児の協力者がいなければ思うように働くことができない場合もあります。待機児童問題も最近よく耳にしますが、私は未満児は母親または父親が育児をしてほしいです(常に子どものそばにいてあげてほしい)。ですから、職場側がもっと育児休暇に力を入れてほしいです。日々の生活の中で誰もが、女だから男だからということでの不満は多少あるのではないかと思います。できる限り大勢の市民の声をお聞きいただきたいと思	女性	50 歳代

います。		
------	--	--

意見内容	性別	年代
個人としては、育児休業制度は賛成ですが、中小企業にとっては、代替要員の確保、職場復帰後の人件費など、大きな費用負担になる。	男性	50 歳代
働きたくても前年の収入実績が無いため保育園入園の申請ができない女性をご近所にいます。能力がある方が、育児のためその力を発揮できないのは、もったいないことだと思います。私は経済的に恵まれていたので、働くことを考えず、趣味の世界で楽しんできましたが、今の若い世代には、経済的にもそれは無理かと思う一方、春日井の文化向上のための資質も失われていくのではと思います。事実、今回の市民展においても、参加者減少、実績も質が落ちたように思われますが、男女が働くことで経済の向上・文化の向上につながるのではと思います。他自治体に従うのではなく、「さすが春日井市」と他に見本になるような良きリーダー的なものを指導してほしいものです。マスコミに取り上げられるような画期的な案は無いのでしょうか。	女性	60 歳以上
共働き家庭において、まだまだ女性の育児、仕事の負担が多く、女性にとっては働き続けるのが難しい社会です。男女が生き生きと生活ができる生活環境の整備をよろしく願います。	女性	60 歳以上
女性が働きやすい職場環境の整備とともに、出産、育児、介護などのライフステージに応じた女性の就業継続、再就業、支援を積極的に進める。	男性	60 歳以上

Ⅲ 地域における男女共同参画の促進

意見内容	性別	年代
地域の祭りや風習などでは、男性がメインになることや優遇されることが多いような気がする。社会的なことにおいても、女性は女性らしくというような考え方の方が多いと思う。割と若い世代はそこまで性別に関して差別的なことがあるとは思わないが、ある程度の年齢以上では差別があるように感じる。私自身は 20 代だが、教育の面では男女変わりなく教育を受けてきたと思います。なので、若い世代への啓発活動よりも、今なお残る伝統や古き良き文化などという固定概念を持つ年齢層が高めな方々に、新しい社会について理解してもらうことが重要だと思います。平等な社会になれば、性別を気にしなくてもよい生活が送れるようになると思う。	男性	20 歳代
地域活動について参加したり意見できる場があるなら、もっと PR して情報が入ってくるようにしてほしい。	男性	30 歳代
学校の PTA での活動について、主に女性になっていて、働いている場合、仕事を休まなければならないという負担がある。PTA 役員だけに負担がある。PTA の活動はそもそも意味があるのかが疑問です。役員だけが半ば強制的に参加しているような気がします。PTA という枠組みを外して学校行事を考えるべきではと思います。	女性	40 歳代
地域ぐるみで子どもを育てる環境があったら良いと思います。「少し子どもを見ていてください」と頼まれたり、交流がもてたら良いと思います。	女性	40 歳代
母子家庭(または父子家庭)におけるスポ少の参加をしやすくする。スポ少等に参加したくても母親(または父親)が仕事で参加ができない場合が多い(手伝いができないためなど)。	男性	40 歳代

II 調査の結果【一般市民】

IV 人権が尊重される社会の実現

意見内容	性別	年代
DV の相談窓口の充実。暴力だけでなく言葉の暴力もあることから、精神的なダメージのある人への対応の仕方。具体的には、モラハラは外見では判断しづらい。思っているよりダメージを食らっている場合も多いため、相手をフォローする対応が必要だと思う。	女性	20 歳代
男性・女性という意識だけでなく、各々、個人が必要な時にどんな人でも抵抗なく頼れる支援や制度が必要だと思う。その上で、人々の意識で「男だから、女だから、障がい者だから、高齢者だから、若者だから」等の意識の垣根が低くなることは必要だと思う。	女性	30 歳代
男性・女性にかかわらず、その人が望む働き方、人の生き方を実現できる社会になるのが望ましい。どんな労働でも最低限人間らしい生活が送れる賃金を保障すべき。現在はそれすら破綻している。そして、女性を安く使える労働力として社会に送り出そうとしている。移民や外国人労働者の代わりに家庭の主婦を使おうと思っている。そういうことの方に女性の活躍とか男女平等とかうたってほしくない。男女平等なら男性だってもっと自由に働き方を選べるべきだ。若者に人間らしい賃金を、母子家庭に十分な手当を、貧困の解消、教育の保証、その辺のところをまずどうにかしないと男女平等なんて実現しない。	女性	40 歳代
学校教育の中で個性差を学びつつ、人権・人格を尊重することを小さいうちから学ぶ機会を考える。それには教育指導側が意識を変えないといけない。先生方の責任が大きく、また、学習をしないとけないと思う。	男性	40 歳代
公的機関(保健所など)による無料の研修会、出産時の母親教室のような、母親のみでなく、子育てに関わる家庭、子育ての援助者に対しての研修、勉強会等を提供してほしい。子育てや相談窓口については、平日日中ばかりでなく、夜間、土・日曜の、一般業務に就業中、外でも利用できる時間帯の窓口、電話受付を設けてほしい。小・中学校の義務教育の一環としてすべての子どもに「子どもの権利条約」を認知させてほしい。子どもたちに人間として生きる権利を自覚させることにより、他者の尊重、男女、老若すべての人間に対する平等、個の尊重を基に自立した人間育成の基盤となると思っています。男女の前にすべての人の人間尊重・人権を。	女性	60 歳以上

V 家庭生活における男女共同参画の促進

意見内容	性別	年代
男女とも家庭を見つめる時間を増やすことだと思います。私は独身の頃は上場企業のIT系の会社で働き、毎日残業、時には徹夜で作業をするなど男性社員と肩を並べ働き、それなりの役職にもつきました。その後結婚を機に夫となる人が住んでいた県に引っ越しのため仕事も辞め、入籍後すぐ妊娠したので、引っ越し先で仕事をするのもなく出産、育児となりました。そして思ったことは、知らない土地で子育てをするのはとても大変であるということ。育児が私にとってはIT時代の時よりもかなりきつと思ったこと、それに家事も加わっていることで第1子の時は本当にきつかったです。そのきつさを夫は知らないで協力してくれない。「1日中家にいるのに何が大変なの」と聞かれたことがあり、その時思わず、「仕事のきつさも家事のきつさも両方わかっている私にどの面さげてそんなこと言えるのか」と言ってしまったほど。まずは家事育児の大変さを共有することが必要ではないでしょうか。今の若い人たちはあまり男女差別がないように思います。年齢が上がっていくほど差別意識は高くなっているように思います。そういった人々への意識改革も必要です。	女性	30 歳代
共働きが当たり前の時代。非正規雇用が増え、結婚子どもを養っていけるのかと不安な若者が多い時代。息子には家事の出来る夫になってほしいので、今から教えています。家事は女がやるものという考えは古い。ただ、夫は古い考えの持ち主なので、短時間パートで仕事と家事と介護を頑張っています。女性の働き方はパートナー次第だと思います。	女性	40 歳代

意見内容	性別	年代
<p>できるならば、自分は専業主婦でいたかった。子が小さいうちは家でおやつを作り、会話のある子育てをしたいと思っていた。しかし、収入を得るために夫と働かなくてはならず、朝から晩まで長時間労働だったので子どもとられる時間はごくわずかだった。時計を元に戻せるならば、夫一人に仕事を任せ子育てをやり直したいと思う。満足なことをしてやれなかった子ども達に申し訳ない気持ちでいっぱいだ。時間に追われる生活だったために、いつも子どもを追いたてるように家事をこなして過ぎてしまった。これから子育てをする若い夫婦には、子育てを楽しんでもらいたい。大変な時期は実は最高に幸せな時期でもある。あどけない寝顔も今ではもう見られない。できれば母親が子育てをしてあげられる期間が少しでも長くゆっくり取れるように、そんな社会になればいい。お迎えが遅くなった時の淋しそうな顔は今でもはっきり覚えています。</p>	女性	40 歳代
<p>「明るい未来のために」、次世代を担う、子どもを育てるという視点から、男性は母親に育児をまかせきりにしないで、一緒に協力して子育てをすることが大切だと思います。それは、子育てを分担して取り組むのではなく、すべての事柄について話し合い、悩みごと苦労もそして喜びも夫婦や家族全体で分かち合い、子どもを育てるとい、日本人が昔からやってきた子育てを実現していくべきだと思います。そのためには行政はもっとお金も人も時間も子どもたちのためにたくさんのエネルギーを使い(放っておいても子どもは自分で大きくなって大人になっていきますが、放っておいては立派な大人になれない場合も多いのです)、もっともっと子育て支援を、子育て中の家庭、特に母親に対する支援を行っていただきたい。そして、それを認め合える社会を育成していきたいと思っています。その基本が各家庭における夫婦、家族の協力、それが男女共同参画によって成し得るものと感じています。各家庭の意識が変われば、社会全体の風潮も自然に変わってくると思います。</p>	女性	50 歳代

Ⅵ 意思決定過程への女性の参画

意見内容	性別	年代
市長、副市長、議長を女性にする。	男性	30 歳代
区・町内会の役について、女性も参加ができるように。女性の立場からの意見等も参考になればと思います。	女性	60 歳以上
市会議員の男女の活躍の実態はどうなっているか。	男性	60 歳以上

